

刑
磨
言
義

鶴
網
三
代
立
牝
筆
記

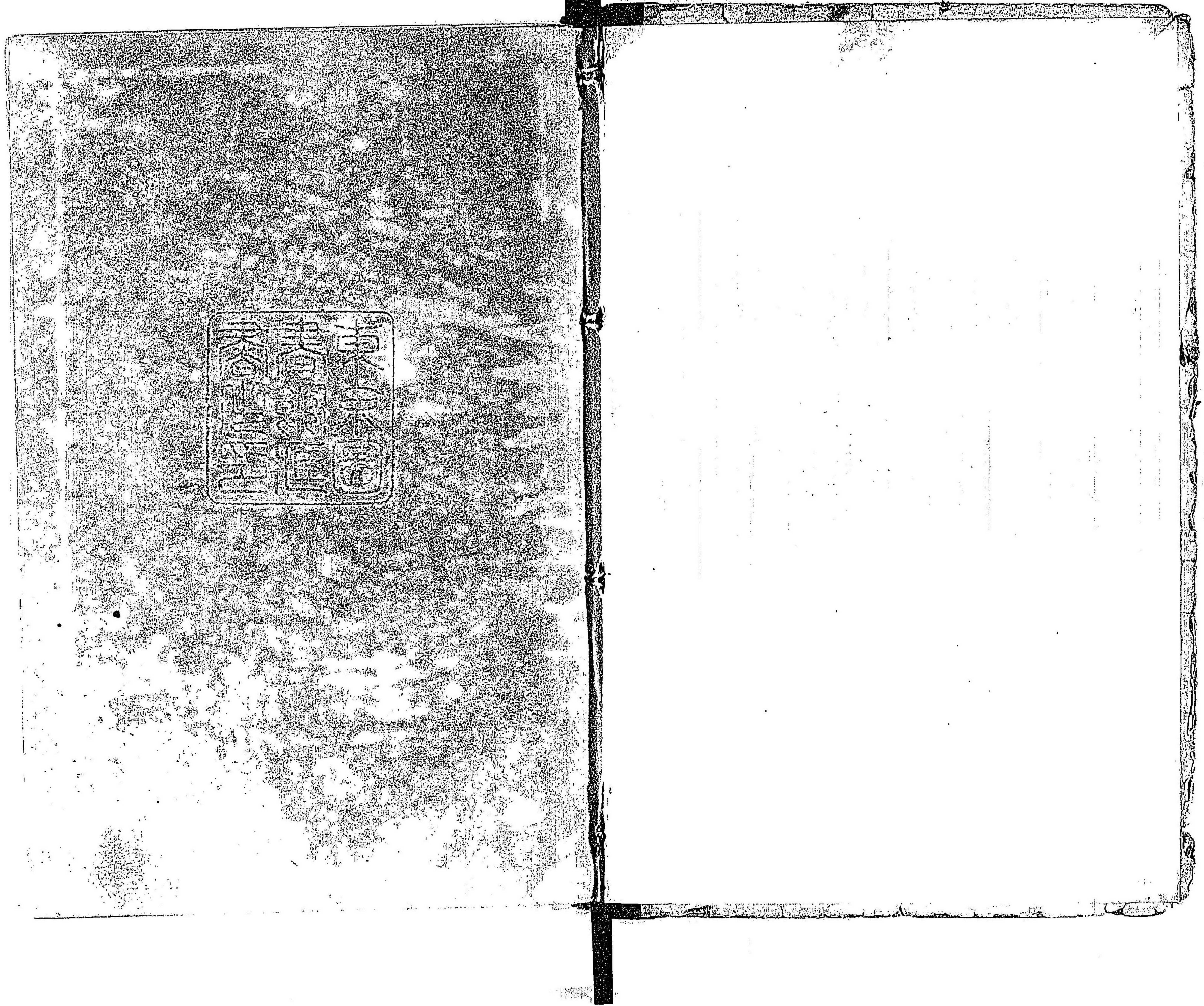
京
京

新
門
三
八
圖

部	類
架	號

版
權
免
許

寧
靜
軒
出
板



Seal containing Chinese characters, likely a library or collection stamp.

16
295

鶴岡 澄口 述
三代 玄牝 筆記

刑 濶 講 義

版權
免許

寧靜軒
出版

刑法講義目錄

第一編總則

第一章 法例

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 懲罰處分

第五節 刑期計算

第六節 假出獄

(自第一條
至第一百十五條

(自第一條
至第五條

(自第六條
至第六十五條

(自第六條
至第十一條

(自第十二條
至第三十條

(自第三十一條
至第四十四條

(自第四十五條
至第四十八條

(自第四十九條
至第五十二條

(自第五十三條
至第五十七條

一ヨリ二マテ

三ヨリ廿五マテ

廿六ヨリ卅二迄

卅三ヨリ四十二迄

四十三ヨリ九十一迄

九十二ヨリ一三四迄

一三五ヨリ一四五迄

一四六ヨリ一五五迄

一五六ヨリ一六一迄

第七節	期滿免除	(自第五十八條 至第六十二條)	一六二ヨリ一七八迄
第八節	復權	(自第六十三條 至第六十五條)	一七九ヨリ一八五迄
第三章	加減例	(自第六十六條 至第七十四條)	一八六ヨリ二〇二迄
第四章	不論罪及ヒ宥恕減輕	(自第七十五條 至第九十條)	二〇三ヨリ二四〇迄
第一節	不論罪及宥如減輕	(自第七十五條 至第八十四條)	二四一ヨリ二四九迄
第二節	自首減輕	(自第八十五條 至第八十八條)	二五〇ヨリ二五二迄
第三節	酌量減輕	(自第八十九條 至第九十條)	二五三ヨリ二七三迄
第五章	再犯加重	(自第九十一條 至第九十八條)	二七四ヨリ二七六迄
第六章	加減順序	第九十九條	二七七ヨリ二九二迄
第七章	數罪俱發	(自第一百條 至第一百三條)	

第八章	數人共犯	(自第一百四條 至第一百十條)	二九三ヨリ三〇八迄
第一節	正犯	(自第一百四條 至第一百八條)	三〇九ヨリ三一四迄
第二節	從犯	(自第一百九條 至第一百十條)	三一五ヨリ三二八迄
第九章	未遂犯罪	(自第一百一十一條 至第一百十三條)	三二九ヨリ三三六迄
第十章	親屬例	(自第一百四條 至第一百五條)	

叙

蓋シ法律ハ無形學ノ一ニシテ深遠無疆其律境ニ達スルヤ甚ダ難タシ
其濫奧固ヨリ一舉シテ能ク至ル所ニ非ス加ルニ人ハ活物ナリ進退屈
伸意想ノ動作常ニ變換セサルヲ得ス從テ犯罪モ亦タ千狀万態一々之
ヲ指定シテ其罪名ヲ究据スル能ハスト雖モ豫メ其大綱ヲ舉テ之ヲ包
括シ以テ其用方ヲ活動セシムルヲ要ス若シ之ヲ用ヒテ毫モ失誤アレ
ハ正理公道ニ抵觸ス故ニ 聖王ノ政刑法ヲ大ナリトス傳ニ曰ク欽哉
欽哉惟刑之恤ト然レハ則チ斷刑ハ古今ノ難シトスル所ナリ茲ニ鶴岡
澄氏毎ニ休曜ヲ安セス軼掌公務ノ餘間刑法ヲ講セリ 予其說ヲ記シテ
備忘録ト爲ス一日書坊 予ニ謀テ曰ク獨リ座傍ニ備ヘンヨリ寧ロ上梓
セント 予モ亦タ鶴岡氏ニ謀ル同氏曰ク既ニ陳言セシハ我カ有ニ非サ
レト 予亦講演何ソ公衆ヲ益スルニ足ラン却テ大方ノ笑ヲ求ムルノ

二

ミト予曰ク法律ノ淵源タル漸ク入テ漸ク深シ假令足ラサル所アルモ初學ノ爲メニ少補ナシト謂フヘカラス況ヤ君ノ素志ニ於テチヤト遂ニ書坊ノ需メニ應シ以テ世ニ公ニセント欲ス而シテ魯魚ノ錯誤及ヒ彼此矛盾前後通セサルコ有ルカ如キハ予カ淺陋不文ノ罪ナリ覽者ソレ之ヲ諒セヨ

明治十三年十一月日

出雲 三代玄化 識

三

不肖^賤濫リニ審司ノ末ニ列スルモ淺智短才學識ニ乏シク法律ノ主旨ノ深遠ナル固ヨリ其濫與ヲ窺知シ得ル所ニ非サルヲ以テ立法ノ原旨ヲ誤解シ條理慣例ノ存スル所ヲ誤認シ職名ヲ汚瀆シテ罪ヲ社會ニ得ンコトヲ憂フル久シ然リ而シテ今又刑法治罪法ヲ頒布セラル其成立ヲ窺フニ文明諸國ノ法律ヲ參酌シ其善良ヲ採テ以テ固有ノ國憲ト慣例トニ基キシモノナレハ實ニ完全無缺ノ一大美典ナリト雖モ治罪ノ方法緻密ニシテ罪ニ適切ノ刑ヲ實施スルノ難キ亦舊時ノ比ニ非ス豈ニ一層ノ恐懼ヲ増サ、ラント欲スルモ得ヘケンヤ爰ヲ以テ今同志ノ諸君ト茲ニ會合シ立法ノ原旨ヲ原テ法律ノ精神意義ノ存スル所ヲ深究セント欲スルニ際シ豈圖ラン諸君ノ推薦辭スルニ由ナク賤劣ヲ願ミス暫ク會頭ノ席ヲ汚シ佛國法律博士ボアソナード氏ヲ始メ内外諸學士ノ論說ヲ參酌シ自ラ信スル所ヲ述テ以テ刑法ノ講義ヲ始ム然リト

雖モ夫ノ學士ノ論說タルヤ直チニ此刑法ニ就テ論述セシモノニ非ス
他書ニ散見スル所チ斟酌シ卑見チ加ヘテ口演スルモノナレハ固ヨリ
誤謬ノ見解タルチ免カレズ諸君請フ此意チ了シ幸ニ呵正ノ勞チ惜ム
ナシソハ幸甚

明治十三年十一月日

刑法講義

南總 鶴岡 暎 講義
出雲 三代 玄化 記聞

抑刑法ヲ講究セント欲スル者ハ必ス先ツ法律ノ沿革ヲ探究セサルヘ
カラス然リト雖モ本邦古昔風俗簡易ヲ貴ヒ人情敦樸ヲ重ンシ成法ノ
公示セラレシモノ少キノミナラス文書散逸シテ其詳細ヲ知ルニ由シ
ナキヲ以テ爰ニ其大要ヲ述ヘン

謹テ國史ヲ按スルニ應神天皇ノ御宇始メテ文敎興リ仁德天皇ノ十年
ニ至リ爰ニ始メテ課役ヲ科ストアレハ當時漸ク法律ヲ創定セラレタ
ルカ如シ推古天皇ノ十一年ニ冠位十二階ヲ定メ其次年ヲ以テ憲法十
七條ヲ定ム是レ實ニ本邦成文律ノ始メナルヘシ孝德天皇大化五年ニ
至テ十九官ヲ制シ八省百官ヲ置キ制度粗整ヒ法律稍備ハリ齊明天皇

白雉十五年冠位二十六階ヲ増制ス天智天皇白雉二十一年戶籍法ヲ正
 ス此時漸ク完全シ文武天皇大寶二年ニ至テ之ヲ頒布セラル之ヲ大寶
 律令ト爲ス而シテ其令ハ今尙ホ遺存シ本邦律例ノ基礎ト爲リシモノ
 ト雖モ其律ノ如キハ散佚シテ傳ハラス桓武天皇延暦十六年令格四十
 五條ヲ頒布嵯峨天皇弘仁格ヲ施行シ淳和天皇ノ新撰格式清和天皇ノ
 貞觀格式醍醐天皇ノ延喜式等ノ如キ今日ノ所謂刑法民法ノ類ニシテ
 文武帝ヨリ醍醐天皇ノ朝ニ至ル迄凡ソ七百年天下皆之ヲ遵守ス降テ
 武門封建ノ世ニ移リ令格式ノ三法ハ行ハレサルモ綱り律ノミハ遵奉
 セラレ源氏北條氏ト雖モ敢テ其規矩ヲ踰ヘサリシカ如シ足利氏ノ中
 世ニ至テ諸國ノ刑法國守ノ武斷ニ出テ各其寬嚴ヲ異ニシ天下舉テ大
 寶律令アルヲ知ラサルニ至レリ是レ戰時專ラ軍律ヲ嚴ニシ以テ遂ニ
 一般ノ刑律ヲモ之ニ引援比附セラレタルモノナルヘシト思ハル是レ

實ニ本邦武門ノ中世ヨリ刑法成文ナク民生ヲ君主ノ恩威ニ托シタル
 原由ナリ徳川氏斯ノ如ク刑法成文ナキノ大缺典タルヲ憂ヒ寛永八年
 刑局ノ規則十三條ヲ設ケ元和條目ヲ改定シ次テ寛永定法ヲ設ク是レ
 實ニ今日ノ治罪法ト刑法トナ一活シテ其要領ヲ示シタル者ノ如シ而
 シテ正徳五年憲則十一條ヲ定メ元文二年評定所ノ法章三百七十條ヲ
 設ケ寛保二年定書二卷三百六十二條ヲ撰定シ明和四年則科類典十一
 卷ニテ令八十一條科目百三則例十一則及ヒ目錄等ヲ設置シ寛政二年
 令條五十九則科目四十一則ヲ定メ之ヲ寛政更張刑典ト稱ス天保十四
 年金穀貸借聽斷條規十則ヲ設ケ文久二年赦律一卷ヲ撰ム徳川氏ノ立
 法此ニ終ルト雖モ該典ハ皆評定所ノ秘典ニシテ徳川氏ノ世ヲ終ルマ
 テ之ヲ世上ニ公示セス當該官吏ノ外知ルヲ得サラシム是レ本邦法律
 ハ專ラ有司ノ學フヘキモノニシテ一般人民之ヲ講究スルヲ要セサル

ノ俗ヲ成シタル所以ナリ

今上皇帝夙ニ法律ノ其宜ヲ得サルヲ憂ヒ明治三年十二月ヲ以テ新律綱領六卷ヲ頒布セラル其編纂タル明律ト我カ國憲及ヒ武門律トヲ參酌シ苛ヲ去リ寛ニ就キタルヲ以テ國民著ク幸福ヲ得テ漸ク大寶律ノ行ハレシ昔時ニ復シテ更ニ身体生命財産ノ安全ヲ保護スルノ厚キヲ覺ヘタリ此ニ於テ始メテ彼ノ武門律ノ處刑タル釜熱鋸引磔火殺獄門打首以上死刑三遠島三追放三拂入牢手錠流刑禁錮敲入墨等ノ加虐刑及ヒ科料ノ刑ハ盡ク廢棄セラレ梟首斬絞自裁ノ四死三流五徒六杖五笞ノ刑ニ換ヘ名例職制戸婚賊盜人命鬥毆罵詈訴訟受賍詐欺犯姦雜犯捕亡斷獄等ノ十六律總テ一百九十二條ヲ創定シ之ヲ實施スル二年有餘又改定律例ノ頒行アリ其成立タルヤ固有ノ國憲ニ原キ明清其他諸國ノ定律ヲ酌ニ時勢ヲ量リ綱領ノ目ニ從ヒ總テ三百十八條ヲ撰定シ以

テ其說アリト雖モ右ノ律例ハ治罪法ト刑法トヲ包含セシモノナルヲ以テ人文ノ進度ニ從ヒ彌其改別ヲ緊要ナリトシ時々ノ布告ヲ以テ之ヲ改定シタリ其最モ著シキ者ヲ舉レハ口供甘結ヲ廢シテ斷罪依証律ニ改メ拷訊ヲ廢シ梟首ヲ除キ保釋ヲ聽シ行政司法警察ノ規則ヲ設ケ上告ヲ許シタルカ如キ善美ノ改正一ニシテ止ラス終ニ明治十三年七月十七日ヲ以テ刑法治罪法ヲ頒布セラレタリ此ニ於テ本邦古今未曾有ノ一大美典ヲ得公衆ノ幸福焉ヨリ大ナルハナシト謂ツヘシ

維新前ノ法律ハ既ニ述タル如ク文書散佚シテ講究ニ便ナラサルノミナラス即今實施上ニ於テ必要ナラサルヲ以テ其要旨ヲ述ヘサルモ可ナリ獨リ新律綱領改定律例ハ此刑法ト比較シ用ル所アレハ其寬嚴輕重ヲ對照シ創設ニ係ルモノヲ舉示セサルヘカラスト雖モ一卷章ノ能ク盡スヘキ所ニ非サルヲ以テ其要略ハ各條ノ下ニ於テ舉示スヘシ

舊典ノ甚ク嚴酷ナル所以ノモノハ民俗ノ硬ナルニ由ルニ非ス人民ノ無智ナルニ由ルニ非ス武門ノ專横久シキヲ經終ニ民ヲシテ法ヲ知ラシメサルハ政事上ノ秘奧ナリト誤認スルノ不幸ニ基キシハ既ニ舉示セシ所ヲ以テ之ヲ推知スルニ足ルヘシ爾來公衆ハ法律ノ講セサルヘカラサルヲ覺リ益進取シテ以テ世界ニ冠タル一大美典ト爲スノ榮アランヲ希望シテ止マサルナリ

今本邦法典沿革ノ概略ヲ述ヘタルヲ以テ是ヨリ新刑法ノ大要ト其成立トヲ説示セント欲ス是レ其主眼ト成立トヲ記臆スルニ非サレハ逐條ノ解説ヲ了スルニ便ナラサルヲ以テ殊ニ諸君ノ注意ヲ望ム所ナレハナリ

新刑法ハ罪科ヲ大別シテ三個ナリトス即チ重罪輕罪違警罪而シテ重罪ト稱スルモノハ死刑即チ絞ヲ最トシ其次ハ徒刑流刑懲役禁獄ノ六

種ナリ徒流ノ二刑ハ無期終身アリ有期アリ有期ハ十二年ヨリ十五年ニ至ル以下各差アリ輕罪ハ禁錮ト罰金ニシテ定期ハ一日ヨリ五年ニ至リ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス罰金ハ二圓以上トナシ重罪ハ皆附加ノ刑アリ輕罪ハ殊ニ各條明記アルモノニ非サレハ附加刑ナシ違警罪ハ拘留科料ニシテ其刑ハ一日ヨリ十日ニ至リ五錢以上一圓九拾五錢以下ナリトス

第一編ハ刑法ノ總則ニシテ之ヲ法例刑例加減例不論罪及ヒ減輕再犯加重加減順序數罪俱發數人共犯未遂犯罪親屬例ノ十章ニ分ツ第二編ハ公益ニ關スル罪ニシテ之ヲ皇室ニ關スル罪國事ニ關スル罪靜謐ヲ害スル罪信用ヲ害スル罪官吏瀆職ノ罪ノ九章ニ分ツ第三編ハ身體財產ニ對スル罪ノ二章ト爲シ章又細別シテ第一編ヲ十三節第二編ヲ二十九節第三編ヲ二十三節ニ分チ其種類ヲ明示シ第四編ヲ違警罪ナリ

トス

第一編總則ニ記スル所ハ諸犯罪科罰ヲ總管スル所ノ原理及ヒ一般ノ法例ヲ記ス而シテ該法則ハ人民一般ニ於テ緊要ナラサルニ非スト雖モ最モ法官ニ須要ナリトス何トナレハ此諸法則ハ法官ノ權限ヲ定メ刑罰ノ性質ト効トヲ示シ其性質ト情狀トニ從テ輕重加減スルノ方法ヲ記シタルモノナレハナリ故ニ此編ハ重輕罪ノ罪名ヲ記スルヲナシ

第二編公益ニ關スル重輕罪トハ一國全体ニ關スル所ノ者ヲ云

第三編身體財産ニ關スル重輕罪トハ一般人民ノ一身一家ニ關スルヲ云如斯公益ニ關スルト私益ニ關スル罪トヲ以テ編ヲ分ツハ固ヨリ其性質ノ全ク相異ナルニ因ルモノニシテ歐洲諸國概テ慣用スル所又理ニ於テ適當ナルヲ以テ立法者ノ採用セシ所ナリ然レモ公益ニ關スル罪ニシテ或ハ私益ニ屬スル犯罪ト相連合スルヲ往々アリ又私益ニ關

スル犯罪ニシテ財産ニ關スルト身體ニ關スル罪ト相繫連スルヲ間々アリト雖モ之ヲ律條ニ記スルノ法ハ其犯罪ノ目的トスル所ノ重要ナル性質ニ屬スル所ノ部ニ記入セリ又一面ヨリ觀ルルハ私益ニ關スル罪モ公益ヲ侵害スル罪モ自ラ公益ヲ侵害スルヲナキヲ得ス一人ヲ害スルハ即チ其社會ニ於テ自ラ損害ナキ能ハサルハナリ然リト雖モ直接ニ侵スト間接トヲ以テ其編ヲ分ツハ決シテ不當ニアラサルヘシ

第四編違警罪モ亦細密ニ論スルルハ公私益ノ兩部ニ分ツヘシ固ヨリ公ケノ安寧ニ關スルモノト一個人ノ財産ト身體トニ屬スルノ別アリ然レモ素ト此犯罪タルヤ極テ輕ク其刑モ亦隨テ寬ナルモノナレハ寧ロ之ヲ一編ニ記スルノ簡且便ナルニ如カサルナリ爰チ以テ各國之ヲ分チシモノナリ本邦モ亦然リ

此他渾テ別ニ罰例ヲ立タル者ハ今概テ此刑法ニ掲記セス即チ軍律諸

罰則出版條例新聞條例讒謗律銃獵等ノ諸規則ノ如キモノ是ナリ
 右ノ諸則ノ如キハ時勢人情ニ從ヒ時々變更ヲ要スルモノトス故ニ刑
 法中ニ記載セサルヲ以テ適當ト爲サ、ルヘカラス
 刑法ハ固ヨリ人民一般ニ關スル通法即チ人民一般ニ待ツ所ノ刑罰ナ
 レハ其犯人ヲ罪スヘキノ性質タルヤ容易ニ變移スヘキモノニ非ス且
 刑タル衆人一般ニ同一ナルヘキモノナリ故ニ刑法ハ他ノ罰則ノ如ク
 變動セサルモノトス之レ歐州各國及ヒ本邦ニテ刑法ニ加ヘサル所以
 ナリト知ルヘシ
 又社會ノ公論ト公道トニ基キ立法者ハ四民平等權義均一ノ公法ヲ撰
 拔シタリ士庶人其權義ヲ異ニスルハ封建ノ制ト共ニ廢滅シタリト雖
 且華士族ハ尙禁獄ニ處シ役ニ服セサル等ノ區別アリシカ此刑法ニハ
 華士族平民ノ別ナク婦女モ又收贖ヲ聽サ、ルモノト定メタリ

新法典ヲ按スルニ其編纂タル泰西諸國ノ律書ヲ參酌シ其善美ヲ採テ
 以テ固有ノ國憲ニ則リ正理ニ據リ人情ニ基キ審案討議或ハ刪除シ或
 ハ添加シ其完全ナルニ至リ始メテ之ヲ頒布シタルモノナレハ之ヲ外
 國人ニ示スモ決シテ耻ル所ナカルヘシ然リ而シテ法律ハ社會ノ人民
 男トナク女トナク幼トナク老トナク盡ク行フヘキヲ知テ之ヲ行ヒ行
 フヘカラサルヲ知テ自ラ警戒スル所ヲ希望スルモノナレハ其字句文
 言ハ極メテ平易ナラサルヘカラス新律綱領改定律例ノ刑名罪稱ノ如
 キハ字句皆漢文ヲ用ヒ人ヲシテ之ヲ解了スルニ甚タ難カラシメタリ
 ト雖且此法典ハ然ラス條文ハ力メテ世間普通ノ文体ヲ用ユ故ニ之ヲ
 讀ム易ク其意通シ難カラス然リト雖且往々未タ耳底ニ熟セサル新作
 ノ文字ノ在ルアリ是レ言ヲ簡ニシテ意ヲ廣カラシムルカ爲メナリ獨
 リ此新法典ノミナラス萬國ノ法律必ス俚俗ニ通セサルノ法語アリ蓋

止ヲ得サルニ出ルモノナリトス
 惟フニ法ニ觸レ罪ヲ犯ス者ヲ懲罰シテ以テ國家ノ治安ヲ保護スルノ
 道ト犯者自ラニ對シテ寛大公至ヲ失ハサルトハ太々相背馳シ易ク並
 ヒ行ハレ難キモノナリトス而シテ此難キ者ヲ處スルハ外國ニ如何ノ
 法アルヤト講究セシハ其益實ニ尠少ナラサルナリ
 爰ヲ以テ泰西諸國ノ法律ヲ探究シ之ヲ相比照スルヲ要セリ然レモ之
 ヲ探究スルニ方テ各國固有ノ慣例アリテ存スル所ノ條款ハ固ヨリ之
 ヲ捨テス且正理公道ニ基キ各國ニ行ハルヘキモノヲ撰採セサルヘカ
 ラス此新法ヲ編算スルモ亦然リ之レ專ラ佛蘭西白耳義日耳曼獨逸葡
 萄牙印度等ノ法ヲ參考セラレタル原由ナリ爰ヲ以テ之ヲ觀レハ何レ
 ノ立法者ト雖モ始メヨリ能ク法ノ真理ト公道トヲ知り得タル者ニ非
 ス漸ク以テ相進ミ彼我相倣テ完全ヲ得タルヲ証スルニ足ル又真理公

道ノ深遠ナル決シテ始ヨリ全然之ヲ知ルノ点ニ達スヘキニ非ス故ニ
 該法典泰西諸國ノ法律ニ倣フテ編纂シ固有ノ文体ニ因ラサルモ特勢
 ノ然ラシムル所ニシテ敢テ國體ヲ變換シ人情風俗ヲ舉テ彼ニ倣フノ
 嫌ヒアルヘカラス是レ獨リ本邦ノミナラス人文ノ進度ニ從ヒ各國皆
 然ラサルヲ得サルモノトス
 開明ノ進度ニ從ヒ法律ヲ改定スル者ハ他ナシ時運ヲ量リ其刑ヲ寛ニ
 シ罪ト刑トノ權衡ヲシテ允當ナラシメンガ爲メナリ即チ該新典ヲ編
 纂スルモ綱領律例ヲ改定セシト其主旨ナ一ニス如斯寛法ニ爲スモ決
 シテ兇奸ノ私慾ヲ制禦スルノ道ヲ弛ムルノ恐レアルコトナシ何トナレ
 ハ行政司法警察ノ法大ニ完備シ能ク犯罪ヲ未然ニ防キ能ク既成ノ犯
 罪ヲ查激シ罪証ヲ拾集シ審司ニ附スルヲ得レハナリ故ニ刑ヲ寛ニス
 ルモ社會ノ害ヲ除却スルノ道ヲ滅殺スルノ憂ヒアルコトナシ

苛酷ノ刑アリト雖モ之ヲ施行スル法備ハラズ有司ノ專斷ニ出ルコトアルキハ古昔戰國ノ如ク武門專制スル時ノ如ク爲メニ社會ノ安寧ヲ保維スルニ足ラス之ニ反シ其刑嚴ナラサルモ責罰ノ法確實ニシテ毫モ假スコトナク以テ世害ヲ除却セハ社會ノ保護上ニ於テ太々効アルヘシ何トナレハ嚴刑ヲ設ケルモ僥倖ニ責罰ヲ免カル、者多カラシヨリ寧ロ刑ヲ寬ニシ以テ之ヲ施行スルノ方法ヲ確實ニシ法網ヲ免カレサラシムルノ勝ルニ如カサレハナリ

古今内外ノ史ヲ案スルニ刑罰太々過嚴ナル國ニ於テ行政司法ノ例規能ク精密完全ナル者アルヲ視ス刑ヲ嚴ニスルノ國ニ於テハ必ス穩密ニ兇奸ヲ探索シ確實ナル法ヲ施行セスシテ民ヲ恐嚇シ威怖ノ念慮ヲ生セシメサルハナシ威嚇シテ強服セント欲セハ愛ニ代ルニ壓制ヲ以テスルニ至ルハ勢ノ止ム能ハサル所ナリ故ニ其國安ヲ保持シ公衆ヲ

利シタル者ハ未タ曾テ有ラサルナリ故ニ該法典ヲ編纂スルモ其弊害ヲ未然ニ防制セシ爲メカメテ公平ヲ保チ壓制ニ陥ラシメサル方法ヲ盡ス法官豈察セサルヘケンヤ

凡ソ法律ハ令スルト禁スルトヲ問ハス悉ク人民ニ之ヲ遵守スヘキノ義務アルヤ固ヨリ喋々ノ辯ヲ須ヒス而シテ法官ノ法律ニ依リ人民ニ令スル所ノモノハ總テ正當ニシテ法律ニ背戾スル所爲ハ不正當ナリト認メサルヘカラス之ヲ約言セハ法律ハ之ヲ廢改セサル間ハ悉ク正理公道ニ適合スルモノト傲サ、ル可ラサルモノナリ

然リト雖モ法律モ亦素ヨリ人爲ニ成ルモノナレハ短所ナキ能ハス各國改正増加スルコト比々絶エス以テ其完全無缺ノモノヲ得難キヲ見ルヘシ故ニ正理公道ニ則リ人民之ヲ論議スルコトヲ得ヘシ其是非明了ナルニ至テ廢改ニ至リシモノモ亦少ナカラス是レ各國ノ通義ト爲ス所

ナリ故ニ立法者モ亦自ラ其善良ナラサルヲ永遠ニ存スルヲ得ザルモ
 ノトス何トナレハ法律ハ天理ニ基キ社會ノ治安ヲ保ツ要具ナレハ其
 非ヲ遂ケ天理ニ背キ社會ノ公害ヲ願ミサルノ理ナケレハナリ
 刑法ニ於テハ最モ然リトス若シ其天則ニ背戾スルモノアルキハ罪者
 其罪ヲ免カレ無辜冤ヲ蒙ルニ至ル他ノ法律規則ノ類ヒニ非サレハナ
 リ
 之ヲ論究セント欲セハ必ス先ツ立法ノ通則ヲ守ラサルヘカラス其通
 則トハ何ソヤ曰ク純正直義ニ基ク所ト社會ノ公益ニ基ク所トヲ參酌
 シ其一方ニ編寄セス罪トナスノ行爲ハ道德上ニ於テ惡トシ又社會ノ
 公益ニ於テモ惡トスルモノ是ナリ
 純正直義ニ基ク所ニ編スルキハ刑法ノ性質一變シ修身ノ法則トナリ
 宗教上ノ法則ニ混和シテ以テ百般ノ行事皆其微細ニ至ル迄太ダ苛法

ヲ成シ遂ニ天賦ノ自由ヲ妨ケ自主ノ權ヲ害スルニ至ルヘシ之ノ實ニ
 萬國ノ取ラサル所ナリ
 社會ノ公益ニ基クノミニ編スルキハ道德ヲ侵害スルト否トヲ問ハス
 單ニ社會ノ公益ヲ害スルノ輕重ニノミ因テ問フヘキモノトナルヲ以
 テ風俗ヲ衰頹ニ至ラシムル尠少ナラス故ニ或ハ事善ニシテ正理公道
 ニ戾ラサルモ當時ノ政体又ハ其法律ヲ是非スル者ハ忽チ罰セラレ遂
 ニ行事悉ク人爲ニ歸シ自然ニ則ラズ社會ノ行爲ヲ以テ標準ト爲シ或
 ハ進取ノ道ヲ遮リ卑屈ニ陥ラシメ或ハ強暴廉耻ヲ知ラサルニ至ラシ
 ムルノ恐レアリ之ノ古今内外ノ史乘ニ照シテ其實例少シトセサル所
 ナリ其政体ノ變轉ニ從テ同一ノ所爲或ハ罰セラレ或ハ賞セラレ、モ
 ノハ皆此理ニ基ヒスルモノナリ豈ニ察セサルヘケンヤ
 故ニ右ノ二弊害ニ陷ラス其中和ヲ採リ道德ヲ破リ社會ヲ害スルノ所

爲ニ非サルモノハ法律ノ禁シ且ツ罰スル所ト爲カ、ルノ正理ヲ守ル
ヘシ之レ實ニ泰西諸國ノ通則トシ又本邦此新典ヲ編纂シタル者ノ目
的トナシタル所ナルヘシ

又事ノ情狀ニ依テ加重輕減スル場合及ヒ長短期内ニ於テ其刑ヲ増減
スヘキトモ右ニ述ヘタル如ク道德上ト社會ヲ侵害スルノ深淺ヲ度量
定議セサルヘカラス該論点ノ私言ニ非サルコトハ總則以下各條ヲ通觀
セハ自ラ了解スル所アルヘシ

以上ニテ此刑法ノ成立タル大要ト沿革ト立法ノ通則トヲ說示シタル
ヲ以テ是ヨリ總則ニ移リ論究スヘシ

總則以下各條ヲ解釋スルモノハ初學ノ者ヲシテ條文ヲ解得セシメン
カ爲メナリ次ニ内外諸學士ノ論說ヲ參考シ自ラ信スル所ヲ採テ以テ
立法ノ原旨ヲ述ルモノハ法律ノ精神意義ノ存スル所ヲ知ラシメンカ

爲メナリ又例ヲ設ケ或ハ歐米諸國ノ法律及ヒ現行律ト比考スルモノ
ハ其論旨ヲ確手ナラシメ且他日實施ノ時ニ方テ其寬嚴輕重ヲ斟酌シ
適切ノ刑ヲ擬定スル便ヲ得セシメンカ爲メナリ

刑法

第一編 總則

凡ソ刑法ハ治罪法ト互ニ相待テ其用ヲ爲ス者ナリ蓋シ刑法ハ一般ニ遵守スヘキ刑ノ原則ヲ明記シ其罰スヘキ所爲ヲ限定スルモノニシテ治罪法ハ此刑法ヲ活用スヘキ方法ヲ矩定セシモノナリ而シテ本編ハ即チ其刑ヲ擬定スルニ方リテ普ク通シ用ユヘキ要領ヲ示シタルモノニシ新律綱領ノ所謂名例律ノ如キモノナリ

第二編以下ハ其所爲ノ輕重ニ因テ之ニ適施スヘキノ刑ヲ定メタルモノナレハ審司タル者宜シク本編ノ精神ヲ通曉シ而シテ后能ク第二編以下ノ刑ヲ的切ニ施用スルコトヲ得ヘシ若シ否ラサレハ誤謬ヲ免レズ何トナレハ刑例ノ要領ヲ通曉セズシテ的切ナル刑ノ施用ヲ爲シ得ヘキノ理ナケレハナリ

二 刑法ニ於テ罰スヘキノ所爲ヲ定ムルヤ精且密ナリ而シテ其所爲ノ輕重ニ應シ刑罰ノ制限ヲ立ルト雖モ若シ豫審公判或ハ專横ニ涉リ又ハ各法廳一定ノ職制ナク論告辯護ヲ同等無編ノ地位ニ置カス公訴ノ期限ヲ與フル度ナク人身ノ自由ヲ保全スルノ信憑ナキハ社會公衆ノ安寧ヲ保ツニ足ラス被告人ノ不幸擧テ數フヘカラス公安ヲ保ツノ用具ハ反テ公衆ノ害ヲ爲スノ具トナリ法律ハ終ニ人民ノ怨嗟スル所トナラン

故ニ治罪法ニ於テ刑事裁判ノ公平ヲ保全スルニ欲クヘカラサル要件ト被告人ヲ引致スルノ方法ヲ網羅漏カス掲載シ以テ此刑法ヲ活用セシム

故ニ曰ク刑法ハ治罪法ト互ニ相待テ而シテ后ニ完全シ社會ノ公安ヲ保持スルニ足ルヘシト

第一章 法例

此章ハ刑法中最モ總例ノ緊要ナル者ヲ記ス故ニ刑法ノ權力即チ其管スル所ノ區域ヲ定ムル總例ナリ其要旨左ノ如シ

一 刑法ニ問フ所ノ事ハ如何

二 既往ト將來トニ係リ刑法ノ管スヘキ時ハ如何

以上ノ事ト時トハ必ス相繋連シテ離隔セサルモノトス

第一條 凡法律ニ於テ罰スヘキ罪別テ三種トス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

本條ハ單ニ罪ノ等級ヲ矩定シタルモノナリ

三 罪トハ法律ニ明示シタル刑ヲ制裁スヘキ所爲ヲ指稱スル普通ノ語ナ

リ蓋シ罪ナル語ハ其意義太ク廣シ故ニ法律ニ於テ一語以テ重罪輕罪
 違警罪ヲ包括セシメント欲スル者ハ必ズ此語ヲ用ヒサルヲ得ス爰ヲ
 以テ罪ナル語ハ世界萬國普通ノ符号ト云フモ可ナルカ如シ
 凡ソ罪ハ必ズ社會ヲ傷リ公衆ヲ害フモノトス否ヲサレハ法律何ノ爲
 メニ之ヲ罰センヤ若シ其所爲特リ道義ヲ毀ルニ止リ敢テ社會公衆ヲ
 傷害セサルニ於テハ法律ノ問フ所ニ非ス止タ其懲罰ノ如キハ編ニ犯
 人ノ本心ト世人ノ凌辱貶黜トニ任放センノミ
 然リ而シテ公益ヲ傷害シ世安ヲ騷擾シ社會ノ秩序ヲ攪亂シ醜惡ヲ流
 布シ公衆ヲ懼怖セシムルノ所爲アル者ハ即チ法律ニ於テ必ズ之レニ
 適當スル刑ヲ定メ以テ其犯人ヲ戒責シ再ヒ罪辟ニ陥ルコトナカラシメ
 且之ニ傲ハント欲スル者ヲ警ム
 之ヲ以テ一罪事ヲ犯ス者ハ必ズ法律ニ定ムル所ノ刑ヲ受ケサル可ラ

ス而シテ其刑ヲ擬定スルノ法術アリテ之ヲ管轄ス故ニ其管轄裁判所
 ニ於テ爲シタル宣告ニ非サレハ其効ナシトス是レ本條罪ノ種類ヲ區
 別シテ三等ト爲シ實際ヲ便ナラシムル所以ナリ
 凡ソ犯罪ニ二種アリ即チ法ノ禁スル所ヲ行フ者アリ法ノ令スル處ヲ
 行ハサル者アリ語ヲ換テ之ヲ言ヘハ行フヘカラサルヲ行フモノ行フ
 ヘキ事ヲ行ハサル者はナリ

所爲ノ輕重ニ從テ罪ノ等級ヲ定ムルハ泰西諸國ノ通則トスル所ナリ
 而シテ之レカ等級ヲ立ル單ニ公益ニ關スルト私益ニ屬スルトノ區別
 ナ立ルノミヲ以テ足レリト爲スコトヲ得サルナリ何トナレハ公益ニ對
 スル所爲ニシテ太ク輕キ者アリ私益ニ屬スル所爲ニシテ太ク重キ者
 アリ身体ニ對スル者必シモ重カラズ財産ニ關スル者必シモ輕キニ非
 サレハナリ故ニ犯罪ノ輕重ヲ定ムルハ其危害ノ生スヘキ多少ニ基ク

モノニシテ其所爲ノ性質ニ關係セサルナリ
 故ニ立法者素ヨリ此等ノ間ヲ詳密查考シテ其損害ノ多寡ト惡意ノ深淺トヲ量リ以テ其輕重等差ヲ定ム而シテ本條先ツ其大概ヲ矩畫シテ以テ名義ヲ定メ之ヲ三等ト爲シタルハ便ニ從フナリ即チ其最モ重キモノ(重罪)中等ナルモノ(輕罪)及ヒ極メテ輕キモノ(違警罪)是レナリ
 此等級ヲ立ルハ甚タ便利アリ各等之ヲ管轄スルノ審廳アリテ其法則ヲ異ニス即チ未遂犯罪ヲ處スルノ法重輕罪違警罪ヲ糾治スルノ法ノ如シ再犯加重ノ如キモ亦此別ニ從テ同シカラス其詳細ヲ知ラント欲セハ治罪法ニ載スル所ト後ノ各條ニ説ク所ヲ見ヨ
 然リ而シテ之ヲ重罪ナリ輕罪ナリ將タ違警罪ナリト矩定シタルノ法ハ何等ノ性質ニ依リ何等ヲ標準ト爲シタルカ此点ハ爰ニ之ヲ探究ス

ルヲ須要ナリト思考ス

之ヲ矩定シタルノ要點タルヤ犯罪ノ輕重ニ據リシテ蓋シ疑ヲ容レサル所ナリ而シテ犯罪ノ輕重ハ其道德ト公益トヲ比照シ俱ニ其害アルノ輕重如何ヲ量定シタルモノナリ

然リト雖德義上ノ要點ト社會ノ公益上ニ關スル惡トハ二ツナカラ之レカ度量ヲ爲スノ道ナク知リ得ヘキモノニ非サルナリ爰ヲ以テ立法者ハ法官ノ標準トナルヘキ定度ヲ示シ以テ輕重ヲ量ルコト仍ホ尺度量衡ヲ以テ物体ノ長短輕重ヲ量ルカ如ク實際ニ就テ適切ニ施用セシメント欲シタルモノナリ

故ニ其等級ヲ立タルモノハ特リ立法者ノ正理公道ニ照シテ某ノ罪ハ最モ重シ宜シク重罪ト爲スヘク某ノ罪ハ中等ナリ輕罪ト爲スヘク又某ノ罪ハ太々輕シ以テ違警罪ト爲スヘシト擬定セシニ過キサルモノ

ト謂ツヘシ

凡ソ人ヲ罰スル所以ノモノハ前ニモ述タル如ク單ニ道德ニ背クノ邪心ヲノミ罰スルニ非ス又獨リ社會公同ニ障害トナルノ所爲ヲノミ罰スルニモ非ス道德ニ背クト公同ヲ毀ルトノ二要點ニ原因スルナリ而シテ立法者其輕重ヲ矩定スルニ方リテ尙ホ注意ヲ加ヘタル最要點アリ即チ社會ノ治安ニ關スル緩急是ナリ何トナレハ刑法ノ主旨ハ社會ヲ保全スルニ在ルヲ以テナリ仮令犯ス所ノ罪同一ナルモ治安ニ關スルノ緩急ニ因テ之レカ刑ヲ施スモ亦嚴寬ノ別ナカラサルヘカラス今其一例ヲ舉テ以テ之ヲ説明セン

茲ニ甲乙二犯アリ甲ハ夜間門戸ヲ毀チ人家ニ潛入シ偽鑰ヲ用ヒテ簞笥ヲ開キ金百圓ヲ竊取ス乙ハ白晝所用アリテ人家ニ至ル適マ人ナシ而シ其室ヲ窺ヘハ机上ニ金千圓アルアリ忽然盜心ヲ生シテ直チニ竊

取シ去ル是レ甲乙共ニ盜犯ニシテ甲ハ乙ノ得タル十分一ニ過キサレトモ乙ヨリ重ク罰セサルヘカラス何トナレハ甲ノ盜所ハ夜間ニシテ保護ノ術ヲ盡シタルモノナルニ門戸ヲ毀チ偽鑰ヲ用ヒタル等其奸惡ノ深キト乙ノ類ヒニ非ス公衆ノ安寧ニ關スル尠少ナラス乙ノ被盜人ノ如キハ保護スヘキノ寶貨ヲ鹿罾ニシ其過失ナキニ非ス公衆ノ危害ヲ生スル少ナケレハ甲ハ重ク乙ハ輕ク罰セサルヘカラスレバナリ其他夜間ニ於テスルト白晝人ノ財物ヲ盜ムト二人以上ニ於テ犯スト兇器ヲ表持スル等ニ因テ加重スルモノハ皆右ニ述タル原由ニ出ルモノナリ

本邦ハ清國ト風俗人情ヲ同フシ文學彼ニ則リシチ以テ法律モ亦明律ヲ酌ニ編纂シ刑ニ輕重ノ區別アルモ罪ノ種類ヲ分タス既罪ノ如キハ金額ノ多寡ニ因テ刑ヲ輕重シタルモノト雖此刑法ハ前ニ說示シタル

カ如キ主要ナルヲ以テ法官タルモノ舊慣ニ拘泥セス能ク其輕重ヲ量定シ立法ノ原示ヲ誤ル勿レ

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ス本條ハ法律ニ罰スヘキノ明文ナキモノハ如何ナル所爲ト雖モ犯罪ト爲スヲ得サルノ原則ヲ掲ケタルモノニシテ歐洲各國一般ニ可決スル所ナリ

抑モ刑法ハ社會ノ治安公衆ノ安寧ヲ保全スヘキノ要具ナレハ豫メ罪トナルノ所爲ヲ矩定シ之ヲ公布シテ以テ公衆ニ明示セサルヘカラス何トナレハ之ヲ公布スルハ則チ社會公衆ト共ニ能ク遵守スヘキヲテ結約スルノ方法ニシテ若シ其約束ニ背ク者アレハ社會之ヲ罰スヘキノ理ニ基クモノナレハナリ
故ニ法律ニ明文ナキモノハ社會公衆ノ約束未タ成ラサルヲ以テ仮令

其行爲道德上ニ於テ極メテ不善ニシテ社會ノ公益上ニ於テモ太ク害アルモ之ヲ罪トシ罰スルヲ得ス然リト雖人ノ人タル所以ノモノハ信義ヲ守リ篤實ヲ專ラトセサルヘカラス獨立自主ノ權利ヲ天賦セラレシモノナレハ法律ノ罪人トナラサルモ德義上ノ罪人トナルアルヘケンヤ

昔日ニ在テハ人ノ行爲苟モ惡事タルトハ法ニ正條ナシト雖モ彼我チ此附援引シ悉ク科罰セシモノナリ是レ獨リ本邦ノミナラス各國皆然リトス抑此ノ如キ法アル所以ノモノハ當時ノ法律太ク少クシテ概テ習慣ヲ以テ擬定シタルカ故ニ之ヲ必用トスルノ理由ナキニ非ルナリ其正條ナキニ方テハ性法ノ原則ニ據ルト雖モ法官果シテ能ク謹慎寛大ニシテ正理ニ背戻スルヲナキヲ保センヤ爰チ以テ如斯法アルモ果シテ其結果ヲ得タルモノアルヲ聞カス之レ歐洲各文明國殊ニ佛國率

先シテ明條アルモノニ非レハ罰スヘキモノニ非ストシ我立法者ノ擇
擇シタル所以ナリ

今此刑法ニ於テ律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖罰スヘキモノニ
非スト爲シタルハ人民ニ横斷專恣ノ刑ヲ免カレシムヘキノ道ヲ設ケ
タル善美ノ良法ナリト雖罪トシ罰スヘキノ惡事ニシテ正條ナキカ爲
メ責罰ヲ免カル、者モ亦必スナシト云フヘカラス若シ如斯クアラハ
社會公衆ノ障害尠少ナラス立法者其責ヲ免ル、トテ得サルモノト雖
是レ人間實ニ免カレ難キノ短所ニシテ佛國其他ノ諸國皆此短所ナキ
能ハス故ニ如斯クアルニ於テハ漸次其法ヲ設ケ其欠ヲ補ヒ以テ將來
ヲ防カサルヘカラス今爰ニ一二ノ例ヲ示サン

佛國ニ於テ千八百六十三年刑法改正迄ハ債主ニ典與シタル物品ヲ奪
取セシモ之ヲ罰セカリシト其物品ヲ奪フハ惡事ナルモ奪ヒシハ即チ

自己ノ所有物ヲ奪ヒシモノニシテ他人ノ物ヲ奪ヒシニ非レハ竊盜條
ニ準據シ難キカ故ナリ又典物又ハ貸借スル物品ヲ盜奪費消シタル者
ノ如キ背信ノ罪ニ類スト雖千八百六十三年ノ改正迄ハ之ヲ罰セカリ
シト云フ當時已ニ附托物ヲ約ニ背キ竊取セシ者ノ刑アルモ以テ典賣
貸借ノ物品ヲ盜奪費消シタル者ニ比附援引スルヲ得サルカ故ナリ
想フニ此刑法ト雖亦如斯ノ類ナシト云フヲ得サルヘシ
然リト雖法律ニ明文ヲ掲ケサルモ條理ニ於テ爲スヘカラサルヲ爲
シタルモノトシ有司ノ專斷ニ任セ知ラス識ラス罪科ニ陷ルノ感ヲ起
シ人民安堵スル能ハサルノ弊害アラシヨリ寧ロ無辜ヲ罰セサルノ勝
ルニ如カサルハ喋々ノ辨ヲ待サル所ナレハ本條ハ完全ノ良法ト云フ
ヘシ矣

以上ノ二條ハ刑法ノ管スル所ノ事ニシテ其例規ヲ指定シタルモノナ

リ以下ハ其時即チ既往ト將來トノ点ニ於テ如何其事ヲ處スヘキヤノ
例規ヲ定メタルモノナリトス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未ダ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ
ニ從テ處斷ス

本條ハ法律ヲ既往ニ及ホス可カラサルノ原則ヲ明示シタル者ナリ

凡ソ刑法ハ律ニ正條アルノミヲ以テ罰スルヲ得ス必ス其所犯ハ律

ヲ頒布セシ後ニ係ルヲ要ス語ヲ換ヘテ言ヘハ律ニ明記セシ所ト同一

ノ性質ヲ有スル犯罪ト雖モ其所犯頒布以前^後ニ非サレハ罰スルヲ得

ス

凡ソ罪犯ヲ罰スルヤ必ス其罪ニ適當スル刑名ヲ附シ以テ刑ヲ用ルノ

私ナキヲ示スヘシ故ニ豫メ刑名ヲ制定シ之ヲ人民ニ公布スルヲ緊

要ナリトス若シ之レニ反シ立法者又ハ法官ノ意ニ由リ臨時適宜ノ刑
ヲ設ケ以テ之ヲ罰スルカ如キアラハ人ノ生命名譽焉ソ常ニ安全ナル
ヲ得ンヤ畢竟刑罰不測ノ中ニ在ルヲ以テ居常惴々恐懼スレハナリ是
ヲ以テ其犯時前ニ於テ未ダ定メサル刑ヲ用ヒ罰セサルヲ原則ト爲サ
ル可カラス

此ノ如ク論シ來ル時ハ或ハ法律ノ力弱キニ失スルカ如シト雖正理ヲ
固守セント欲セハ然ラサルヲ得サルナリ若シ法律ノ力ヲシテ強カラ
シメントスルキハ正理ニ背戾スル失アルヲ奈何センヤ

然ラハ刑法ノ目的トスル所ノモノハ或ル所爲ヲ禁シ犯者ヲ待ツニ刑
罰ヲ以テシ以テ畏懼スル所アラシムルニ在リ已ニ第二條ニ正條アル

ニ非レハ罰スルヲ得サルノ原則ヲ創定シクレハ豫メ其所犯以前ニ
於テ其正條ヲ設ケ之ヲ明示セサルヘカラス正條ヲ設クルト豫メ之ヲ

明示スルトハ互ニ相關連シテ離ルヘカラスルモノナリ是レ獨リ本邦ノミナラス佛國其他各國概テ可決シタル所ナリ是亦人民ノ權利ヲ保護スル所以ノ一大原則ナリト云フヘシ矣〔以上初項ノ解説〕

然リト雖モ新法ニ於テ既ニ舊法ヲ輕クシ若クハ廢シタルキハ理ニ於テ亦既往ニ遡ラサルヲ得ス是レ舊法ニ明示スル刑ヲ畏レス犯シタル者ナレハ舊法ニ依テ處スルモ可ナルカ如シト雖舊法ハ既ニ社會ノ非ナリトスル所ニシテ新法ヲ以テ之ヲ變シ若シクハ過嚴ナリトシテ寛ニシタルモノナレハ焉ソ舊法ヲ用ルノ理アラシヤ故ニ其未タ所斷ヲ經サル者ハ親法ノ寬典ニ依ラサルヘカラス

問本條未タ判決ヲ經サル者ハ云々トアリ然ラハ寬典モ已決ノ犯人ニハ及ホスコトヲ得サル手例ヘハ舊律ニ於テ懲役十年ニ處セラレ三年ヲ經タル後其法律ヲ改正シテ懲役三年ニ處スヘキモノト爲シタル

新

ノ類ハ如何

答刑期限内ニ在テ法律改正アリシキハ寬典ヲ已決囚エモ及ホサルヘカラス何トナレハ舊法ハ過嚴ナリトシテ改正シタルモノナレハ其過嚴ナルモノヲ其儘執行スヘキ理由ナキヲ以テナリ故ニ今問ハル、如キハ已ニ新法三年ノ期限ヲ經過セシニ因リ直チニ放免ス可キモノナリ

舊律ニ依テ處斷セシ竊盜三四犯ノ如キハ此刑法實施ノ時悉ク改正セラルヘシ意大利ノ刑法ニハ我草按ノ如ク已決囚ニモ寬典ヲ及ホスヘキコト設クト聞キタレモ佛國其他各國概テ新定ノ寬典ヲ得セシムルハ獨リ未決犯者ノミニ限り已決囚徒ニ及ホサスト云

又新法ヲ以テ舊法ヲ改正シ同時ニ一方ヲ輕クシテ一方ヲ重クスルコトモアルヘシ例ヘハ禁錮ヲ減スルモ罰金ノ數ヲ加ヘ刑ノ多數ヲ降減ス

ルモ寡數ヲ加重スルカ如キ舊法ニ於テ禁錮三月以上三年以下トアル
 ナ四月以上二年以下トシ罰金ノ員數ヲ加減シタルノ類ナリ
 之ヲ本條第二項ニ照スニ新法ノ輕キモノハ之ヲ既往ニ施スト云フナ
 以テ舊法ニ依テ三月ノ限ヲ用ヒ四月トナサス多數ハ新法ニ於テ降減シタル
 二年ヲ以テ限トスヘキ舊法ノ三年ノ類ナリ
 以上ノ講說ヲ明白ニシ尙ホ實施上ニ便ナラシメシメテ爲メ左ノ例ヲ示サ
 シ

例ハハ歳ノ一月ニ禁錮三ヶ月ノ罪ヲ犯シ第二月ニ至リ之ヲ處斷スヘ
 キノ際法律ヲ改正シ禁錮二ヶ月ト爲シタルキハ必ス改正ノ律ニ依リ
 之ヲ罰セサルヘカラス何トナレハ當時舊法ヲ過酷ナリトシテ改メダ
 ルモノナレハ其過嚴ノ法ヲ犯者ニ及ホスヘキノ理ナク社會ノ安寧ヲ
 保全スルニ充分ナリト認定シタル輕キニ處スルハ公平ニシテ公益ヲ

生スヘケレハナリ

又甲ノ月ニ於テ禁錮百日ノ刑ヲ犯ス者アリ乙ノ月ニ至リ律ヲ改正シ
 禁錮五十日ト爲シタルニ丙ノ月裁判宣告前復々律ヲ改メ舊ノ百日ト
 爲ス如斯場合ニ於テハ甲乙丙三ヶ月ノ中何レノ月縛セラル、ナ問ズ
 必ス其中間乙月ノ寬典ニ依テ處スヘキモノトス
 斯ノ如ク法ヲ既往ニ及ホスヘカラスナルノ原則ト既往ニ及ホスヘキノ
 例外トヲ設クルモノハ刑法タルヤ開化ノ程度ニ循ヒ人情法律ノ適宜
 ナ斟酌シ苛チ去リ寬ニ就クヲ必要トシ改正スルコトアルヘケレハナリ
 又以テ罪人ヲ保護スルノ道ニ戻ラス到底此場合ニ於テハ犯人僥倖ヲ
 得ルモノト謂フヘシ

又實際上アルマシキコト雖理論ニ於テ必ス免レサルコトアリ例ハハ犯
 時ハ其責罰セサルヘカラスナルコトニシテ論告ノ時モ尙ホ其科罰スヘキ

アリ然ルニ其間只一時其刑ヲ減輕若シクハ廢止シタリ之レ立法者ハ寬裕ナル處置ヲ爲サシメント欲シタル者ナレハ其寬典ニ依ラサルヲ得ス何トナレハ之ヲ輕減廢止セハ社會カ犯人ニ對スル權理ヲ失ヒ犯人ハ已ニ寬典ニ依ルノ權ヲ得タルモノナレハ之ヲ動カス可キニ非サレハナリ

審應管轄權限又ハ其構成等ノ規則ニ關スル法律ハ既往ニ遡ルノ効アルモノトス該論點ハ刑法ニ論スルヲ要セス治罪法ニ規定スル所ナレハ其詳細ヲ知ラント欲スル者ハ治罪法ノ講説ヲ見ヨ

本條定ムル所ノ主旨ハ此刑法ヲ以テ創定シタルニ非ズ新律綱領改定律例ニ於テ既ニ之ヲ設ケ數年實施シタルモノナリ

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論スヘキ者ニ適用スルヲ得ス

本條ハ陸海軍律ヲ以テ罰スヘキ軍人軍屬ニハ此刑法ヲ施用スヘカラサルヲ記ス

抑軍人軍屬ナル者ハ甚ダ制馭シ易カラサル者ニシテ危險ヲ生スルコト尠少ナラサルヲ以テ別ニ軍律ナルモノヲ制定シ最モ嚴重ノ刑罰ヲ科スル者トセリ是レ獨リ本邦ノミナラス各國皆然リ然ルト雖其犯罪兵事ニ係ルモノニ非レハ軍律ヲ施スモノニ非ス故ニ軍人軍屬ト雖モ常事ニ關スル盜賊殺傷罵詈犯姦ノ如キハ常律ヲ以テ科罰スヘキモノトス

本邦固ヨリ軍律アリト雖モ之ニ規定シアルノ外皆常律ニ照管シ軍律ノ間フ所ニ非ス間フ所ニ因レハ軍律モ亦改定セラルト然レモ其要領ハ尙ホ今說ク所ト異ナラサルヘシ

陸海軍ニ於テハ其刑罰ヲ異ニスルノミナラス審應ノ管轄及ヒ其構成

ノ違フコ更ニ大ナリ則チ軍人軍屬ハ陸海軍共各其上官ノ審理ニ屬ス其常律ノ罰スヘキモノト雖亦然リ

凡ソ兵事ニ關スル犯罪ハ軍人ニ非レハ犯スヘカラサル者トス即チ軍人已レノ隊ヲ脱シ敵軍ニ降り又ハ國旗ヲ拋棄シ或ハ士官ノ指揮ヲ違背シ其他是等ノ性質ニ屬スルモノニシテ專ラ軍事上ニ係ル罪ヲ云フ而シテ或ハ常人ニシテ是等ノ罪ヲ犯スモ軍事上ニ關スルモノハ亦軍衛ニ於テ軍律ニ處スルコモアルヘシ

軍衛ノ管スル所ハ軍人ニシテ軍律ヲ犯ス者ニ軍律ヲ以テシ犯ス所常律ニ係ルモノハ此刑法ヲ施用シ常人ニシテ軍律ニ觸ル、者ハ軍律ヲ以テ之ヲ處斷スルノ三個ナリトス故ニ軍人常人ト共ニ罪ヲ犯シ軍衛ニ於テ發覺シタルキハ常人ヲ其管轄廳ニ交付シ若シ法衛ニ於テ發覺シタルキハ軍人ヲ軍衛ニ交付シ各其罪ヲ處斷スヘキモノトス

凡ソ軍律ナル者ハ常律ニ比スレハ甚タ嚴格ナル者トス常律ニ於テ重刑ト爲サ、ル者モ軍律ニ於テハ往々鉤殺ノ重刑ニ處スルコアリ故ニ軍律ニ依テ處セラレシ者復重輕罪ヲ犯スモ再犯ト爲スヘキモノニアラス(第九十六條見合せ)

新律綱領ニ於テハ出征行軍ノ外ハ軍人軍屬ト雖モ皆常律ヲ以テ罰シタリシカ明治六年軍律頒布ノ後ハ上ニ述タル如ク區處セシモノナリ
第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ
本條ハ此刑法ニ於テ諸條例ヲ記セサルヲ以テ其諸例ハ廢止セシニ非サルコト明示セリ

他ノ法律トハ新聞條例譏謗律ノ類ニシテ條例トハ出版條例郵便電信

海關條例ノ如シ規則トハ酒造煙草代言人銃獵及ヒ地方官限リ設クル規則等ヲ云皆法律内ノ細目ヲ總稱スルノ謂ナリ
 今刑法ヲ改定スト雖モ尙ホ別ニ特例ヲ設ケ一事業ニ關スル罰則ヲ立ル者少ナカラス此レ皆刑法ノ相關セサルモノナリ其諸條例タルヤ其事ニ關スル者ニ限リ遵奉スヘク其他ノ者ハ一般ニ關係ナキモノナリ且刑法ハ一般遵守スヘキ國家ノ大典ナレハ容易ニ變換スヘキモノニ非スト雖モ特例ノ如キハ時々變換ヲ要スル者ナルヲ以テ此刑法ニ之ヲ併記セサル所以ナリ
 然レモ刑法ハ諸條例ノ爲メニ一般標準トナルヘキ規矩ヲ與ヘタリ即チ第二項ニ記スル所ニシテ別ニ其總則ヲ明記セサル者ハ此刑法總則ヲ適用ストアル是ナリ故ニ特條明文アルモノヲ除ノ外總テ減等ヲ許シ瘡痍者風癩者等ノ罪ヲ治セス幼年者タルヲ以テ輕減シテ科罰ス可

キヤ勿論ナリ第二條第三條ノ如キハ最モ其効アルヘシ
 財政及ヒ取締上ニ關スル諸罰則ハ概チ一層ノ嚴格ヲ加ルコト一般ノ通則ナリ而シテ其立法者タル者ハ素ヨリ此刑法ノ法例ヲ熟閱シタル後能ク設立セント欲スル罰則ハ此法例ニ適スルヤ否ヤヲ檢シ制定スヘシト雖モ今ノ立法者タル者後ノ立法者ヲ拘束スヘキノ理由ナキヲ以テ此法例ヲ必スシモ新條例ニ適用スヘシト謂ニ非ラス故ニ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハト記シ別ニ總則ヲ立ルコトヲ得セシメタリ爰ヲ以テ之レヲ觀レハ本條第二項ハ唯其特例ナキモノハ此法例ヲ通シ用ユヘシト謂フニ外ナラサルモノナリ
 諸罰則ノ如キハ即今概チ區裁判所ノ管轄ニ屬シ新法實施ノ時ニ於テモ違警罪裁判所ノ管轄ニ屬スヘシト雖モ新聞條例讒謗律ニ觸ル、犯者ハ必ス輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スヘシ何トナレハ貴重ノ人權ニ關ス

ルモノナレハ之ヲ鄭重ニセサルヲ得サレハナリ現時ハ區裁判所ニ於テスルアリ本支廳ノミ管スルアリテ一定セス佛國ニ於テハ是等ハ皆重罪審院ノ管轄ト改メ諸學士ノ満足スル所ナリト云ヘリ

第二章 刑例

凡ソ刑罰ノ性質ハ如何シテ能ク其目的ニ達スヘキヤハ泰西諸國ノ律學士カ常ニ論究シテ止マサル所ナリト雖モ未タ其性質ニ適シタル刑ヲ見出シ難シト爲シ唯其性質ニ適スルニ近カルヘシト認メタルノミ我立法者モ亦困苦本章ヲ定メタルモ其理ヲ異ニセサルヘシ面シテ法學士カ論究シテ將ニ斯ノ如クナルヘシト爲シ我立法者カ採擇シタル主眼ハ左ノ六個ナリトス但シ之ヲ立法ノ原則ナリト通稱ス
一 補償スルヲ得ヘシ又回復スルヲ得ヘキヲ要ス何トナレハ或ハ裁判ノ失出入アリ恩赦ヲ行フヘキアルヲ以テナリ

二分割スルヲ得ルヲ要ス犯罪ノ情狀ヲ酌量シテ其過不及ナカラン

ヲ要スレハナリ

三 均一平等ナルヲ要ス受刑者ノ爲メ蒙ムル苦痛ニ輕重ナキヲ要スレハナリ故ニ各人ノ身ニ於テ輕重ナキ所ノ財産ト權利トチノミ奪ヒ其肉體ニ及ハサル時ハ自ラ平等ナルヲ得ヘシ

四 本犯ノ一身ニ止ルヲ要ス何トナレハ罪一身ニ在レハ刑モ亦一身ニ止リテ他ノ一族ニ及フヘキノ理ナケレハナリ

五 本犯ノ心術ヲ懲戒スルヲ要ス心術ヲ改良シテ再ヒ罪辟ニ陥ルヲナカラシメンカ爲メナリ

六 他ニ示シテ標準トナルヲ要ス一人ヲ罰シ他人ヲシテ見テ以テ自ラ警戒スル所アラシメ權義ヲ確守シ侵スコナカラシテ希圖スルヲ以テナリ

以上ノ數項其適度ヲ得難キ理由ヲ左ニ説明セン
 補償スルヲ得ヘク回復スルヲ要スルノ目的ハ甚ダ難キモノニシテ
 死刑ヲ廢スルノ論者カ根據ト爲ス所ナリ
 死刑ノ該目的ニ適セサルヤ論ヲ嫉マス其他ノ諸刑ニ於テモ亦然リ既
 往ハ勿論將來ニモ往々補償スヘカラサル者ナキ能ハス試ニ思ヘ刑ヲ
 以テ人ノ自由ヲ奪ヒ苦辛ヲ受ケシメシ者後日人力ヲ以テ之ヲ除却ス
 ルヲ得ルヤ社會ニ立ツノ身位ヲ毀傷シ權利ヲ奪ヒシ者亦再ヒ其名譽
 ヲ回復スヘキノ道アルヲナシ
 爰ヲ以テ死刑ヲ除クノ外ノ刑ハ將來ニ於テ其刑ヲ止メ已ニ受ケタル
 辛苦ヲモ成ルヘク補償シ得ヘキヲ勉メタリ
 而シテ名譽ナルモノハ一世ノ公論ヨリ成ル者ニシテ立法者ノ人爲ヲ
 以テ公論ヲ動かスヲ得ヘキモノニ非ス故ニ國事犯ノ刑ノ如キハ却

テ其汚辱トナラスシテ公衆ノ尊敬ヲ受クルニ至ル者ナシトセス
 立法者ノ本章ニ設定シタル所ハ廉恥ヲ破リシト認ル犯罪ニ向テ其体
 面ト權利ニ關スル刑ヲ科ス主刑ト附加刑ノ別ヲ立タル原因實ニ此ニ
 基クナリ
 分割スルヲ得ヘキヲ要スルノ目的ハ罰金禁錮及ヒ自由ヲ剝奪スル者
 ニ係ル有期重輕罪刑ニ於テハ皆其最少數ト最多數トヲ定メ記シタル
 ハ自ラ此ノ目的ニ達スルヲ得ヘシ然レモ無期ノ刑ニ至テハ又之ニ反
 スルナキヲ得ス故ヲ以テ佛國ニ於テハ革命後數年間無期ノ刑ハ非ナ
 リトシテ用ヒサリシト故ニ至重ノ徒刑ハ二十四年ノ長キニ至レリト
 聞ク然レモ之ヲ廢スルノ理由トナスニ足ラス爰ヲ以テ泰西諸國之ヲ
 廢シタルヲナシ唯之ヲ用ル場合ハ成ルヘク減少シタルノミ立法者此
 ノ刑ヲ以テ死刑ニ代ルノ具ト爲スニ至ル本邦モ亦又然リ

均一平等ナルノ目的ハ自由ヲ剝奪スルノ諸刑ニ於テ最モ之ヲ得タリ
蓋シ人ハ老幼男女ヲ別クス家族ヲ有スルニ於テハ其愛情決シテ輕重
アルヲナシ然ルニ其情愛ヲ割キ日用家事ヲ離レ且人世ノ幸福ヲ享有
スルヲ得サラシムルニ至テハ皆相異ナルヲ勿ルヘシ故ニ頗ル平等
均一ヲ得タリト爲スヲ得ヘシ

刑一人ニ止ルヲ要スルノ原則ニ就テハ家産沒收ノ如キ一族ニ其刑ヲ
及ホスヲ以テ廢スルヲ得レト罰金及ヒ家長ノ自由ヲ剝奪スル刑ノ如
キハ皆其一族ノ損害ト爲リ終ニ一家飢餓ニ迫ル者ナシトセス均一平
等ナルヲ要スル目的ニ反スルナキヲ得ンヤ金ヲ以テ科スルノ刑ハ犯
人ノ資産ヲ調査シ之ニ適應スル高キ科スルト均一平等ノ目的ニ達
スルヲ得ヘシト雖モ其調査容易ナラス爰ヲ以テ各犯罪ニ罰金ノ多數
ト寡數トヲ定メ其間ニ於テ法官ノ認定ニ任セ酌量輕重スルノ例ヲ立

ツルハ泰西諸國普ク用ル所ナリ而シテ本邦亦之ヲ採用シタリ

本犯ノ心術ヲ懲改スヘキヲニ就テモ亦反テ此目的ニ背馳スルヲアリ
即チ刑ノ爲メ却テ惡心ヲ固フシ懲改ノ法人ヲ改良スルニ足ラスシテ
或ハ同監囚ノ惡風ニ感染シ爲メニ惡心ヲ增長スル者ナシトセス
他ノ標準トナルヘキヲハ最モ得易キモノナリ刑ヲ公ケニシテ人ニ示
スルハ其刑如何ナル輕キモノト雖多少警戒自省心ヲ發生スルヲ得可
シ

以上論述スルカ如ク到底刑ノ完全ナルヲ得ヘキモノニ非サルナリ思
フニ犯罪者ニ待ツ所ノ刑ヲ改良セシヨリハ寧ロ其人ヲ教諭シテ罪ヲ
犯スヲナカラシムル尙ホ易シト謂フモ可ナリト

刑法ニ設クル刑ノ多寡ニ就テ其種類ト等級トヲ増スハ決シテ愛フヘ
キニ非ス蓋シ之ヲ増スハ刑ヲ嚴ニスルノ方法トナルニ非スシテ犯罪

ノ性質ト輕重トニ應シテ最モ公平ニ適施スルノ方法トナルヘシ何トナレハ重キニ過キ輕キニ失スルノ恐レナケレハナリ

今述ルカ如ク悉ク刑ヲ一ニスルヲ得スト雖又其種類多キニ過ルキハ無用ノ刑ナキヲ得サルノミナラス爲メニ危險ヲ生スルノ憂ヒナキ能ハス故ニ我立法者ニ於テモ多キニ過ルヲ無ラシテ務メタリ之ヲ外國ノ諸法律ニ比照セハ概テ本章ニ記スル所ヨリ多シ以テ其種類ノ多寡ヲ斟酌スルニ苦心セシヲ想像スヘシ

泰西諸國ノ法律ヲ閱スルニ大抵追放ノ刑ヲ設ケタリト雖モ我刑法ニハ之ヲ採用セズ其理何トナレハ追放ノ刑タル犯者ヲ懲改スルノ力薄ク他人ヲシテ警戒自省セシムルニ足ラサルノミナラス之レカ爲メ隣邦ニ害ヲ蒙ラシムル基ナレハナリ

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

此條ハ法律ニ於テ刑ト稱シ罰スヘキモノハ主刑ト附加刑ノ二種ニ分テ主刑ハ必ス之ヲ宣告シ附加刑ハ重罪ニ自ラ附加シ輕罪ニ至テハ各條特記シアル者ノ外ハ附加スヘキ者ニ非サルヲ以テ法律ニ其宣告スル者ト宣告セサルモノトヲ定ムト大綱領ヲ示セリ

主刑及ヒ附加刑ヲ設ケタル原理ハ前ニ述タル六個ノ原則解義ヲ以テ明知スルヲ得ヘキニ付爰ニ之ヲ贅セス本條ニ於テハ唯主刑ト附加刑トノ間ニ於テ實際何等ノ區別アリヤヲ說示スルヲ必要ナリト思フノ

三

主刑ハ裁判所ニ於テ必ス宣告シ其明文ニ依テ之ヲ施行スヘキヲ勿論

ナリ而シテ治罪法ニ其手續ヲ規定シタリ
 附加刑ハ二種アリ法律上ニ於テ必ス主刑ニ屬シテ離ルヘカラサルモ
 ノアリ此場合ニ於テハ別ニ宣告スルヲ要セス即チ法律上ニ於テ其主
 刑ヲ受ル者ハ自ラ其附加刑ヲ科セラル例ヘハ公權剝奪治産禁ハ有期
 無期ノ重輕罪ニ附屬スルノ類ナリ
 又附加刑ヲ主刑ニ附屬セシムルヲ必要ナリトスル所ニテハ唯其刑期
 ノ多少ヲ記ス此場合ニ於テハ法官其犯者ノ情狀ニ因テ其最多少數内
 ニ於テ定擬宣告スルノ權利アリ例ヘハ盜竊者エ六ヶ月以上二年以下
 ノ監視ヲ附加スルノ類ナリ而シテ此等ノ刑ノ多寡長短ヲ定ムルハ甚
 タ緊要ナリトス

新律綱領改定律例ニ於テハ皆主刑ノミニ附加刑ハ獨リ沒收ノ外ナ
 カリシカ此刑法ニハ第十條ニ明記スル六個ノ附加刑ヲ創設シタリ之

レ歐洲諸國殊ニ佛國刑法ニ載スル所ヲ斟酌シタルモノナリ而シテ我
 草按ニ於テハ佛律ノ如ク右ニ述タル二個ノ手續ノ外附加刑ヲ主刑ニ
 附スルヲ必トスルニ非ス時有テ附屬スルヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ
 附加スルト否トヲ以テ一ニ法官ノ認ル所ニ任放シ之ヲ宣告スルノ權
 ヲ與ルモノト起草セシモノナレト願布ノ刑典ニハ是等ノ自由ヲ法官
 ニ與ヘサルナリ

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四無期流刑

五有期徒刑

六重懲役

七輕懲役

八重禁獄

九輕禁獄

本條ハ單ニ重罪ノ主刑ヲ明記シタルノミ之レ第一條ニ於テ罪ヲ三種ニ分チタルモ何等ノ刑ヲ以テ重罪ト爲スカ輕罪ト爲スカ將タ違警罪ト稱スルカ知ルヲ得サルキハ甚不便ナルヲ以テ此條以下ヲ以テ其種類ノ區別ヲ明示セリ

該條記スル所ノ刑中死刑ノ外無期刑二個其他六個ハ皆有期刑ナリ而シテ無期有期ノ徒及ヒ重輕懲役ノ四個ハ常事犯ノ刑ニシテ無期有期ノ流刑及ヒ重輕禁獄ノ四個ハ國事犯ノ刑ナリトス
懲役ト禁獄トノ各輕重ヲ二段ニ分チタルハ唯其刑期ノ差アルニ由ル

ノミ其詳カナルハ後ニ說示スルヲアルヘシ

此條ニ記スル八個ノ刑死刑ヲノ性質ヲ概言セハ犯人ノ身ヲ拘束シテ除キ

其自由ヲ剝奪スルニ在リ其詳細ハ猶後條ニ於テ說示スヘシト雖モ法律上冗長ノ解ヲ避ンカ爲メ單ニ今示シタル一般ノ性質ヲ示スヲアリ又之ヲ有期無期ノ二個ニ區別シ各其効果ヲ差別シ示スモアリ彼是ニ就テ之ヲ觀察セハ法律上科罰スル所ノ刑ハ如何ナルモノナルヤヲ知ルヲ得ヘシ

本條ヲ大別セハ二個ナリトス一二四ノ項ハ皆無期ノ刑ニシテ其期限ヲ伸縮スルヲ得ス然レモ眞ノ無期タルモノハ獨リ死刑ニ止マレリ何トナレハ一度死刑ニ處スル以上ハ再ヒ之ヲ回復スル能ハス無期徒流刑ノ如キハ否ラス時アリテ恩赦若クハ裁判ノ失誤等ニ因テ之ヲ改正スルヲアルハナリ

凡ソ國事犯ヲ處スルノ法ハ各國皆鄭重ニシテ寛裕ナリ之レ國事犯ナル者ハ常事犯ノ如ク必シモ邪惡ノ心アルニ非ス且國法タルヤ他ノ道德ニ關スル法則ノ如ク永遠動カサ、ルモノ、如キニ非ス時勢ニ從ヒ釐革變遷スルコアルモノナレハ一時其方向ヲ誤ルモ愛國ノ赤心ヨリ生ズルモノ多ク之ヲ人民ノ權利ヲ侵害スル常事犯ニ比スレハ自ラ情狀ノ異ナル所アルヲ以テナリ故ニ泰西諸國概テ最上等ナル法廳ノ管轄ニ屬シ其刑ニ定役ナク我邦ニ於テモ高等法院ノ管轄スルモノトシ刑ニ定役ナク寛裕ニ侍偶スル所以ナリ

新律綱領改定律例ニ於テハ國事犯ヲ處スルノ明條ナキヲ以テ維新後謀反者ヲ處スル區々ナリシカ此刑法實施ノ后ハ皆同一ノ保護ヲ受ルヲ得ヘシ

有期ノ刑ハ皆法官其期限ヲ伸縮スルヲ得新律綱領改定律例ニテ贓罪

ハ悉ク金額ノ多少ニ因テ刑ノ階級ヲ立タリシカ此刑法ニ於テ刑規長短ノ法ヲ設ケタルハ犯情ニ因テ輕重伸縮スルノ權ヲ法官ニ與ヘタルモノナレハ第一條ニ說示セシ如ク法官宜シク其情狀ヲ審明定擬スヘキモノナリ

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

三 罰金

本條ハ輕罪ノ主刑ヲ指示シタリ輕罪ノ刑ハ其種類甚タ少シ即チ犯人ノ自由ヲ剝奪スルト所有金額ヲ收奪スルトノ二個アルノミ

然レモ常事犯ト國事犯トノ區別ハ尙ホ重罪ト同シ即チ輕禁錮ヲ以テ國事犯又ハ其他道德上ノ邪惡輕ク社會ノ害重キ犯人ニ科セリ第二編

以下ヲ通観セハ自ラ了解スルヲ得ヘシ

凡ソ輕罪ノ主刑ハ二個ナリト雖モ禁錮罰金其一ノミヲ科スルアリ或ハ之ヲ併科スルアリ而シテ附加ノ刑ハ特ニ各條明文アルニ非サレハ科スルヲ得サレトモ獨リ官吏ニシテ禁錮ニ處セラレシ者ハ別ニ宣告セスシテ當然現任ノ官職ヲ失ヒ刑期間私權ヲ停止セラレ是レ輕罪ニ固着シ離ルヘカラサルノ附加刑ナリトス（第三十三條參看）

又罰金ヲ納完シ能ハサル者ハ主刑滿限ノ后ニ於テ金壹圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮ニ換刑スヘキモノトス（第二十七條參看）

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

一 拘留

二 科料

本條ハ違警罪ノ刑ヲ定示シタルモノニシテ其刑亦二個ニ止ル而シテ

此種ノ罪ハ多ク道德上ノ邪惡ニ由ルニ非ス唯社會ノ公害アルヨリ罰スルヲ以テ拘留ニ定役ノ法ナク附加刑ヲ設ケス

泰西諸國ニ於テモ違警罪ハ皆然リトス本邦之ヲ施行スルハ明治六年ヨリ始マリ沖繩縣ノ如キハ今尙ホ實行セス而シテ此單行律ハ警察官ノ專斷スル所ナリシカ新法ニ於テハ別ニ一個ノ法衙ヲ構成シ審判セシムヘキモノトセリ

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 停止公權

三 禁治產

四 監視

五 罰金

六沒收

此條ハ唯附加刑ノ種目ヲ指示シタルノミ其詳細ハ後ニ說示スル所アルヘシ

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

該條刑ヲ執行スルノ方法ハ別ニ法則ヲ設ケ此刑法ニ記載スヘキモノニ非サルヲ示ス

渾テ犯人ヲ拘束スルノ法則ハ刑法ニ於テ規定スヘキモノニ非ルナリ若シ刑法刑ヲ執行スルノ細目ニ涉ルキハ却テ一般ノ目的ニ違フヲナキヲ得ス然レモ若シ其大綱ヲ記載セサレハ其執行ヲ管掌スル官吏カ擅横刑ノ輕重ヲ生スルヲアルヘシ故ニ其大要ヲ示スノミ刑ヲ執行スル諸規則ノ如キハ實際經驗ノ上屢之カ改正ヲ要スルモノ

ナリ故ニ刑法ノ外ニ於テ別ニ規定スルニ加ス刑法ハ固ヨリ改正スヘカラサルモノニ非サレモ永ク變更スルヲナキヲ目的トスルモノナリ本條ニ云フ諸規則ハ不日撰定シ必ス此刑法ト同時ニ實施セラルヘシト豫信ス

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

本條死刑ハ絞首ニ限ルヲ示ス抑モ死刑存廢ノ論議ハ歐米諸國ノ學士カ其正否ヲ論駁シテ止マサル所ナリ其論點タルヤ宗教上ヨリ論出スルト宗教不信上ヨリスルト政事家ノ主トスル處トノ三点ナリトス而シテ其論旨ハ冗長ノミナラス曩ニ草按ヲ講スルニ際シ說示セシヲ以テ諸君ノ知ル所ト信シ爰ニ贅

セス

本邦ニ於テモ死刑存廢ノ論ハ最モ刑法中其得失ヲ查究シタル者ナリ
漸次其數ヲ減シタルハ以テ之ヲ証スルニ足レリ

歐米各國ノ内現ニ死刑ヲ廢シタルハ葡萄牙暹嗎及ヒ瑞士ノ三國ナリ
白耳義三洲ノ内二洲ハ實際之ヲ行ハス魯士亞ニ於テハ下院既ニ可決
シタリト聞知スレハ早晚死刑ヲ廢止スルニ至ルヘシ其他佛國ヲ始メ
諸國未ク之ヲ廢スルヲ聞カス而シテ我立法者モ亦此刑ヲ必用ナリト
シテ本條ヲ設ケタリ然レモ死刑ヲ制限シテ國事犯ノ巨魁及ヒ天皇三
皇后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘタル罪尊屬親ヲ殺ス罪謀殺毒殺放火等
ノ罪ノミニ之ヲ施スヘキモノトセリ

死刑存廢ノ如キ大變革ハ固ヨリ一朝一夕ニ行ハルヘキモノニ非ラス
此刑ノ如キハ人ヲシテ畏懼ノ心ヲ抱カシムル最モカアルモノナリ故

ニ今本邦ニ於テ之ヲ廢スルハ寬ニ過ルモノトシテ之ヲ存セリ

犯罪中其最モ奸耍ナル尊屬親ヲ殺ス罪謀殺毒殺ノ罪放火大逆罪ノ如
キ者ニ死刑ヲ施スモ人心敢テ過嚴ノ情ヲ發セサルヘシ何トナレハ此
ノ如キ重罪ニ至テハ道德上ト社會ノ保護上トニ於テ死刑ニ非レハ滿
足スルニ足ルヘキ刑罰ナシト思想スヘケレハナリ然レモ是レ世人一
般ノ思想ナルヘシト認ルノミニシテ未ク以テ信ニ然リト言フヘカラ
ス且性理ト仁慈ト實驗トニ就テ之ヲ考察セハ此ノ如ク死刑ヲ制限ス
ルモ仍ホ其正否ト利益トノ有無ニ就テ大ニ論難スルコトナキヲ得サル
可シ

本條記スル所ハ其事二個ニ分レ兩ツナカテ頗ル議論アルコトナリシカ
我立法者ハ最モ其寬ニシテ善良ナルモノヲ採用シタリ其二個トハ何
ソヤ曰ク死刑ノ種類如何ト之ヲ決行スル公クニスヘキヤ否是ナリ

本邦ハ清律ト武門律トヲ撰用シタルヲ以テ苛嚴ノ梟首斬首等ヲ用ヒ
 タリシカ溫和ノ風俗ニ適セス以テ用ユヘカラストセリ
 昔日ニ在テハ歐洲ニ於テモ亦殘忍ヲ極メ火刑車裂等ノ如キモノアリ
 シト然レモ文明ノ進度ニ從ヒ死刑ノ主旨ハ生命ヲ奪フニ在リ人ヲ苦
 シムルノ具ニ非スト云ヒ之ヲ以テ直ニ法律ニ明示スルモアリ故ニ之
 ヲ殺スニ最モ速ニシテ最モ苦痛少キ方法ヲ求メ今行ハル、モノハ絞
 斬ノ二種アルノミ（英米ハ絞首シ佛國其他歐洲諸國多クハ斬首ス）
 本邦ニ於テモ現ニ斬絞二種ヲ用ヒタリシカ此刑法ニ於テハ絞ノミチ
 存シテ斬ヲ廢ス絞ノ斬ニ勝ル所以ノモノハ身首所ヲ異ニセス身体ヲ
 存シテ毀傷セス故ニ天壽ヲ以テ死セシト其形チ一ニス之ヲ受取リシ
 一族ニ於テ甚シキ殘忍ノ情ヲ發セス而シテ其犯人ヲ苦シメサルハ斬
 ト敢テ異ナラス數分時間ニ生ヲ奪フヲ得ヘキヲ以テナリ

死刑ヲ決行スル之ヲ公ケニスヘシト論スル者ハ曰ク人ニ示シテ畏懼
 ノ心ヲ生セシメサルヘカラス之ヲ公示セサルハ其利益ヲ失フト云
 フニアリ
 然レモ之ヲ公示スルノ利益ト因テ生スル危害トヲ相比照セハ却テ危
 害ノ大ナルヲ認ムルヲ得ヘシ若シ之ヲ公示シテ人民其苛酷ニ馴ル
 、片ハ其心自ラ惡ヲ爲スヲ恐レズ殘忍ノ体ヲ視テ感覺ヲ薄フシ終ニ
 殺伐ノ意ヲ生シ殘忍ヲ極ムルニ至ルヲアルヘシ
 人ヲシテ刑罰ヲ畏懼スルノ心ヲ生セシムルハ其刑名ヲ法律ニ示シ法
 廷ヲ開キ公衆ニ傍聽セシメ罪惡ハ法ノ罰スル所タルヲ知リ公ケニ判
 決ヲ爲シテ其責罰ハ免ルヘキニ非サルヲ知ラシムルヲ以テ充分ナ
 リトス豈刑場ヲ公示スルヲ要セシヤ
 爰ヲ以テ歐洲諸國多クハ死刑ヲ公行スルノ法ヲ廢シタリ其未タ之ヲ

廢セサル國ニ於テモ尙ホ之ヲ司ル官吏ニ於テ成ヘシ公衆ニ示サ、ル
ノ方法ヲ設ケ之ヲ行フ日ヲ前ニ公報セス其刑場ヲ狹隘ニシ刑壇ヲ低
フシ時限ヲ早且ニスル等實際衆人ノ傍觀スルヲ得サルヲニ注意スル
所トナレリ之レ我立法者カ彼ノ公論ヲ採用シ死刑ハ絞ニ限り且獄内
ニ於テ之ヲ行フモノト明記シタル所以ニシテ予カ善美ノ二方ヲ撰定
シタリト稱スル原由ナリ

死刑ヲ獄内ニ於テ行フ國ニ在テハ必ス法律ニ定ムル官吏ノ面前ニテ
決行スルヲ要ス其官吏トハ地方長官獄司及ヒ檢察官一人社會公衆ノ
代理トシテ臨檢スルヲ常トス思フニ本邦モ亦必ス此ノ如キ方法ヲ別
ニ設ケラル、ナラン

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非レハ之ヲ行フヲ得ス

該條死刑ハ單ニ重罪審廳ノ宣告ノミヲ以テ足レリトセス必ス司法卿

ノ命令ヲ待テ決行スヘキヲ記ス

死刑ハ他ノ刑罰ト同一視スヘカラサルヲ甚々明ナリ何トナレハ一度
決行シタル者ハ復ヒ回ラサルヲ以テナリ故ニ法律ニ於テ成ルヘシ丈
ケ其錯誤ヲ避ノ爲メ之ヲ行フノ早キニ失スル過チナキヲ要スル方法
ヲ設クルハ固ヨリ當然ナリトス

歐亞各國ノ實驗ヲ以テ視ルニ死刑宣告ノ後國君ノ特赦ヲ受ケシ者少
ナカラスト雖モ其決行早キニ失シテ遂ニ其特恩ヲ蒙ルヲ得サルニ至
リシ者少シトセス

死刑宣告ヲ受ケタル者大審院ニ上告シ及ヒ特赦請求ノ聽否ヲ知ルニ
依テ其決行ヲ遲延セシメ又ハ之ヲ決行セシムルノ命令ハ司法卿ノ權
内ナリトス之レ獨リ本邦ノミナラス歐洲諸國概テ然リトシ佛國ニ於
テモ亦同シ

新律綱領ニ於テハ屠腹華士族ノ破廉耻甚ニ係ヲサル大罪ニ用ユ梟首斬絞ノ四種アリシ
 カ其後屠腹ヲ廢シ又梟首ヲ除キ斬絞ノ二種ヲ用ヒ綱領頒布ノ時ハ死
 刑ニ即決貨幣偽造ヲ聽シタリシカ改定律例ヲ以テ悉ク上裁ヲ仰クモノト
 爲シ爾後巡回裁判ノ方ヲ設ケ上等裁判所ヨリ判事檢事各地方ニ巡回
 シ結審ノ後上裁ヲ請フモノトナシ又其後ハ各地方裁判長ニ於テ結審
 シ證據ヲ具シ檢事長ニ出シ大審院ノ批可ヲ請ヒ上告又ハ赦典ヲ乞フ
 ナ犯人ニ許サス決行セシムルモノト改メシカ新法典ニ於テハ重罪審
 院ヲ開設シ未タ陪審ノ法ヲ用ヒス裁判長直ニ之ヲ宣告シ檢事被告
 人ニ上告スルコト及ヒ恩赦ヲ請願スルノ權アルコトヲ定メタリ但シ法官
 檢事及ヒ犯人獄司モ亦恩赦ヲ請願スルコトヲ得ヘシ
 右裁判ノ手續恩赦ヲ請ヒ上告スル等ノ方法ヲ説クハ無用ニ非サルヘ
 シト雖治罪法ニ規定スル所ナルヲ以テ爰ニ之ヲ贅セス他日治罪法ヲ

講スルニ方リ詳説スヘシ

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

此條ハ死刑ヲ決行スヘカラサル日ヲ定メタル者ナリ大祀トハ先帝ノ
 祭日春秋二季ノ皇靈祭神嘗祭新嘗祭神武天皇祭元始祭大祓式等ヲ云
 令節トハ所謂三大節ニシテ一月一日ノ四方拜紀元節天長節ヲ云國祭
 トハ神宮祭及ヒ列聖ノ祭日ヲ云フ是等ノ日ハ公衆ノ祝賀或ハ齋戒謹
 愼スヘキ日ナルヲ以テ其祝賀ト一族ノ悲哀恥辱トヲ同日ニ行ヒ喜憂
 ナ一時ニ來サシムルハ法律ノ好ム所ニ非サルヲ以テ之ヲ防ク爲メノ
 良法ナリ

本條ノ意ハ各國ノ可決スル所ニシテ本邦之ヲ實行スルコト久シ矣
 此法ハ死刑ヲ公示スル國ニ於テ最モ至當必要ナリトス何トナレハ公
 衆祝日ニ之ヲ目視スルヲ欲セサルノミナラス猶一家族ノ不幸ハ假令

其不幸ヲ受クルノ實因アツテ然ルモ之ヲ祝日ニ行ハシムルハ忍ヒサル所アレハナリ

或ハ祭日ニ犯人ヲ捕ヘ無期以下ノ重輕罪ヲ行フハ不可ナリト論スル者アルヘシト雖モ予ハ此論ヲ非ナリト云ハンノミ蓋シ該祝日ハ唯慘狀ヲ目視スルヲ好マサルヲ以テ足レリトス畢竟死刑ハ其慘タル狀ヲ示シ世間ニ流布スルヲ以テナリ故ニ其犯人ヲ捕ヘ重輕罪以下ヲ處斷宣告スルハ法ノ禁スル所ナラス之レ本條特ニ死刑ノ執行ノミヲ禁シタル所以ナリ

新律綱領改定律例ニ於テモ祝日祭日ニハ刑ノ執行ヲ止メタレモ笞杖ヲ廢シ懲役ニ改メ上告ヲ聽シタル以後ニ於テハ宣告スルヲ妨ケス刑ノ執行ト裁判ノ宣告トハ決シテ同視スヘキモノニ非ス然ルニ今尙ホ止刑一日ノ令ヲ無期徒刑以下ニ用ル審廳アリ恐ラクハ笞杖ヲ宣告シ即

日執行スル時ノ慣習ヨリ止刑一日ノ令ヲ誤解シ居ルモノナルヘシ

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナルキハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

此條死刑ニ處スヘキ婦女妊娠シ居ルキハ其執行ヲ止メ産後一百日ヲ經テ行刑スヘキヲ定ム

本條ハ刑一人ニ止ルノ原則ニ基キシモノニシテ固ヨリ天理公道ニ適スルモノト謂ツヘシ何トナレハ婦女ハ其罪死ニ當ルヲ以テ生命ヲ奪ハル、モ胎兒何ノ罪カアル分娩ヲ待タズ刑ニ處スレハ無罪人ヲ死刑ニ處スル不正不理ノ法ナレハナリ

本條ハ佛國ノ刑法ニ基キ其他諸國ノ例ヲ參酌シテ制定シタル者ナレモ却テ佛國ノ法典ニ勝レリ佛典ニ於テハ婦女ヨリ懷胎ナルヲ申セサレハ之ヲ執行スルノミナラス其眞否ヲ檢査スルノ方法備ハラス産

後一百日ヲ待ツノ成法ナキヲ以テ或ハ無罪ノ胎兒ヲ刑スルコトナキヲ保セス故ヲ以テ法學士ノ論難スル所ナリキ

我草按ニ於テモ其明白ナラサル者ハ醫師二名ノ證告ヲ要スルノ明文アルニモセヨ佛律ノ如ク婦女其懷胎ナルコトヲ申述セサレハ刑ヲ決行スルノ文意ナルヲ以テ爰ニ之ヲ講スルニ方リ聊カ論難シ檢事法官宜シク注意スヘキ所ナリト述タリシ因果シテ其文意ヲ改正頒布セラレタリ

條文醫師ノ證告ヲ要スルノ明文ナシト雖其疑ハシキ場合ニ於テハ醫師二名以上ノ證告ヲ要シ懷胎ニ非サルコト明白シタル後ニ於テ決行スヘキコト勿論ナリ

又實地斯ノ如ク數月日ヲ經ルキハ婦女悲愁大ニ悔悟ノ良心ヲ發スルコトアリテ終ニ其刑ヲ寬恕シテ特赦減等ヲ哀訴スルノ基トナルコトモア

ルヘシ之レ實ニ法律ノ希望スル所ナリ

新律綱領改定律例ニ於テ懷胎ノ婦女ハ其本夫ニ保管セシメ産後一百日ヲ待テ其罪ヲ糾治スルモノナレハ本條ノ要旨ハ此ニ始メテ創定セシニ非ス固有ノ法律ヲ斟酌シタルモノト謂フヘシ然レモ此新典ニ於テハ本夫ニ保管セシムルコトヲ聽サス又審判ヲ産後ニ延スヲ要セス單ニ刑ノ執行ヲ止ムルノミ

然リ而シテ實際ニ於テハ或ハ産後ヲ待テ審判ヲ始ムルヲ要スルコトモアルヘシ何トナレハ妊娠月ヲ重ルキハ身体自在ナラス隨テ舉証辯護充分ナラス其情狀ヲ盡サ、ルノ恐レアレハナリ如此場合ニ於テハ法ノ禁スル所ニ非レハ證告證憑ヲ具備シ其審判ヲ遷延スルモ妨ケナカルヘシ

○第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒ

テ葬ルコトヲ許サス

該條ハ死刑ニ處スルモ遺體ハ尙ホ親屬舊友ノ請ニ因テ之ヲ下付ス可
キコトヲ定示セリ

本犯罪アリト雖モ已ニ生命ヲ奪ハル、キハ即チ其罪ヲ社會公衆ニ償
ヒシ者ナレハ亦昔日ノ如ク其死体ヲ暴シ死者ニ再ヒ刑ヲ加ヘ合セテ
其一族ニ恥辱ヲ増シ愁傷ヲ加フヘキノ理ナキヲ以テ本邦疾ク之ヲ廢
シ新典ニモ亦本條ヲ設ケタリ

歐米諸國ニ於テモ昔日ニ在テハ屍体ヲ刑場ニ懸ケ骨節ノ崩ル、マテ
之ヲ存シ人ヲシテ見テ以テ畏懼自警心ヲ發生セシムルノ具ト爲シタ
ルコトアリト雖看者此慘狀ニ馴レ自ラ殘忍殺伐ノ風ヲ爲シ却テ畏懼自
警心ヲ生スルノ効ヲ減シタルノミナラズ人情天理ニ背戾シ刑罰ノ主
旨ニ非サル眞理ヲ覺リ皆之ヲ廢シ遺骸ハ概チ親屬故舊ニ下付スルコ

ニ改メタリ

然リト雖モ親屬故舊之ヲ受取タル後葬ルニ必須ノ用意ヲ爲ス時間ノ
外永ク之ヲ保存シ又ハ儀式ヲ以テ埋葬スルコトハ禁セサルヘカラス何
トナレハ處刑ノ後反テ衆人ヲシテ爲メニ憫恤愛惜ノ情ヲ發セシメ刑
罰ノ權力ヲ減殺スルコトアルヲ以テナリ故ニ之ヲ禁シ其時間ナカラシ
ムルハ歐洲諸國ノ可決スル所ニシテ本邦亦此主義ヲ採リ本條但書ヲ
以テ之ヲ禁シタル所以ナリ

新律綱領改定律例ニ於テモ奸惡無比ノ犯人ハ其首ヲ梟シタルモノナ
リシカ明治十二年ニ至リ之ヲ廢シタリ

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス
有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

本條ハ男夫ノ徒刑人ヲ悉ク一定ノ島地ニ移シ至重ノ役ニ服セシム可

キヲ定示ス

之ヲ島地ニ發遣スルハ逃脫ノ患ヒナカラシメシメテ爲メナリ從來徒刑懲役ノ重罪囚ニ連鎖ヲ着ケ種々ノ方法ヲ設ケ使役シタレモ屢連鎖ヲ解脫シ惡業ヲ爲シ社會ヲ害シタルヲ以テ新興ニ於テハ内地ニ遠隔ナル島地ニ移スモノト定メタリ此ニ至リ囚人一層ノ嚴格ナルヲ思フヘシ何トナレハ從來ハ内地ノ獄ニ居リ親屬ニ面會スルヲ得タレモ將來ハ遠隔ノ島地ニ移サレ容易ニ親屬ニ面接スルヲ得サレハナリ島地ハ何レヲ撰定セラル、カ追テ布告セラルヘシ又實驗ノ上其所ヲ變スルコトアルヘシ是等ハ皆行政上ノ處分ニシテ刑法ノ關スル所ニ非サルヲ以テ刑法ニハ唯島地ニ移スヘキコトヲ示ス

佛國ニ於テ有期徒刑ノ刑期五年以上二十年以下ナリトスルヲ以テ長短ノ間太々隔絶シ懲役ノ刑期五年以上十年以下ナレハ徒刑ノ短キハ

懲役ヨリ短キ者アリ不權衡ト云ハサルヲ得サレモ本邦ニ於テハ是等ノ不都合ヲ避ケ有期徒刑ハ十二年以上十五年以下懲役ハ十一年ハ過キサルモノトセリ獨リ徒刑ノミナラス皆然リ爰ヲ以テ之ヲ觀レハ泰西諸國ノ法律ニ勝ルト云モ過言ニ非サルカ如シ

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

該條婦女ハ男夫ノ如ク逃脫ノ憂ヒ少ク体力薄弱ナルヲ以テ徒刑ニ處スルモ島地ニ移サズ内地ノ懲役場ニ於テ相當ノ役ニ服サシムルヲ示ス是レ專ラ仁慈ノ道ニ基クナリ

本邦婦女ヲ刑ニ處スル男夫ヨリ寛裕ナルハ固有ノ慣例ナリ婦女ハ其質柔弱ニシテ力役ニ堪エサルヲ以テナリ故ニ敢テ外法ニ倣ハス本條ヲ設ケタリ

新律綱領改定律例ニ於テハ婦女ノ犯罪姦盜不孝人命放火ノ罪ヲ餘ク外總テ收贖ニ換ヘ實斷セズ其贖金モ極メテ輕キモノナリシカ新典ニ於テハ婦女ト雖モ收贖ヲ聽サス服役ヲ輕クシ悉ク男夫ト同ク實斷スルモノトセリ

又新律綱領ノ有期刑ハ十年ニ過ルモノナク死刑トノ間隔絶シ甚タ不權衡ノコアリシカ改定律例ヲ以テ終身刑ノ一段ヲ設ケ絞ニ處セシ者ヲ多ク之ニ代ヘ刑期ノ權衡ヲ補ヒシカ尙ホ立法者之ヲ以テ足レリトセズ徒刑ニ二種ヲ設ケ一ハ十五年ニ至ルノ刑期トナシ死刑ヲ減シ彼ノ不權衡ナカラシクシテ望ミタリ

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其体力相當ノ定役ニ服ス

本條ハ無期有期ヲ問ハス男女ヲ分タス囚人年六十ニ滿ル者ハ通例ノ

服役ヲ免シ體力相當ノ定役ニ服サシムヘキコトヲ示ス是レ全ク仁慈ノ要旨ニ出タル者ニシテ獨リ本條ノミナラス以下ノ諸條ニ於テモ亦此ノ如キ恩旨アルヲ見ルヘシ
自由ヲ剝奪スル刑ニ處スル者ハ皆各之レニ屬スルノ定役アリテ始メヨリ輕役ニ服スルコトヲ許サス故ニ其年老テ衰弱シ遂ニ之レカ爲メ死ヲ來スコトナシトセズ此ノ如キハ救助セサルヘカラス是レ本條ヲ設立シタル所以ナリ故ニ其判決ノ日已ニ六十年ニ滿ル者モ刑期中此年齡ニ至ル者ト同ク此恩典ヲ蒙ルヘキハ理ノ當然ナリ而シテ此等ノコトハ監獄則チ以テ別ニ其細則ヲ規定セラルヘシ刑法ニハ唯其體力相當ノ役ニ服スヘキコトヲ示スヲ以テ足レリトス

本條ハ佛國ノ刑法ニ基キ歐洲諸國ノ定律ヲ酌ニ撰定シタルモノナリ彼諸國ニ於テモ老者ヲ憫ム概チ本條ノ如シ

新律綱領改定律例ニ於テハ年七十以上ノ者ハ十五以下ノ幼者ト同ク死刑ヲ除クノ外総テ收贖ヲ聽シ實斷セス刑期中七十ニ滿ル者モ亦余罪ヲ收贖ニ換ヘ放免シ八十以上ノ者ハ其罪ヲ同ハサリシカ此ノ新典ニ於テハ七十以上ニ至ルモ收贖スルヲ聽サス

又舊律ニ於テハ祖父母父母年七十以上ニシテ家ニ侍養ノ子孫ナキ時ハ收贖ニ換ヘ留養セシメタリシカ新典ニハ之ヲ聽サス

又舊典ニ於テ囚徒役限内ニ廢疾ニ罹ル者ハ斷決ノ時廢疾者ト同ク余罪ヲ收贖ニ換ヘタリシカ新典ニハ之ヲ許サス

舊典ニ於テハ右ノ如ク換刑ノ法種々アリシヲ以テ或ハ子孫ノ籍ヲ移シ婦妻ヲ離別シ疾病ト詐稱シ醫ヲシテ不治ノ症ト診斷セシメ收贖ヲ聽サレシヲ謀ル等種々ノ弊害アリシカ爾來此ノ如キ弊害ハ生セサルヘシ然レモ亦一方ヨリ觀察スルキハ眞ニ留養ノ子孫ナキ老者幼年

者ノ如キ自活ノ道ナキ者ハ甚ク憫レムヘキ結果ヲ生シ法律ノ過嚴ヲ怨嗟スル者ナキヲ保セス此ノ如キ場合ニ於テハ恩赦特典ヲ請ヒ刑族人ニ連及セシメサルノ原則ニ背戾セサルノ處置ナカラサル可ラス

幼者廢疾者ヲ處スルノ方舊典ト異ナル所アルハ他ノ條ニ於テ示サン

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

本條流刑ハ内地ト遠隔ナル島地ノ獄内ニ入ルヘキヲ記ス而シテ此刑ハ國事犯ニ施ス重刑ナルヲ以テ定役ニ服セサルモノトス

然レモ各囚ノ好ム所ニ從ヒ相當ノ業ニ就キ其作業ヨリ生スル利益ヲ所得トシ其親屬ヲ救助シ又ハ限滿テ後ヲ自己ノ資本ト爲スヲ得ヘシ草按ニハ其利益賃金ヲ三分シ其一ヲ獄ニ收メ殘ル二分ヲ所得トスヘキヲ記シタルモ是等ハ行政上ノ處分ニ屬シ刑法ノ關スル所ニ非

サルヲ以テ新典ニ之ヲ載セス必ス別ニ監獄則チ以テ細法ヲ規定セラ
ルヘシ

國事犯ヲ島地ニ移スハ流囚ヲシテ人民輻湊ノ内地ヨリ遠カケ騷亂事
アルノ日ニ際スルモ兇徒ノ爲メ獄ヲ解カル憂ナキト逃脫ヲ防カント
欲スルニ在リ且遠地ニ流スルハ家屬ト遠隔シ著シク悔悟ノ好結果ヲ
顯ハス可シ

而シテ有期ノ最重刑ハ其長期無期刑ニ近付サルヲ要シ短期ハ是ヨリ
輕キ刑ノ長期ヨリ短カ、ラサルヲ要スルヲ以テ十二年以上十五年以
下ト定メタリ以下各條ノ長短期ヲ定メタル理由モ亦同シ

國事犯ト雖定役ニ服スル義務ナク之ニ服スルト服セサルトハ各自ノ
所好ニ任スモノト法律ニ定ムルルキハ懲戒ノ効薄ク刑罰ノ本旨ニ背ク
トシ又流刑ハ其性質定役ニ服スヘキモノニ非ストシ歐州諸國ニ於テ

モ役ニ服セシムルアリ服セシメサルアリ其論未ダ一定セサリシカ本
邦ニ於テハ流刑禁獄禁錮ノ刑ニ處スル國事犯ニハ定役ニ服スルノ義
務ナキモノト定メタリ

島地ハ何レヲ撰定スヘキカ固ヨリ行政上ノ處分ニ屬シ政府ノ特權ナ
リト雖昔ヨリ住民多キ地ニ徒流ノ囚ヲ移スルハ住民ノ危害少カラ
サルヲ以テ能ク其地ヲ撰マサルヘカラス到底徒流囚ノ如キハ概テ過
激不良ノ徒ナレハ復タ惡事ヲ爲シテ毒ヲ其地方ニ流スルナキヲ保ス
ヘカラス昔日英國ニ於テ流囚ヲ北亞墨利加ニ遷適セシニ其徒反逆ヲ
企テ終ニ本國ニ抗敵シタルアリト如此ニ至テハ豈唯其地方人民ノ
損害ノミナランヤ豫メ慮ラサルヘカラス

第二十一條 無期流刑ノ四五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ
免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

本條ハ無期流囚五年有期流囚三年ヲ經タル後ニ至レハ其情狀ニ因リ行政上ノ處分ヲ以テ其幽閉ヲ免シ地ヲ盡シテ居住セシムルヲ得ルモノトセリ

流囚カ島地ニ於テ別ニ一家ヲ立テ之ニ居住スルヲ許可スルハ素ヨリ政府ノ特權ニシテ與ルト與ヘサルトハ自由ナリ而シテ之ヲ與ルハ何等ノ情狀アル者ニ限ルカ其結果ハ如何ノ点ニ達スルカハ最モ見易キ所ナルヘシ

之ヲ許可スルハ罪囚ニ之ヲ受クルノ權利アルニ非ス又政府之ヲ與フルノ義務アルニ非ス單其褒賞トシテ行政上之ヲ許スモノナレハ規則ニ從テ謹慎能ク獄法ヲ守リ悔悟ノ情著シキ者ニ非サレハ此恩典ヲ蒙ルヲ得ス他ノ標準トモナルヘキ行狀アルニ非サレハ此恩典ヲ許可

スヘキ者ニ非サルヤ明矣

之ヲ許可セテレタル者ハ其親屬ヲ招キ之ト同居スルヲ得ヘシ而シテ其親屬ハ何等ノ者ニ限り之ヲ許スヘキヤハ法律ノ制限スル所ニ非ラス配偶者ノ如キハ最モ先ツ許スヘキモノナルヘシ其尊屬卑屬ノ親モ亦其年齢ニ從テ許可スヘシ例ヘハ囚徒幼年ナレハ其父母ヲシテ共住養育セシメ罪囚老年ナレハ其子弟ヲ共住侍養セシメサルヘカラサルカ如シ此ノ如ク論究シ來レハ其兄弟姉妹甥姪ニ至テハ他ノ近親ナキ外共住セシムルノ理由ナキカ如シ

此ノ恩典ヲ許スニ於テハ更ニ附帶シテ一ノ特許ヲ要スルヲ勿論ナリ其自ラ耕作スル土地若干ヲ貸與スルト其資本是ナリ

此ノ如クスル時ハ服役ヲ義務トセサルノ法ト雖モ仍ホ競フテ服役ヲ請ヒ耕作其他ノ作業ヨリ利益ヲ生スルヲ多カルヘシ

之ヲ許可スルキハ頗ル自由ヲ與ル如クナルモ謫所ノ諸規則ヲ遵守スヘキハ勿論ナリ若シ其規則ヲ遵守セス謀反ヲ企テ又ハ他囚ノ地ヲ侵シ及ヒ盜竊鬥爭等ノ惡業アルキハ再犯トシテ罰セラレ其刑期中ハ以前ノ如キ寬典ヲ得ルヲ能ハス

問假出獄ヲ得タル者ハ其出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル場合ニ於テ直ニ其効ヲ失ヒ刑期中再ヒ出獄ヲ許サスト第五十五六ノ兩條ニ明記シアリ而シテ流刑ノ囚幽閉ヲ免サレタル者ニ限り其効ヲ失フヲ記セサルハ其主意果シテ如何

答流刑ハ國事犯人ニ用ル刑ニシテ其所爲タル一家一身ノ爲メニスル犯罪ト異ナリ國家ヲ憂フルノ余リ終ニ一身ヲ妄レテ罪辟ニ陷ル者多シ其情狀又憫諒スヘキモノナリ故ニ法律上國事犯ヲ處スルハ常事犯ト同一視セス尤モ寬裕ナラサルヘカラス爰ヲ以テ流囚ノ

幽閉ヲ免カレシ者ニ限り其効ヲ失フヲ特記セス此レ假ノ處分ニ非ス一度與ヘタル上ハ復タ取消サ、ルノ意ナリ然リト雖モ其効ヲ失フニ制限ヲ立テサルハ一ニ寬裕ノミト云フヲ得サルヲアリ何トナレハ身持宜シカラス再犯ノ恐レアリト行政官ノ想像ノミヲ以テ幽閉ヲ免ル寬典ノ効ヲ失フヲナキヲ保スヘカラサレハナリ夫レ職業ヲ怠リ酒色ニ沈溺シ父母ニ孝ナラス兄弟ニ順愛ナラス朋友ニ信ナラサルカ如キハ法律責罰スヘキ者ニ非サルモ亦以テ概シテ德義ヲ破ル不品行ナリト云フヘキノミ如斯所爲ノミニシテ幽閉ヲ免ル、ノ寬典ヲ停止セラル、アラハ豈苛嚴ナルニ非サルカ歐洲各國中幽閉ヲ免シ出獄ヲ得セシムルノ寬法ヲ設ケタル國ナク獨リ伊太利ノミ之ヲ設クト而シテ其法モ亦之ヲ失フノ制限ヲ立テス單ニ不品行ノ一語ヲ以テ失フモノトスルヲ以テ漢トシテ際限ナク行政官ノ

專恣ニ出ルアリテ却テ苛嚴ニ涉ルアルヘシト學士ノ論難多シト聞
 シ本條幽閉ノ如キモ亦斯ノ如キナキヲ必トセシヤ且夫レ國事犯ニ
 シテ禁獄以下ノ囚徒ハ第五十五六條ノ明文ニ依リ假出獄ヲ得テ再
 ヒ輕重罪ヲ犯スニ非レハ其効ヲ失ハス同シク國事犯ニシテ一ハ幽
 閉ヲ免ル、一ヲ示シテ其効ヲ失フヲ明記セス一ハ以テ其効ヲ失
 フノ制限ヲ明示スルハ權衡平ヲ得サルモノ、如シト雖モ能ク之ヲ
 深思セハ其然ラサルヲ知ルヘシ法律幽閉ヲ免スヲ記シテ其効ヲ
 失フヲ明示セサルハ其効ヲ失フヲナキノ明徴ナルヘシ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者
 ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

本條懲役ハ内地ノ懲役場ニ繫キ役ニ服シテ懲戒スヘキヲ記ス刑名

ノ順序ヲ追ヒ常事犯ノ刑ニ於テ輕重懲役ノ二種アリ

懲役ニ輕重ノ二段アルモ唯其長短ヲ區別シタルノミ其刑場モ亦別異
 セス流徒ノ如ク島地ニ發遣セサルナリ

輕重ノ區別ニ從ヒ服役ノ法同シカラサルヘシト雖モ是等ハ刑法ノ關
 スル所ニ非サルヲ以テ敢テ爰ニ贅セス但シ老者ヲ寬ニシ年限ヲ規定
 シタル理由ハ前ニ説タル所ト同シキヲ以テ再説セス

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

該條ハ刑名ノ順序ヲ以テ禁獄ニ處スル者ハ島地ニ移サス内地ノ獄ニ
 幽閉スヘキヲ記ス而シテ其刑期ハ懲役ニ同シ

流囚ニ於テハ前ニ説タル如ク別居自營スルヲ許ス恩典アリト雖モ
 禁獄ニ於テハ是等ノ恩典アルヲナシ然レモ獄内ニテ所好ノ業ニ就キ

利益ヲ得ルヲ得ヘシ

草按ニハ流地ニ移リ恩典ヲ請ハント欲スル者ハ流囚ト同ク之ヲ許可スヘキヲ記シタレモ此刑典ニハ之ヲ刪除シタリ

以上ハ皆重罪ト稱スル刑ニシテ前ニモ説タル如ク新律綱領改定律例ニ於テハ國事犯ヲ處スル成文律ナク流刑ヲ用ヒタルヲナシ流刑禁獄ノ刑ハ泰西諸國ノ法律ヲ斟酌創立シ草按ニハ死ニ入レサルモノトセシカ此刑典ニ於テハ巨魁ヲ死刑ニ處ス而シテ佛國其他ノ諸國モ或ハ之ヲ死刑ニ入レ又ハ無期流刑ニ處ス其有期刑ノ年限ハ總テ本邦ノ定ムル所ヨリ長シ佛國ニ於テハ其長期ヲ二十年ナリトス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長

短ヲ區別ス

該條以下ハ皆輕罪ノ刑ニシテ重禁錮ノミ定役ニ服シ其他ノ輕禁錮拘留ニハ定役ナキモノトス而シテ禁錮ハ輕重ヲ分タス其刑期十一日以上五年以下ナリトシテ各條々ニ其長短ヲ規定シタルヲ本條ニ示ス故ニ重罪ニ於テハ直チニ前條々ニ記スル長短期ノ中ヲ以テ法官其刑期ヲ擬定スヘキモノト雖モ輕罪ニ至テハ直チニ本條ノ長短期內ヲ斟酌擬定スルヲ得ス必ス各本條ニ定メタル長短期中ニ於テ其刑期ヲ定メサルヘカラス畢竟本條ハ其大綱ヲ示シタルモノト解得スヘシ輕罪ノ刑之ヲ佛朗西語ニ原ヌレハ「ペイス、コルレクシヨチール」ト云フ其字義タルヤ罪犯ヲ懲改スルノ義ナリト云然レモ因ヨリ死刑ヲ除クノ外ハ皆此懲改ヲ目的トシ其効ヲ有セサルハナシト雖モ重罪ノ刑ニ於テハ其主タル目的ハ其犯人ヲ責罰スルノ

點ニ在テ懲改ハ第二ノ目的トスル所ナリ輕罪ノ刑ニ至テハ之ニ反シ
 責罰ヲ第二トシ法律ノ冀望スル第一ノ主眼ハ之ヲ改良シテ再ヒ罪惡
 ニ陥入ラサテシメントスルニ在リ何ヲ以テ之ヲ知ル曰ク其目的ヲ達
 セシメシカ爲メ法律ハ輕罪囚ヲシテ重罪囚ト監ヲ同フセス禁錮拘留
 共之レカ居テ異ニスルモノト定メタリ即チ本條ニ於テハ禁錮場ニ留
 置スト記シ懲役囚ト同居セシメス第二十八條ニ於テ拘留場ニ云々ト
 記シ各之ヲ別異スルハ其目的ニ非スシテ何ソヤ之レ輕囚ヲシテ重囚
 ノ惡風ヲ傳染シ邪心ヲ增長セシメサルコトニ注意シタルモノナリ獄內
 ニ於テ各人ヲ別居セシムルノ法ハ歐米各國未ダ一定ノ公論ナク白耳
 義英吉利佛朗西ノ如キハ久シク此法ヲ實施シ太々善良ナリト主張ス
 ル論者多キト同時ニ亦非論スル者少ナカラスト云

萬國監獄公會ハ已ニ巴里府ニ於テ開設シ本邦亦其委員ヲ派出シタリ

ト聞ケハ懲改法ニ於テ必ス一層ノ明論ヲ得嘗テ一定セサルモノヲ確
 定シ本邦ニ於テモ善良ノ改正アルヘシト信ス
 禁錮ノ刑分テ二種トス一チ經禁錮ト稱シ定役ニ服セス國事犯又ハ常
 事犯人中社會ノ公益ヲ侵害スル重キモ道德上ノ惡輕キ者ヲ罰スルノ
 刑ナリトス例ヘハ官名徽章記号ヲ借用スルノ類但シ因テ詐欺取財ノ
 所爲ナキ者ニ限ル又ハ衛生上ノ規則ヲ犯シ公務ヲ行フコト拒ム罪及
 ヒ官吏職務上ノ犯罪新聞條例讒謗律ニ觸ル、犯者ノ如キ是ナリ
 又一チ重禁錮ト稱シ心術不善行爲モ亦不良ニシテ道義ヲ破ル大ナル
 ノミナラス社會ノ危害多キ者ヲ罰スルノ刑ナリ例ヘハ盜竊又ハ偽證
 罪ノ如シ第二三編ヲ通讀シテ其然ルヲ知ルヘシ
 其他一等又ハ數等ヲ加減スルノ順序ヲ說シハ必用ナリト雖モ後ニ之
 ヲ詳説スヘキ所アルヲ以テ彼條ニ至リ例ヲ示シテ細論スヘシ

本條長期ヲ五年ト定メタルハ懲役ノ短期ト混セサルカ爲メ短期ヲ十日トシタルハ拘留ノ長期ト混セサルヲ要スレハナリ然レモ或ル場合ニ於テハ禁錮ヲ七年ニ登セ拘留ヲ十二日ト爲スヲアリ之レ其罪ノ種類ヲ加等ノ爲メ變スルヲ得スシテ加重セサルヘカラサルノ情狀アルヲ以テナリ刑ノ權衡ヲ保タント欲セハ然ラサルヲ得ス佛國ニ於テモ亦其主旨チ一ニス

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス

本條定役ニ服スル囚人ノ賃錢ハ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ幾分ヲ囚人ニ給與スヘキヲ記ス

工錢ノ幾分ヲ本犯ニ分附スル所以ノモノハ囚人滿期放免ノ後就業ノ

資本ト爲シ活路ヲ得セシメントスルニ在リ重罪囚ノ如キハ概テ資産ナキノミナラス他人ノ信用ヲ失ヒ交際取引ヲ爲シテ業ニ就キ難キ者ナレハ終ニ再ヒ罪ヲ犯スニ至ルヘキヲ以テナリ

無期刑ト雖モ十五年間行狀善良ナレハ仮出獄ヲ許スヲアリ且囚人ノ得ヘキ工錢ハ其親屬ヲ助成シ又ハ滋養品ヲ買フヲ得ヘケレハ囚人ヲ獎勵セシムルノ良法ナルヘシ

又罪囚ノ利得ヲ増スト俱ニ獄署ノ入額ヲ増加スルノ利益アリ

然リト雖僅少ナル日數ニテハ是等ノ方法以テ能ク其目的ヲ達シ得可キニ非ス且定役ニ服スル者ノ如キハ概テ産業ナク獄費ヲ償フノ工錢ヲ得難キ者ナルヲ以テ現役百日以下ノ囚人ニハ給セサルモノトス本邦ニ於テ此方法ヲ用ルコ久シ舊典ト敢テ異ナルヲナシ之レ單ニ本邦ノミナラス近世各國ニ於テモ罪囚ノ作業ヨリ生スル利益ハ其一部

ナ本犯ニ給シ一部ヲ獄舎ノ費用ニ收ムルヲ例トス獨リ怪シム佛國ニ
 於テハ本邦ノ法則ニ反シ輕罪囚ニハ百日以下ト雖モ給スルノ例アル
 モ重罪囚ニ於テハ此利益ヲ受クルヲ許サス
 重罪囚ノ生計ヲ得ルニ難キハ輕罪囚ノ比ニ非サルヘシ何トナレハ世
 人ノ信用ヲ失フ一更ニ大ナレハナリ然ルニ其輕キ者ニ給與シ重キ者
 ニ給與セサルハ豈不當ニアラサルナキヲ得ンヤ
 定役ニ服セサル囚人其所好ニ因テ作業ヲ爲シ生スル利得ノ一ハ此刑
 法ニ記セサレモ定役アル囚人ヨリ其割前ヲ多ク利得トスルヲ得ヘキ
 ハ理ノ當然ニシテ各國皆然リトス本邦ニ於テモ亦必ス此ニ外ナラカ
 ルヘシ而シテ是等ノ規則ハ別ニ監獄則ヲ以テ定メラルヘシ
 第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス
 本條ハ輕罪ニ於テ第二ノ主刑タル罰金ノ最少數ヲ示ス其最多數ヲ記

セサルモノハ各本條ニ多寡數ヲ記スルヲ以テナリ而シテ最少數ヲ二
 圓ト定メタルハ科料ノ金數ト混セサルヲ要スレハナリ
 罰金ハ法律各條ニ於テ記定スル所ニ從テ禁錮ト併セ科スルアリ又單
 ニ此刑ノミヲ科スルアリ
 新律綱領改定律例ニハ罰金ノ刑ヲシ此刑法ノ創設ニ係ル爰ヲ以テ立
 法者ハ歐米諸國ノ法律ヲ參酌シ最モ寬裕ナル一ヲ力メタリ之ヲ各國
 ノ法律ニ照セハ其小數ナルヲ以テ知ルヘシ
 佛國ニ於テハ刑法ニ罰金ノ定數ナシト云モ可ナリ何トナレハ何レノ
 場合ニ於テモ裁判官之ヲ多寡スルノ全權アルノミナラス或ル場合ニ
 ハ情狀ニ依テ變化スヘキ金額ヲ以テ根基トナシ依テ以テ其多寡ヲ定
 ムヘキモノアレハナリ例ヘハ官吏賄賂ヲ受ケタルカ如キ其罰金ハ其
 結約若シクハ受領セシ金額ノ二倍ノ高トアリ(佛刑法第一百七十七條)又

官吏自ラ監督ノ權ヲ有スルコトニ就テ私ニ利ヲ營ム者ハ其得タル金額ノ十二分ノ一ヨリ少カラス十二分ノ三ヨリ多カテサル罰金及ヒ其金額ヲ沒收ストアリ(其刑法第七十五條)第七十四條ニモ之ノ類スルコトヲ記セリ此ニ因テ之ヲ見レハ佛國ニハ刑法中ニ於テ一般最多數ノ一定セル者ナキカ如シ

此刑典ハ佛國ノ如ク不正ノ利ヲ得タル金高ニ根基スルコトヲ做ハス然リ而シテ税法ニ關スル罰金ハ其最多數ヲ制限セサルモノアリト雖モ是等ハ單行律ニシテ刑法ニハ關セサルモノトス例ヘハ酒類隱造證印稅煙草稅則ノ類ナリ

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過ルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

本條罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ三十日内ニ完納セシムル者ナルモ若シ三十日内ニ納メサル者ハ金一圓ヲ日數一日ニ折算輕禁錮ニ換ヘ而シテ此換刑ハ檢事ノ請求ニ因テ別ニ裁判ノ法式ヲ要セス裁判長之ヲ命命スヘキコト已ニ禁錮ニ換ヘタル後タリモ本犯若シクハ親屬他人ヨリ代テ罰金ヲ納メタル時ハ其經過ノ日數ヲ扣除シ殘ル日數ヲ一日金壹圓ノ折算法ヲ以テ算出放免スヘキコトヲ記ス

罰金ヲ禁錮ニ換ルハ適當ナレトモ之ヲ換ルニハ寬裕ノ法ヲ取ラサル可ラス故ニ本法ニ於テハ先ツ一人一日ノ工錢大抵一圓ニ登ラサルヘシ

ト豫想シ一圓ヲ以テ禁錮一日ニ交換スヘキ者ト定メタリ然レモ禁錮ノ年限數年ニ至ルコアリテハ太ダ過嚴ニ涉ルヲ以テ換刑ハ二年ニ過ルコヲ得サルモノトセリ而シテ此刑法ニ於テ罰金ヲ換テ二年ノ禁錮ニ至ルヘキモノアルナシ然ラハ則チ此制限ヲ立ルモ無用ナル乎ノ疑ヲ生スヘケレモ然ラス他ノ稅則ニ係ル罰金ト雖モ禁錮ニ換ヘ二年ニ過ルコヲ許サ、ルモノナレハ此制限ナカラサルヘカラス

罰金ハ之ヲ科スルモ無力ニシテ眞ニ完納シ能ハサル者アリ又惡意ヲ以テ其資財ヲ隱匿完納セサル者アリ豫メ其區別ヲ立テサルヘカラス然ラハ則チ本條ノ換刑ハ其性質負債ヲ強償セシムル民事ノ質ナルカ又ハ刑事ノ質ナルカ又納完セサル者ハ悉ク禁錮ニ換ヘサルヘカラスルカ否ヤヲ論究セサルヘカラス何トナレハ其質ニ因テ人ニ屬スルト財産ニ屬スルノ別アルノミナラス之ヲ禁錮スルト否トノ區別ヲ生ス

ルモノナレハナリ

泰西諸國殊ニ佛國ニ於テハ之ヲ民事禁錮即チ負債償却法ノ禁錮ヲ以テセリ此禁錮ハ刑事上ノ性質ヲ有スルモノニ非ラス語ヲ換テ之ヲ言ヘハ強迫シテ其義務ヲ拂ハシムルモノナリ

而シテ此強迫ヲ行フノ時間ハ其負債タル金額ノ多寡ニ從テ各長短ノ別アリ佛國千八百六十七年七月廿二日ノ法律第九條ヲ閱スルニ其時間ノ長短ヲ七段ニ分チ短キハ五日長キハ二年トセリ而シテ每段最長短ノ期ヲ設ケ其間ニ於テ法官ノ意見ヲ以テ若干ノ年月日ヲ擬定セシム

又之ヲ受ケタル負債者眞實無力ニシテ到底完納ノ方法ナキコヲ証明スル時ハ其命シタル禁錮日數ノ半ヲ經タル後之ヲ解放スルコヲ得セシム是レ佛法ノ概畧ナリ然リト雖此法タルヤ非難ヲ免レヌ何トナレ

ハ其目的不良ノ意アル者ヲ強迫スルカ爲メナリトセシカ果シテ眞實
 無力ナルヲ證シ得タル上ハ直チニ解放シテ可ナリ必スシモ其期限
 ノ半ヲ過ルヲ要スルノ理ナシ又刑罰ノ性質ヲ變セサルモノトセシカ
 果シテ無力ナルヲ證スルモ之ヲ解放スルノ理由ナケレハナリ
 右等ノ故ヲ以テ近世佛國ヲ除キ歐州諸國ノ法律ニ罰金ヲ完納セサル
 者ハ刑事ノ禁錮ヲ以テ換ヘルノ法ヲ用ルモノ多シ是レ實ニ我立法者
 ノ撰採採用シタル所ナルヘシト信ス
 然ラハ則チ罰金ヲ禁錮ニ換ルハ資力アル者納完スルヲ肯セサル者
 ニ備ルノ法ニシテ刑罰ノ効力ヲ失フニ至ルノ患ヲ避シカ爲メ身體ヲ
 拘禁シ納完ヲ強迫スルノ法ト認メサルヘカラス此性質ニ因テ左ノ結
 果ヲ生スヘシ
 一罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル後ハ政府債主權ヲ拋棄シタルヲ以テ仮令其

期限内犯人死去スルヲアルモ遺物財産ニ及フコナシ又資力アルモ
 犯人ノ請願アルニ非サレハ金額ヲ追收シテ放免スルコナシ
 二罰金ノ宣告確定シ未タ納完セズ禁錮ニ換ヘサル前本犯死去スル時
 ハ遺物財産ヲ民法ノ規則ニ因テ徵收スヘキコ但シ裁判費用各債主
 ノ得ヘキ金額ヲ償却シタル後ニ至テ之ヲ徵收ス
 抑モ罰金ハ刑罰ニシテ犯人ノ財産ニ及フモノナリ夫ノ被害者ノ還給
 賠償トハ其性質ヲ異ニス故ニ犯人一身ニ止リテ相續人ニ及ハサルヤ
 論ヲ待タス且ツ裁判確定セサル前ニ於テ犯人死去スルキハ俱ニ消滅
 スト雖モ既ニ裁判確定シ犯人其罪ニ服シタル上ハ政府之ヲ徵收スル
 ノ權ヲ生ス犯人モ亦之ヲ納完セサルヘカラスナルノ義務ヲ負フ而シテ
 此義務タルヤ犯人ノ身體ニ負擔シタルニ非ズ其財産ニ負フタルモノ
 ト爲サ、ルヘカラス爰チ以テ未タ禁錮ニ換ヘサル前本犯死去スルキ

ハ其目的不良ノ意アル者ヲ強迫スルカ爲メナリトセシカ果シテ眞實
 無力ナルヲ證シ得タル上ハ直チニ解放シテ可ナリ必スシモ其期限
 ノ半ヲ過ルヲ要スルノ理ナシ又刑罰ノ性質ヲ變セサルモノトセンカ
 果シテ無力ナルヲ證スルモ之ヲ解放スルノ理由ナケレハナリ
 右等ノ故ヲ以テ近世佛國ヲ除キ歐州諸國ノ法律ニ罰金ヲ完納セサル
 者ハ刑事ノ禁錮ヲ以テ換ヘルノ法ヲ用ルモノ多シ是レ實ニ我立法者
 ノ撰拔採用シタル所ナルヘシト信ス
 然ラハ則チ罰金ヲ禁錮ニ換ルハ資力アル者納完スルヲ肯セサル者
 ニ備ルノ法ニシテ刑罰ノ効力ヲ失フニ至ルノ患ヲ避クカ爲メ身體ヲ
 拘禁シ納完ヲ強迫スルノ法ト認メサルヘカラス此性質ニ因テ左ノ結
 果ヲ生スヘシ
 一罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル後ハ政府債主權ヲ拋棄シタルヲ以テ仮令其

期限内犯人死去スルヲアルモ遺物財産ニ及フヲナク又資力アルモ
 犯人ノ請願アルニ非サレハ金額ヲ追收シテ放免スルヲナシ
 二罰金ノ宣告確定シ未タ納完セス禁錮ニ換ヘサル前本犯死去スル時
 ハ遺物財産ヲ民法ノ規則ニ因テ徵收スヘキヲ但シ裁判費用各債主
 ノ得ヘキ金額ヲ償却シタル後ニ至テ之ヲ徵收ス
 抑モ罰金ハ刑罰ニシテ犯人ノ財産ニ及フモノナリ夫ノ被害者ノ還給
 賠償トハ其性質ヲ異ニス故ニ犯人一身ニ止リテ相續人ニ及ハサルヤ
 論ヲ待タス且ツ裁判確定セサル前ニ於テ犯人死去スルキハ俱ニ消滅
 スト雖也既ニ裁判確定シ犯人其罪ニ服シタル上ハ政府之ヲ徵收スル
 ノ權ヲ生ス犯人モ亦之ヲ納完セサルヘカラスナルノ義務ヲ負フ而シテ
 此義務タルヤ犯人ノ身體ニ負擔シタルニ非ス其財産ニ負フタルモノ
 ト爲サルヘカラス爰チ以テ未タ禁錮ニ換ヘサル前本犯死去スルキ

ハ其財産ヲ相續シタル者民法上ノ義務ヲ擔當シ犯人ニ代リ罰金ヲ完納セサルヘカラス但此義務ヲ生スルハ犯人ノ財産ヲ相續シ財産上ノ責アルノミナルヲ以テ仮令相續人納完ヲ肯セサルモ之ヲ禁錮スルヲ得ス民法ノ規則ニ依テ之ヲ徵收スルノミ

犯人罰金ヲ納完セサルヲ以テ之ヲ禁錮ニ換ヘタルキハ仮令期限内本犯死去スルモ刑期ノ余日ヲ折算シテ金員ヲ相續人ヨリ徵收スルヲ得ス例ヘハ罰金百圓ヲ禁錮百日ニ換ヘ三十日ヲ經テ犯人死去スルモ殘ル七十日ヲ金七十圓ニ折算相續人ヨリ納完セシムルヲ得サルカ如シ何トナレハ金刑已ニ體刑ニ變シタル上ハ始メヨリ禁錮セシモノト同一ニシテ死去ヲ爲メ以前ノ地位ニ復シ罰金ヲ徵收スヘキ理ナケレハナリ

又爰ニ注意スヘキコトアリ罰金ヲ禁錮ニ交換スルハ檢事ノ請求ニ因ル

トアル之レナリ其之ヲ納完セサル原由ヲ査定スルハ刑ノ執行ヲ掌ル檢察官ノ職務ナリ而シテ其納完セサル原由不真ノ意ニ出タル者ハ檢察官必ス之ヲ禁錮ニ換フヲ求ムヘシ之ニ反シ惡意ニ出ルニ非ス眞ニ力及ハサル者ハ資産ヲ得ルニ至ルヲ待ツヘシ故ニ條文禁錮ニ換フトアルハ必ス之ヲ換ヘヨト法官ニ命シタルニ非ス檢事ノ求メアルキハ法官之ヲ命スヘキノ義務アルヲ示シタルモノト解得セサルヘカラス然ラハ則チ社會ノ代人タル檢察官ハ債主權ヲ保續シ勞力ヲ以テ完納シ得ヘシト信認シタル場合ニ於テ換刑ヲ求メス惡意アル場合ノミ之ヲ求ムルヲ得ルモノナリ

又惡意ニ出ルト雖モ之ヲ交換スルハ一月ノ後ニ非サレハ許サ、ルヲ注意スヘシ此期限ヲ與フルハ負債者ヲシテ其金額ヲ調達スル方法ヲ得セシメンカ爲メナリ

佛國ニ於テハ共犯人ニ罰金ヲ連擔セシム故ニ太々不正ノ法律ナリト
 論難スル者多シ既ニ千八百年代暴徒巴里市中ノ銅標(此銅標ハ第一世
 ナポレオン歐洲諸國ト連戰得タル所ノ諸國ノ大炮ヲ以テ其功ヲ表セ
 ント建設シタルモノニシテ稀世ノ大標ナリ)ヲ毀却シタル片共犯人皆
 無力ナリシカ其中一人偶富有者アリテ其者一人ニ六萬圓余ノ罰金ヲ
 出サセタルヲアリト我邦ニ於テハ素ヨリ此ノ如キ不正ノ法ニ倣ハカ
 ルヲ以テ之ヲ連擔セシムルヲナク各自前ニ述タル如ク處スルナリ
 從來罰金ヲ換刑スルノ法ナク身代限ノ法ニ處シタルヲ以テ不真ノ徒
 巧ニニ財產ヲ隱匿シ刑罰ノ効其薄ク不都合ノ間々アリシカ明治十
 三年六月以後本條ニ記スル如ク禁錮ニ代ルヲ布告シ大ニ其弊害ヲ
 除却シ今又此新興ニ記載シタリ
 罰金ヲ他人ヨリ辨納セシメ其禁錮ヲ免スハ刑罰ノ効ヲ失スルニ似タ

リト難スル者アルヘケレハ辨納ヲ禁スル能ハス且辨納者ハ他日本人
 ニ對シ之カ償戻ヲ請求スルヲ得ルヲ以テ敢テ刑置ノ効ヲ減却スル
 ノ嫌ヒアルヘカラス

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十
 日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

本條ハ違警罪ノ主刑ノ第一タル拘留ノヲ記ス而シテ本條ハ全体ノ
 最長短期ノミヲ定メ各本條ニ其長短ヲ區別スルモノトス
 違警罪モ亦拘留ト科料ト併科スルアリ又之ヲ分チ科スルヲアリ其
 最モ輕キ者ヲ科料ノミニ處ス
 抑モ拘留ノ字義タル人ノ自由ヲ剝奪スルノ云ナリ輕禁錮ト雖モ之ヲ
 混同スヘキモノニ非ス仮令便宜ヲ以テ其室ヲ監獄内禁錮ト同所ニ設
 クルモ建物及ヒ運動等ノ場ハ必ス之ヲ別ニ設ケラルヘシ

211

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

本條ハ違警罪第二ノ刑タル科料ノ一ヲ記ス其最多數ハ罰金ノ最寡數ヨリ少キヲ要ス故ニ之ヲ一圓九十五錢トシ其最寡數ハ成ルヘク減少セサルヘカラス故ニ之ヲ五錢ト定ム

此ノ如キ微小ノ刑ハ行政ノ便ト警察ノ法ニ違戾スルナカラシメノ爲メ設ケタルモノナリ然レモ別ニ訴訟費ヲ拂ハシムルヲ以テ其再犯ヲ豫防スルニ充分ナルヘシ尙ホ其詳細ハ第四百二十五條以下ニ於テ説クヘシ

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

本條科料ハ其金額少數ナルヲ以テ十日内ニ納完セシメ若シ之ヲ肯セ

サル者ハ罰金ヲ納メサル者ノ例ニ照シ拘留ニ換フヘキヲ示ス之ヲ交換スル理由ハ第二十七條ニ於テ述ヘタル所ヲ以テ足レリト信シ爰ニ復説セス

罰金ト科料ヲ換ヘタルモ禁錮拘留ノ刑期終リシ後此換刑ニ處スヘキハ勿論ナリトス

又第二十七條ニハ檢察官ノ求メニ因リ裁判官之ヲ命ストアリテ本條其法式ヲ記セサレモ違警罪ハ治安判事ノ裁判スヘキモノニシテ警察官檢事ノ職務ヲ行フモノナレハ警察官ノ求メニ因リ治安判事之ヲ命スヘキモノトス

又從來入監入獄等口達シタルコトアリタレモ法官ノ命令ハ總テ命令狀ヲ發スヘキモノニシテ獄司ハ此令狀ヲ閱シ收禁スルモノトス

第三節 附加刑處分

附加刑ノ緊要ナルコト其性質トニ就キ一般ノ主義トスル所ハ已ニ本章ノ始メニ於テ陳述シタリ其刑名ハ第十條ニ列擧シアリ此一節ハ其刑名ノ各個ニ就テ其性質如何ヲ詳記シタルノミ

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一 國民ノ特權

二 官吏ト爲ルノ權

三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

ラス

八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

本條ハ附加刑トシテ終身剝奪スル公權ノ種類ヲ示シタルモノナリ該條ハ佛國ノ法律ニ倣ヒ更ニ改正ヲ加ヘタルモノトス(佛律ノ公權剝奪ヲ民權剝奪ト釋記シタルモアリ)

此刑ハ他ノ刑ニ異リテ特別ノ性質トスル所アリ直接ニ受ケシムルハ犯人ノ心術ニ在リ財産ト利益トニ於テハ間接ニ之ヲ受ケシムルニアリ

佛律ト此法與ト相似テ以テ異ナル所アリ佛國ニ於テハ之ヲ主刑トシテ宣告スルコトアリ此法律ニ於テハ絶テナシ必ス之ヲ附加刑トス此條記スル所ノ諸件ハ悉シ其性質ヲ同フスルニ非スト雖モ皆立法者ノ主要ナルモノト認メ之ヲ總稱シテ公權ト云ヒ以テ公權剝奪ノ刑名ヲ設

ケタリ然リト雖本邦憲法未タ立タス國會未タ興ラス故ニ歐米諸國ノ如ク真正ナル公權ハ未タ實地ニ行ハレサルカ如シ

公權ト私權トハ互ニ相似タルカ如シト雖混同スヘカラス

第一國民ノ特權トハ所謂民權ナルモノナリ此字義ヲ原ヌルニ(佛語ニハ公權ヲドロアーシヴヒツクト私權ヲドロアーシウヒールト)云共ニ國民タル者ニ固有ニ屬スルモノ、如シ(羅甸語ノ「シヴヒス」ハ國民シトアイヤン)ノ義ナリ然レ私權ナル者ハ今各國ニ於テモ實際外國人ニ迄屬スヘキモノナリトス此刑典ニハ佛國ノ所謂私權ヲ治産ノ禁ト記ス(第三十五條見合)

公權ニ至テハ國民ニ非サレハ之ヲ享有スルヲ許サス其然ル所以ハ法律上明文ナキモ此權ノ性質ニ於テ明ニ其國民ニ限ルヲ知ルヘシ

政權ハ其性質ニ於テ各國國民ノ固有ニ屬スヘキモノニシテ最モ自由

ヲ尊重スル國ト雖未タ之ヲ外國人ニ有セシムルヲ聞カス官吏トナルモ亦同シ故ニ此權ヲ國民ニノミ限ルヘキヲ別ニ法章明文ヲ掲ルヲ要セスト雖先ツ第一ニ國民ノ特權ト明記シテ以テ法律ヲ完全ナラシメタリ

其他尙ホ法律ニ明文ヲ掲ルモノアリ即チ民事刑事行政裁判ニ證人トナリ賠償本邦未タ之ヲ設ケストナリ代官人兵員トナルノ權等は等ハ國民固有ノ特權ニシテ公權剝奪ノ刑ヲ受ケタル者ニ享有セシメス

第二公權剝奪ハ官職ト公務トヲ剝奪ス故ニ給料ヲ受ル官吏トナルハ勿論給料ヲ受ケサル賠償商法裁判官教導職公證人代書代人等ト爲ルヲ得ス然レ私ノ職務ニ就クハ固ヨリ妨ケナシ例ヘハ人民ニ於テ犯人ヲ信用シ其刑期滿限ノ後之ヲ採用スル者アルモ法律ハ之ヲ妨グルヲ能ハサルノ類ナリ

第三勳章ハ國家ニ功勞アル者ニ附與シ以テ其名譽ヲ顯章スルモノナリ年金ハ戰爭ニ軍功アル者ニ與ヘ又ハ政府ノ債主トナリシ者其息銀トシテ年々若干金ヲ受ル者ヲ云フ此ニ剝奪スル年金トハ戰功ヲ賞シ輩生間附與セラルモノニ限ル公債ノ利子ハ犯罪ノ爲メ奪ハル、ノ理ナシ混スヘカラス貴号トハ華士族ヲ指稱ス恩給トハ養老救助及軍人ノ遺族等國家ニ忠ヲ盡シタル者ヘ追賞スルノ類ヲ云但公債ノ利子ト雖モ刑期中治産禁ニ因テ本犯ノ自由ニスル能ハサルハ勿論ナリ是等ハ皆所謂名譽ナル者ナリ日本ニ於テ貴族ノ稱号ハ往時封建ノ制ニ基キ生レタル者ニシテ郡縣ノ制ト共ニ來リシナリ佛國意大利等ニモ亦此稱号アリト然レモ國民ノ民權ト政權トハ尊卑平等ノ原則ニ背反スルコトナシ何トナレハ仮令此貴号アルモ爲メニ法律上特權ヲ生スルコトナケレハナリ故ニ内外其旨ナ一ニスト云モ可ナリ

又名譽記号ナルモノ日本ニ於テハ時トシテ官職ニ屬シ時トシテ全ク官職ト離レタルアリ官職ニ屬スルコトハ教導職員ノ類ニシテ其官職ト共ニ消滅ス官職ト離レタル者トハ華士族ノ稱ノ如キ是ナリ此等ハ皆除族シテ其名譽ヲ剝奪スルモノトス勳章ヲ受タル者モ亦名譽ノ稱号ナリト雖モ之ヲ剝奪スルハ特別ナルモノニシテ士族ノ如キ名譽ノ稱号アルト異ナリ故ニ之ヲ掲記ス歐米各國殊ニ佛國ニ於テハ勳章ヲ與フルヤ永久之ヲ附與シ再ヒ之ヲ取戻サ、ルモノトナシ收奪スルコトナシト其理由タル勳章ノ名譽ハ其賞牌ヲ有スルカ爲メナラス之ヲ帶ルノ權アルニ由ル故ニ法律ニ違反シ之ヲ帶ヒタルモ限リ之ヲ沒收ス是レ之ヲ奪フハ公權剝奪ニ因ルニ非スシテ犯罪ノ用ニ供シタルヲ以テ沒收スルモノナリ又遺物相續人ハ之ヲ保存シ或ハ賣却セシムルコト得セシムト

然リト雖本條ニ記スル所ハ彼ニ異ナリ必ス之返納セシムルモノト
 ス何トナレハ條文帶ルノ權ヲ奪フト記セスシテ之ヲ有スルノ權ヲ剝
 奪スト明記シアレハナリ

之ヲ取上ルノ手續キタルヤ重罪ニ於テハ別ニ宣告セスシテ自ラ附加
 スト法文明記シアレハ之ヲ宣告セサルモ犯人必ス返納スヘキノ義務
 ナ生シ法衙ハ之ヲ押收スルノ權利アリ輕罪ノ刑ニ至テハ法章明文ア
 ルキニ限り必ス宣告セサルヘカラス

明治十年西郷隆盛ノ西南ニ反スルヤ勅シテ位記勳章官職ヲ剝奪スト
 雖戰陣中之ヲ本人ニ達スルヲ得ス戰没ニ至ル迄公然之ヲ僭用シタ
 リキ然レモ此ノ如キ場合ハ全國ニ布告スルヲ以テ之ヲ本犯ニ達シタ
 ルモノト看做サ、ルヘカラス今此法律ヲ頒布シタル上ハ別ニ之ヲ布
 告セサルモ人民固ヨリ知テ法律ニ違犯スルモノナルヲ以テ西郷ヲシ

テ捕ヘラル、カ或ハ他日彼ノト同一ノ犯者アル場合ニ於テハ法令違
 犯ノ罪ト爲シ數罪俱發ノ例ヲ用ヒ處斷セサルヘカラスルモノトス
 法衙ニ於テ之ヲ追收シタルキハ賞勳局ニ送致シ同局ニ於テハ其名籍
 ナ除員スルヲ勿論ナルヘシ

第四外國勳章ハ内國勳章ト差異アリ之レ別ニ一項ヲ設ケタル所以ナ
 リ内國勳章ハ前項ニ説タル如ク之ヲ追收シ勳章ノ籍ヨリ除員スレモ
 外國ノ附與セシモノヲ奪フヘキノ非ス故ニ之ヲ有スルノ權ヲ奪フト
 記セスシテ之ヲ佩用スルノ權ヲ剝奪スト記シタリ審司タル者宜シク
 有ト佩用トノ文字ニ注意シテ之ヲ誤認スル勿レ

第五兵ハ護國ノ大任ニシテ國民ノ義務ト看ルヘキモノナレモ又以テ
 一個ノ名譽一個ノ權利ト認メサルヘカラス

德義上ノ義務ト社會上ノ義務ヲ大ニ犯シタル者ハ法律上兵籍ヲ除名

セサルヘカラス何トナレハ之ヲ兵役ニ充テ兵籍ヲ除カサルキハ兵隊ノ惡風ヲ生シ紀律ヲ紊亂スルノ基トナルノミナラス社會ノ和平ヲ傷害シタル者ヲ以テ社會ノ保護ノ大任ニ充ツヘキニ非サレハナリ國法ヲ犯シ惡業ヲ行ヒシ者ニ兵器ヲ執ラシムルカ如キハ最モ危險ナリ兵器ヲ帶有スルノ權ヲ禁スルハ實ニ此公安ヲ害スルノ理由ニ基クナリ但銃獵免許ノ方法ヲ設ケ彈藥ヲ濫リニ賣買セシメサルモ亦此理由アルヲ以テナリ

然リト雖モ實際ニ就テ觀察スルキハ所謂不公平ナル者ナキ能ハス本邦封建ノ餘弊未ダ全ク洗除セズ徵兵ノ如キハ人民太々厭忌シ或ハ支體ヲ傷メ以テ兵役ヲ免シシイテ企謀スル者ヲシトセス而シテ其免役ヲ請フ者百七十圓ノ金額ヲ出サシムルト載セテ徵兵例ニアリ然ルニ本條ノ如ク刑罰ノ爲メ之ヲ免除スルハ幸ヲ犯人ニ得セシメ不幸ヲ良

民ニ及ボスノ理ナキニ非ス何トナレハ犯人兵役ノ義務ヲ免カル、
 ハ其缺員ヲ他ノ良民ニ擔當セシメサルヲ得サレハナリ然リ而シテ本條之ヲ載セタルハ畢竟兵ハ護國ノ大任ニシテ國民ノ固有ニ屬スル一大權義ナルニ罪犯ヲ混入スルキハ前ニ述タル不都合アルノミナラス兵名ヲ汚スヲ以テ正理公道ニ基キ之ヲ撰定シタルモノナリ唯希フ所ハ速ニ人民ヲシテ兵ハ一個ノ名譽權利ナルヲ知ラシムルニアリ

第六裁判所ト稱スルハ民事刑事陸海軍海上商事
海上裁判所商法裁判所ハ方今ナシテ設ラルヘシ
 及ヒ行政裁判ヲ總稱ス法律上罪犯ニ向テハ他ノ良民カ見聞シタル事跡ヲ社會ニ對スル義務トシテ法官ニ向ヒ証言スル如ク信用ヲ與ヘサルナリ

証言タルヤ裁判官ニ於テ必ス信用スヘキモノニ非スト雖モ其裁判ニ至テ著シク之ニ感動ヲ生スルモノナリ然リ而シテ法律ハ証言ノ權ヲ

キカ爲メ事實ヲ發見スルノ妨ケト爲ルヘカラス故ニ民事刑事ヲ問ハ
 ス其事實ヲ見聞セシハ罪犯ノミニシテ他ニ之ヲ知ル者ナキモハ宣誓
 式ヲ行ハスシテ其陳述ヲ聞クコトアリ之レ本項但書ヲ加ヘタル所以ナ
 リ但實際ニ於テハ此陳述ノミヲシテ法官ニ充分ノ心證ヲ取リ以テ判
 決ヲ爲サシムルニ足ルヘキコトハ甚タ稀ナルヘシ
 佛國ニ於テハ本項ニ記スル證告ノ外証據人ト爲テ公正及ヒ私ノ証書
 類ニ署名スルノ權陪審又ハ鑑定人トナルノ權ヲ剝奪シ我草按ニ於テ
 亦之ヲ加ヘタリシカ此刑典ニハ之ヲ除キタリ
 理論ニ於テハ本項モ亦論難ナキヲ得サルカ如シ何トナレハ良民ニテ
 一度宣誓証告セシムルモノナレハ罪犯ニハ再度モ宣誓セシメテ可ナ
 リ然ルニ誓ヲ爲シテ陳述スルヲ禁シ誓ハスシテ陳述セシムルハ單ニ
 參考ノ爲メトナスニ過サルヘシ果シテ然ラハ他人ノ爲メ充分ノ保證

トナスヲ得サラシメ其保證ヲ必要トスル者ニ對シ甚害アルヘケレハ
 ナリ然リト雖モ誓ヲ破ルノ恐レアレハ罪犯ニ宣誓セシムルヲ得ス之
 レ獨リ本邦ノミナラス泰西各國皆然リトス
 第七本邦幼者及ヒ治産ノ能力ヲ有セサル者ノ爲メ後見人監財人等ノ
 法律ヲ設ケタルコトナシト雖モ之ヲ設クルハ蓋シ遠キニ非サルヘシ是
 等ノコトヲ爲ス者ハ必ス正直善良ニシテ社會ノ信用アル者ヲ撰マサル
 ヘカラス犯人ノ如キハ此信用ヲ確認スルコトヲ得ス之レ本項此權ヲ有
 セシメサル所以ナリ
 然リト雖モ其子孫ノ爲メニスルハ仮令正直ナラサルモ親子ノ愛情必
 ス不正ノ所爲ヲ絶ツヘシ故ニ其可否ハ一ニ親屬ノ撰ム所ニ任スヲ以
 テ幼者ノ利益トナルモノト認メサルヘカラス爰ヲ以テ但書ヲ加ヘタ
 リ

然リ而シテ此特別例ハ罪犯ノ子孫ノ爲メニ限レリ其尊屬及ヒ傍系ノ親ニ對シテ固ヨリ此權ヲ許スヲ得ス
 此項モ亦實際ニ就テハ論難ナキヲ得サルカ如シ之ヲ盜犯ノ如キ者ノ
 三ニ於テモハ可ナルモ國事犯ニシテ其職業多忙一日モ職場ヲ離ルヘ
 カラサル輩ニ後見ノ義務ヲ免レシムルハ彼ノ便利ニシテ之ヲ罰スル
 ニ非ス之ヲ寬假スルカ如シ然リト雖モ公權剝奪ハ其人ノ身位ニ因テ
 得ル所ノ利益又ハ名譽名望ヲ奪フモノナレハ最モ恐ルヘキノ刑ナリ
 第八分産者ノ管財人トハ負債者財産管理ノ權ヲ拋棄シ債主へ所有物
 ヲ提出シタル債主中ヨリ撰任シ其財産ヲ支配各債主へ平等ノ配當
 ヲ爲サシムル者ヲ云又裁判所ニ於テ負債ノ爲メ其財産ヲ差押へ配當
 處分中之ヲ任スルヲ云又佛典ニ記スル支配ノ權ヲ剝奪スルヲ云シ其理由タルヤ佞令
 佛典ニハ本項ニ記スル支配ノ權ヲ剝奪スルヲ云シ其理由タルヤ佞令

誤テ人ニ信ヲ置キ資産ヲ破ラレ、コアルモ自己ノ自由ニシテ法律ノ
 禁スヘキノ非ス之ヲ撰任スルヤ債主又ハ會社ノ株主財産ノ所有主ハ
 衆員多數ノ説ニ因テ議決スルモノナレハ制限スヘキ理由ナシトセリ
 然レモ此刑典ニ於テハ明ニ撰擧セラル、ノ權ヲ剝奪スルヲ以テ債主
 株主所有主ト雖モ之ヲ任用スルヲ得ス
 第九本項ノ禁ハ佛典ニモ亦明記シアル所ナリ公權剝奪ノ刑ニ處セラ
 レタル罪犯ノ如キハ其性質如何ニ拘ハラス少年輩ノ教員ニハ甚ダ不
 良ナル人物ト爲サ、ルヘカラス之ノ歐洲諸國ノ禁スル所ニシテ本邦
 モ亦採用シタル所以ナリ
 從來本邦公權剝奪ノ刑ト稱スヘキモノハ代言人トナルノ禁議員トナ
 ルノ權議員ヲ撰擧スルノ權華士族ヲ除族スル等ノモノアルノミニシ
 テ刑典中此稱アルコトナシ全ク新典ノ創設スル所ナリ

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

本條公權剝奪ハ何等ノ刑ニ附加スルヤヲ定示セシモノナリ即チ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ無期有期ヲ分タズ別ニ宣告セサルモ終身此附加刑ヲ生スルモノトス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

本條及ヒ次條ハ輕罪ノ刑ニ附加スル公權ノヲ記ス
禁錮ノ刑ヲ受ケシ者ハ其輕重ヲ問ハス直チニ現任ノ官職公務ヲ失ヒ且刑期間公權ヲ停止セラレ

剝奪公權ト停止公權ハ大ニ區別アルモノナリ剝奪公權ハ終身刑ナルヲ以テ復權ノ特許ヲ得ルニ非サレハ其權ヲ行フ能ハサルモノト雖モ

停止公權ハ即チ否ラス本刑消滅スレハ直チニ之ヲ行フヲ得停止ナルモノハ之ヲ享有セサルニ非ス唯行フヲ得サルノミ此レ奪ハルト行ヲ得サルノ限界ナリ

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フヲ停止ス
主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付シタル者亦同シ

本條ハ輕罪ノ刑ニシテ監視ノ附加刑ヲ宣告セラレシ者ハ其監視ノ刑期間公權ヲ行フヲ禁スヘキハ當然生スル附加刑ナルヲ示ス
主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付スルトハ國事犯ノ自首シタル場合又ハ法律上期滿免除ノ期限ヲ經過シタル時ニ於テ施スヲアルヘシ

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁ス

本條ハ重罪ノ刑ニ處セラレシ者ハ總テ其刑期間治産ノ禁即チ一切ノ私權ヲ行フヲ禁スルヲ記ス
 私權ハ公權ト異ルモノナルヲ以テ其權利ヲ剝奪スルノ方法モ前條々ニ比スレハ稍輕シ
 自ラ財産ヲ治ムルヲ禁ストハ即チ動産不動産ヲ所有スルノ權債主ノ負債主ニ對スルノ權ニシテ我カ草按及佛國刑法ニ私權ト記スルモノ是ナリ
 抑モ治産ノ禁ハ民法上治産ノ禁ト同ク其權ヲ失フタルニ非ス唯自ラ之ヲ行フヲ得サルノミ其權ヲ享有スルヲハ舊ニ依テ變セス
 權ヲ享有スルト之ヲ執行スルトハ決シテ相同シカラス其區別ハ民法ノ部ニ屬ス本條重罪刑ヲ宣告セラレシ者ハ其身ニ屬スル物品ノ所有主タルヲモ他人ニ貸シタル物件ノ債主タルヲモ皆從前ノ如シト雖モ

其物件ヲ自己ノ意ニ任セ之ヲ贈與賣買貸借スルヲ得ス其入額モ受納スルヲ得ス貸シタル物ヲ取還スルヲ得ス負債者ノ義務ヲ釋放スルヲ得スト云フノ義ニシテ此レ之ヲ治産ノ禁ト云
 何故ニ之ヲ禁止スルカ其理由ヲ説明セン
 若シ本人ヲシテ其權ヲ行フヲ得セシムルキハ其人恐ラクハ懲戒ノ意ニ反シタル快樂ニ其財産ヲ蕩盡シ刑罰ノ功驗ヲ滅殺スルノミナラス或ハ其財ヲ以テ獄卒其他ノ人ニ賂ヒ脱監等ヲ企テ種々ノ弊害ノ生スヘキ必然ナルカ故ナリ
 然リ而シテ此附加刑タルヤ主刑ト期チ同フス夫ノ公權剝奪ノ終身ナルカ如クナラス又其効驗モ常ニ同一ナルモノナレハ法官之ヲ宣告スルヲ要セス主刑ヲ受ル者ハ必ス此附加刑ヲ科セラル故ニ法官別ニ之ヲ輕重減免スルヲ得サルモノトス

抑モ刑事上治産ノ禁ト民事上治産ノ禁トハ大ニ其性質ヲ異ニス刑事
 上ニ於テハ別ニ之カ言渡ヲ爲サスシテ自ラ本刑ニ附加スト雖モ民法
 上ニ於テハ必ス之ヲ宣告セサルヲ得サルモノナリ又民法ニ於テハ專
 ラ本人ヲ保護スルノ目的ニ出ルト雖モ刑事上ニ於テハ之ニ反シ一ハ
 本人ヲ懲ラシ一ハ他ヲ保護スルノ意ニ基クモノナリ故ニ民法上治産
 ノ禁ハ解除セラレサル時間ハ之ヲ行フヲ得サレモ（仮令人ト契約スル
 モ其効ナキコトヲ
 云）本條治産ノ禁ハ刑期満限ノ後ハ直チニ行フヲ得

民法ニ於テハ治産ノ禁ヲ受ケタル者共入額ヲ療養ノ用ニ供スルヲ
 允許スレモ（民法草按第四百六十四條
 佛民法第五百十條 參看）刑法上治産ノ禁ハ否ラス刑期
 中一切犯人ノ用ニ供スルヲ許サス
 抑モ刑ハ本人ニノミ蒙ラシムヘキモノニシテ其身已ニ死スレハ子孫
 ニ及ホスヘキモノニ非ス故ニ遺囑贈遺ノ如キハ其證書ヲ記スルノ權

ヲ許スモ可ナルカ如シト雖モ之ヲ允許セサルモノトス何トナレハ刑
 ノ言渡ヲ受タル後記シタル證書ハ其効ヲ生セシムヘキノ理ナケレハ
 ナリ然レモ刑ノ言渡シヲ受ル以前ニ契約セシ證書ハ其効アリトス而
 シテ民法草按第四百五十六條第四百五十七條第四百六十四條ニ記ス
 ル場合ハ刑法上ニ關セサルモノナリ
 右ニ示シタル所ハ獨リ本邦ノミナラス泰西諸國殊ニ佛國ニ於テモ亦
 然リトス
 而シテ重罪囚ノ財産ハ如何處スルヤノ疑ヒアラシク該方法ハ刑法之ヲ
 明示セサルモ民法ノ規則ニ因リ親屬會議及ヒ本犯ノ意見ヲ問ヒ法廳
 之レカ後見人ヲ撰ンテ支配セシメサルヘカラス何トナレハ自ラ財産
 ヲ治ムルヲ禁シ從テ生スル財産保護ノ處置ヲ爲サス捨テ置クヘキ
 ノ理ナケレハナリ

然リ而シテ後見人ニ二種ノ別アリ一ハ親屬會議ニ因テ撰任スル者(即チ民法上ノ處分)一ハ刑法上(即チ本條)ニ成立ツ者ニシテ法廳ノ命スル者はナリ
 親屬會議ニ因テ任シタル後見人ハ其任期十年間ナリ(民法草案第四百六十五條參看)ト雖モ刑法上ヨリ成立ツ者ハ任期ナシ其刑期間行ナハサルヘカラス故ニ十年ヲ過ルモ其任ヲ解クコトヲ得ス(民法草案第三百四十五條ヨリ第三百五十三條迄)
 重罪刑ヲ宣告セラレタル者ノ財産ハ掠奪消費ノ患ヲ豫防セサルヘカラス而シテ其人自ラ其財産ヲ守ルコトヲ得サルヲ以テ之カ後見人ヲ任セサルヲ得ス之レ右ニ述タル如ク民法ニ從テ之ヲ任スル一原因ナリ
 其親屬ハ會議シテ各意見ヲ述ルコトヲ得ルハ幼者ノ後見人ヲ定ムル時ト同シ本犯モ亦意見ヲ述ルノ權アルヘシ何トナレハ財産管理ニ拙劣ナルト正シカラサル者トチ拒ムヲ得ヘキハ理ノ當然ナレハナリ故ニ

治罪法ニ於テモ重罪犯ノ財産ニ支配人ヲ命スヘキコトヲ定ム(治罪法第二條)

又民法上治産ノ禁ヲ受ケタル者及ヒ刑事上治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ契約シタル事柄ハ其禁止中ニ爲シタル一事ヲ証スレハ之ヲ取消ス
 一ヲ得ヘシ而シテ其取消ヲ求ムルハ何人ノ權ニ屬スヘキヤ詳論スヘキモノアリト雖モ該論點ハ民法ノ部ニ屬スルヲ以テ他日頒布ノアリシ時ヲ待テ論究スヘシ

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得

此條ハ國事犯タル流囚ニノミ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スヘキ寛裕ノ法ヲ施與スヘキコトヲ示ス禁獄ノ刑ニ處セラレシ者ハ流地ニ移リ此寛典ヲ得ヘカラス

幽閉ヲ免スルニハ一定ノ時間アリ無期流刑ノ囚ハ五年有期流刑ノ囚

ハ三年ナリトス(第二十一條)而シテ幽閉ヲ免セラレタル囚ハ其島地ヲ借テ親族ト共ニ同居スルヲ得ルモノナリ故ニ身持能キ囚人ハ自ラ殖産スルヲ得ヘキヲ以テ該條更ニ法律ノ寛ナルヲ見ルヘシ
 條文ニ治産ノ禁ヲ統スル細目ヲ記セス是レ別ニ監獄則ノ如キ刑罰條例ヲ設ケラルヘキモソト信ス但禁獄以下ニハ假出獄アリテ本條ヨリ一層寛ナリ

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

本條ハ重罪ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ必ズ短期三分一ノ時間監守ノ附加刑ヲ受クヘキヲ示ス

監守ノ目的タルヤカメテ社會ノ爲メ再犯ヲ患ヲ防クニ在リ而シテ重罪ニ於テハ別ニ宣告セスシテ當然附加スヘキ刑ナルヲ以テ法官之ヲ

廢シ又ハ其期ヲ増減スルヲ得ス

近來歐洲各國ニ於テ此刑ヲ非トスル者多シト聞ク其論点ニ曰ク此刑ハ受刑者ノ社會ニ交ルヲ妨害スルモノナリ他人之レト交ラス之ヲ雇使セサレハ終ニ之ヲシテ貧苦ニ陥ラシメ公衆ニ厭棄セラレ再ヒ盜竊其他ノ惡行ヲ爲サシムルニ至ルヘシト

然リト雖モ未タ以テ此刑ヲ廢シタル國アルヲ聞知セス唯其方法ヲ寛ニシ其刑期ヲ短縮セシモノアルニ佛國ニ於テハ其長期ヲ二十年ト爲シタリ

日本ニ於テハ更ニ其期限ヲ短縮シ最長期ヲ五年ナリトス
 監視ノ細目方法ハ別ニ條例ヲ設クヘキモノナルヲ以テ此刑法ニ掲記セス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載ス

ルノ外監視ニ付スルヲ得ス

輕罪ノ場合ニ於テ監守ニ付スル者ハ前條ニ異ナリ必ス之ヲ宣告スヘキモノナルノミナラス罪ノ性質ニ從ヒ豫メ法律ニ明示シアル場合ニ非サレハ法官之ヲ行フヲ得サルモノトス

第二三編ヲ閱スレハ監視ニ付スヘキ輕罪ハ一時ノ情慾ニ出タル犯罪ニ非スシテ殘忍ナル罪ニ限ルヲ知リ得ヘシ例ヘハ盜罪又ハ官吏ノ財産ニ對スル罪ノ如シ其罪若シ一時ノ情由ニ發スルモノナレハ監視ニ付スルコトナシ例ヘハ毆傷倒産背信詐欺罪ノ如シ

第三十九條 死刑及ヒ無期徒刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

本條其主刑ハ期滿免除ニ因テ已ニ消滅シタル者ト雖モ死刑又ハ無期ノ徒流刑ニ處セラレタル程ノ者ナレハ將來ノ行狀ニ過慮無キ能ハス

故ニ別ニ宣告セズシテ直チニ五年間ノ監視ニ付スヘキヲ定ム

問抑監視ハ附加刑ナリト雖モ本條ノ場合ニ於テハ主刑已ニ消滅セシヲ以テ主刑ト看做スヘキモノカ如何

答主刑已ニ消滅シ單ニ監視ニシテ付セラル、モノナレハ則チ主刑トナルヘシ

問本條ノ場合ニ於テ監視ノ期限ヲ五年ト定メタルハ何ノ理由ソ

答第三十七條ニ重罪刑ニ處セラレシ者ハ各本刑短期ノ三分之一ニ等シキ時間監視ニ付ストアリ而シテ有刑期ニシテ最モ長キハ十二年ナルヲ以テ其三分之一ハ則チ四年ナリ死刑及ヒ無期流徒刑ニ至テハ其年限ヲ定ムルニ由シナキヲ以テ四分一即一年ヲ加ヘ五年トナシ期限ノ權衡ヲ得セシメタリ此レ本條五年ト限定セシ原由ナリ

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除

ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス
 若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス
 附加ノ監視ハ主刑ノ終リシ日ヨリ起算スベキハ辨明ヲ要セス主刑ノ
 期滿免除ヲ得タル者ハ其本刑ヲ免除セラルベキ權ヲ法律上得タルヲ
 以テ捕ニ就キ自由ヲ停止セシ日ヨリ附加ノ監視刑ヲ起算ス
 主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ト雖モ捕獲セラレサル時ハ監視ノ刑期始
 ルヘキ理由ナシトス何トナレハ有期刑ハ主刑ノ短期三分一ノ時間無
 期刑若シクハ死刑ナレハ五年間別ニ宣告ヲ用ヒス監視ニ附スルモノ
 ニシテ自由ヲ停止セサレハ監視ノ刑始マルヘキ理由ナケレハナリ故
 ニ監視ハ期滿免除ヲ得ルモノニ非ス末項ノ場合ニ於テハ裁判ノ法式
 ナ履行シ其主刑ハ自首スルヲ以テ其罪ヲ全免シ止タ監視ノミヲ言渡
 スヘキモノナルヲ以テ確定ノ日ヲ俟テ刑期ヲ起算ス

期滿免除ニ二種アリ一ハ第五十九條ニ記スル所ニシテ已ニ刑ヲ宣告
 ナ受ケ其執行ヲ遁レシモノナルヲ以テ其期長シ一ハ治罪法第十一條
 ニ記スル所ニシテ未タ發覺セズシテ年月ヲ經過シタルモノナルヲ以
 テ其期限短シ
 主刑ヲ免シテ止タ監視ニ附スル者トハ何等ノ犯罪ナルヤハ知り易キ
 一ナルヘシ則チ第二百二十六條第九十二條ニ記スル國安ヲ騷擾スル
 隱謀又ハ貨幣偽造ノ罪ヲ首告シタル犯人ハ其本刑ヲ免シ單ニ監視ニ
 附スルノミ之レ本條末項ヲ設ケ監守ヲ宣告シテ其裁判確定ノ日ヨリ
 起算スヘキコト示シタル所以ナリ
 第三十壹條ヨリ次條ニ至ル各條ハ佛國ノ法律ヲ參酌シ此刑法ニ創定
 シタルモノニシテ從來施用シタルモノハ單ニ舊惡減免例即チ治罪法
 第十一條ニ記シタル性質ノモノアリシノミナリ

問抑刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スヘキヲ論テ埃々サル所ナリ然ル
ニ本條第二項殊ニ其明文ヲ掲ケタルハ何ノ爲メソ

答監視ノ附加刑ニ限り主刑ノ執行終リシ日又捕獲本犯ノ自由ヲ停止
シタル日ヨリ起算スヘキ理由ハ今説示セシカ如シ然ルニ主刑ヲ免
スル場合ニ於テハ固ヨリ主刑ノ宣告ナク又未タ宣告セサルモノナ
レハ捕獲ノ日ヲ以テ其監視ヲ始ムヘキ謂レナシ然ルキハ自首全免
ノ場合ニ於テハ何レノ日ヨリ監視ヲ起算スヘキヤ分明ナラス或ハ
其計算區々ニ涉リ不公平ヲ生スルヲナキヲ保セス故ニ其裁判ハ檢
察官及ヒ本犯共承服シ控訴上告ノ期限ヲ過キ確定シタル日ヨリ起
算スヘキヲ明示シ人ヲシテ惑ヒテ生シ不公平ニ涉ルノ憂ヒナカ
ラシム此レ本條第二項ヲ設ケタル所以ナリ

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假
ニ監視ヲ免スルヲ得

本條ハ行政官即チ警視府知事縣令ノ處分ヲ以テ身持ヨキ者ハ監視ノ
刑ヲ假ニ免スルヲアルヘキヲ示ス
故ニ宣告ヲ用ヒスシテ附シタルモノト宣告シテ附シタルト問ハス
身持能キ犯人ハ總テ其監視ヲ中止スルヲ得之レ更ニ監視ノ刑ヲ寬
ニシタルモノニシテ行政上著シク良効ヲ顯スヘシ
條文其赦宥ヲ停止スルヲ記セサレモ中止セシ后其犯人身持正シカ
ラス已ニ罪ヲ犯スカ又ハ未タ罪ヲ犯サ、ルモ之ヲ犯スヘキノ情狀ア
レハ警視府知事縣令ハ再ヒ監視ニ附スルヲ得ヘキハ勿論ナリ何ト
ナレハ其監視ヲ免シタルハ假リノ處分ニシテ全免シタルニ非サレハ
之ヲ必要トスル場合ニ於テ假處分ヲ取消シ得サルノ理由ナケレハナ
リ但假出獄ハ此限ニ非ス

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

本條ハ主刑ニ附加スル罰金ハ必ス其額ヲ定メテ宣告シ一月内ニ完納セシメ若シ限内納ムルヲ能ハサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ金壹圓ヲ禁錮一日ニ換ヘ主刑ノ期滿タル後ニ於テ之ヲ執行スヘキヲ示シタリ

罰金ハ重罪ノ刑ニ於テハ附加刑ナリト雖モ輕罪ニ於テハ主刑ノ内ニ列ス(第七八條見合)禁錮ト併セ科スル時モ尙ホ主刑ト看做ス

重罪ニ於テハ罰金ヲ科スルヲ甚タ罕レナリ其理由タルヤ巨額ノ罰金ヲ科スルニ非サレハ其主刑ト刑ノ權衡平ヲ得サルノミナラス重罪ヲ犯ス者ハ大低資産ヲ有セサル者ナレハ巨多ノ罰金ヲ科スルヲ得ス若シ適々資産アル者アルモ其結果獨リ犯人ニ止ラスシテ刑罰ヲ家族ニ

及ホスヲナキ能ハス夫レ重罪刑ニ處セラレシ者ハ終身公權ヲ剝奪シ其刑期間一切私權ヲ停止セラル故ニ其財産ハ家族生計ノ資産ト爲サ、ルヘカラス然ルニ其資本トナスヘキ金額ノ内ヲ追徴スル時ハ家族ノ困難ヲ生スヘキハ必然ニシテ甚タシキニ至テハ家名斷絶一家離散老幼飢餓ニ陥ルモ亦ナキヲ保セス之レ豈ニ刑ヲ家人ニ及ホスニ在ラサルナキヲ得サルヲ以テナリ

我カ草按ニ於テハ國事犯ノ重罪ニ巨額ノ罰金ヲ科スル者トセリ其起因タルヤ謀反者ハ凡ソ富メルノミナラス勢力ヲ有スル者多ケレハ罰金ヲ併科スルモ可ナリトノ論点ニ外ナラサルカ如シト雖モ刑罰ノ本旨ヲ失スルノ恐レアルヲ以テ曩キニ草按第三百三十四條ヲ講スルニ方リ其不當ナルヲ論述シタリシカ此刑典ヲ頒布スルニ至リテ其罰金ヲ刪除セラレタルハ實ニ當然ノ脩正ナリト謂ツヘシ

歐洲諸國殊ニ佛國ニ於テ重罪犯ニ罰金ヲ科セサルハ皆此理ニ基クナ
 リ
 古史ヲ按スルニ古昔文教未タ開ケス野蠻蒙昧ノ時ニ在テハ一人罪ヲ
 犯セハ其刑罰家人及ヒ親屬ニ關連シ酷刑ヲ施シタルヲ獨リ本邦ノミ
 ナラス各國皆然リ人文ノ進度ニ隨ヒ刑ハ犯人ニ止リ他人ニ及ホスヘ
 カラサルノ眞理ヲ發見シ萬國概テ本犯一身ニ止マルモノトセリ
 此刑法ニ記載セサル單行條例ニ於テハ概テ性質ノ異ニシ罔々亦タ償
 金ニ類スルアリテ其金額最モ多キモノアリ例ヘハ稅關ノ規則ニ關ス
 ル者ノ如シ海關稅ヲ免レントシテ密ニ商品ヲ積出ス者アレハ規則ノ
 稅金ト罰金トヲ徵收セシ爲メ其荷物ヲ押收ス若シ稅金ト罰金トヲ納
 完セカレハ其物品ヲ估却シテ先收ス又雇人ヲシテ荷物ヲ船積シシメ
 タルニ雇人己レノ意ヲ以テ稅金ヲ免レントシタルキト雖其本犯ヲ罰

セス雇主ヨリ稅金罰金ヲ收納ス其雇人若シ死去セシキハ罰金ヲ徵收
 セス之ニ反シ雇人盜罪ヲ犯シタルニ於テハ犯人ノミ直接ニ刑ヲ受ケ
 雇主ニ及ハス是等ノ罰金ハ其性質通常ノ罰金ト異ル所ナリ
 又追還(即チ事主ニ物品ヲ還付ス)追償(即チ人民ノ訴訟入費及ヒ損害ヲ
 償ハシム)費用(即チ法衙ヘ徵收スヘキ裁判入費)等ハ罰金ト俱ニ科スル
 ヲアリト雖其性質罰金ニ非ス
 物品ヲ事主ニ追還スルハ其本主ニ還付スルモノナリ官府及ヒ人民ニ
 訴訟入費ヲ償ヒ損害ヲ賠償セシムルハ荷モ自己ノ過ヲ以テ人ニ損害
 ヲ加フヘキノ理ナク其損失ヲ償戻スルハ當然ノコトニシテ刑罰ニ非ス
 混スヘカラス
 而シテ現在ノ物品ハ必ス其本主ニ還付シ裁判入費ハ第一ニ法衙ヘ徵
 收シ次ニ人民ノ訴訟入費及ヒ損害ノ賠償次ニ罰金ト夫々順序ヲ立テ

罰金ハ最終ニ納完セシムルモノトス

抑罰金ヲ納完セサル時ハ禁錮ニ換刑スヘキモノナルヲ以テ右ノ如ク最終ニ納メシムルハ犯人ニ不幸ナルカ如シト雖モ罰金ノ爲メ他人民カ損害ヲ受クヘキ理由ナケレハ如斯ナラサルヲ得ス之レ本邦固有ノ慣例ニシテ歐米各國ノ可決スル所ナリ

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ

於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又

ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス

該條ハ犯禁及犯罪ノ用ニ供シタル物件并ニ犯罪ニ因テ得タル物件ハ必ス宣告シテ官ニ沒收スヘキヲ示ス而シテ應禁物ハ何人ノ所有タルヲ問ハス犯罪ノ用ニ供シタルモノ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ナルカ又ハ其所有主ナキ時ニ限り沒收スルモノナリ

抑モ本條第一項ニ示ス應禁物ヲ沒收スル所以ノ理ハ社會ノ公安ヲ保全スル爲メ及ヒ風俗ヲ亂サ、ランカ爲メニ之ヲ官沒スルモノナレハ實ニ當然ノコトナリ

犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ例ヘハ人ヲ刃殺スレハ其力刃ヲ取上ルノ類ナリ而シテ該物件ハ其有心故造ニ係ルモノヲ指スカ將タ過失殺傷ニ係ルモノモ總稱スルカヲ論究セサルヘカラサルナリ

第三項ニ示ス犯罪ニ因テ得タル物件ヲ沒收スルハ苟モ不正ノ所爲ニ

因テ犯人ヲ富マスヘカテサルノ原則ヲ示シタルモノナルヲ以テ實ニ
 理ノ當然ナリト雖モ因テ得タル物トハ其直接ニ得タルモノニ限ルカ
 將タ間接ニ得タルモノヲモ總稱スルカ其明文ナキヲ以テ是亦立法ノ
 原旨ニ基キ性法ニ照シ論究セサルヘカラス
 茲ニ人アリ深山ニ獵シ偶マ過テ樵夫ヲ銃殺ス之レ實ニ過失殺ナリ又
 人アリ久シク家屋牆塼ノ修繕ヲ怠ルニ一朝其家屋牆塼崩壞シテ路傍
 ニ倒レ行人ヲ殺傷ス是亦過失殺傷ナリ其ニ其罪ヲ免カル、能ハス而
 シテ銃ヤ家屋牆塼ヤ皆共ニ犯罪ノ用ニ供シタルモノナリ乃チ之ヲ沒
 收スヘキカ今夫レ過失ニテ人ヲ殺傷ス誰カ其結果ヲ悲マサラン然レ
 モ此結果ヲ來シタル犯者ノ中心ヲ觀察スレハ誰カ亦憫諒ノ情ヲ發セ
 サラン本犯毫モ惡意ナク而シテ刑罰其身ニ及フヲ以テナリ是レ其意
 チ懲サンカ爲メナラス唯タ其懈怠ヲ戒ルノミ豈ニ互ニ不幸ニ逢フモ

ノニ非サルカ

抑モ本邦及ヒ歐米各國共謀故殺ヲ罰スルト過失殺ヲ處スルト其間大
 差アリテ過失殺ニ体刑ヲ施サ、ル所以ノモノハ即チ之ヲ罰スルノ酷
 ニ堪エスト思料スルヲ以テナリ獨逸刑法第四十條ニ曰ク有心故造ノ
 輕罪以上ヲ犯シタルニ因リ生シタル物品又ハ其罪ヲ犯ス爲メニ用ヒ
 タル物品及ヒ其罪ヲ設備シタル物品正從犯ノ所有ニ屬スル時ハ沒收
 スルヲ得ト立法ノ意密ナリト云フヘシ佛國ニ於テハ銃獵犯則者ノ
 銃ヲ沒スル其實ニ犯罪ノ用ニ供シタル銃ニ代ルニ他ノ粗製ノ銃ヲ沒
 收スト是レ銃ニ善惡アリテ價額等シカラス其刑各人ニ施シテ大ニ不
 公平ニ失スルヲナカランヲ欲スルノ精心ナリ故ニ沒收ハ有心故造ノ
 罪ニシテ各本條ニ明記スルモノニ非サレハ之ヲ施用スヘカラス畢竟
 本條ニ其大綱ヲ舉ゲタルモノト看做サ、ルヲ得ス第二三編ニ多ク沒

收スヘキヲ記シアルヲ以テ該條々ヲ通觀セハ性法ニ基ク公論ニシテ予カ私言ニアラサルヲ推知スルヲ得ヘキナリ

第三項因テ得タル物件トハ其直接ニ得タルヲ云フカ將タ間接タル利益ヲモ稱スルカ其區別明瞭ナラサルカ如シ人或ハ言ハシテ得タル物件トハ犯罪ニ因テ直接ニ得タル利益ナリ遠隔ナル間接ノ利得ヲ云フニ非サルナリ何トナレハ利得ヨリ利得ヲ生スル無窮ニシテ率ニ不正ノ跡ヲ原スルニ由シナキニ至ルヲ以テナリト果シテ然ラハ犯人必ス他物ト換ヘテ轉々シ以テ沒收セラル、トテ免カル、ノ策ヲ索ルヲ怠ラサルヘシ贓物ヲ以テ買ヒ得タル物件ハ間接ニ得タル所ナリ即チ之ヲ沒收セサルカ又旅中住所氏名ノ知レサル者ノ金ヲ盜ミ其儘之ヲ他へ貸シテ利子ヲ生セリ然ルニ其利子ハ間接ノ利得ナルヲ以テ元金ノミヲ沒收シ利子ヲ沒セサルカ本項言ハスヤ其物件ハ所有主ノ知レ

サル故チ以テ之ヲ沒收スト是レ不正ノ所爲ニ因テ犯人ノ利得トナラノヲ恐レ爲メニ設ケタル所以ナリ故ニ直接ニ得タル物ハ勿論間接ニ得タル物ト雖モ能ク其跡ヲ審明シ今述ヘタルカ如キ類ニシテ知レ易シ現在ノ利益ハ之ヲ沒收シ立法ノ原旨ヲ貫通シ犯人ニ利益ヲ得セシメサルトニ注意セサルヘカラス

爰チ以テ之ヲ觀レハ夫ノ被害者カ贓物還戻損害賠償ヲ求ムルト同ク物件存スレハ之ヲ沒收シ若シ他物ニ換タルモ其物及ヒ其物ニ附帶シ生シタル現在ノ利得ハ之ヲ沒收シ犯人彌狡黠ヲ逞フスルニ從ヒ愈々利得ヲ收メ刑罰ヲ免カル、ノ僥倖ヲ得セシメサルヲ以テ法律ノ要旨ナリト云フモ不可ナキカ如シ

社會ノ安寧ヲ保全スル爲メ沒收スル應禁物トハ法律ノ禁止シタル兵器漁獵ノ具人心ヲ擾動スヘキ物件及ヒ風俗ヲ敗壞スヘキ圖書文書偽

造貨幣証書印紙官印阿片烟ノ類ナリ此物件ハ之ヲ以テ未ダ其罪ヲ行ハサル者ノ所有シタルモノト雖モ沒收シテ破毀スヘキモノトス之ノ實ニ政府ヨリ所持スルヲ禁シタル物ナレハ何人ノ持スル時ナリトモ沒收シテ至當ナリ

犯罪ニ因テ得タル物件トハ贖金ヲ以テ得タル正金或ハ貨物盜竊詐欺等ニ因テ得タル金穀物件及ヒ其物ヨリ生シタル現在ノ利益偽証人ノ受ケタル禮金不正ノ所行ヲ爲スカ爲メ官吏ノ受賍又ハ受クヘカラサルヲニ付テ官吏ノ受ケタル禮金等はナリ第二三項ノ物件犯人所有ナルカ又ハ所有ノ知レサル時ニ限り沒收スル理ハ不正ノ所爲ニ因テ故ナク犯人ヲ富マスヘカテサルト刑ハ犯人一身ニ止ルヘクシテ他人ニ及ホスヲ得サルヲ以テナリ

歐洲各國ノ現行法ニ於テハ悉ク犯人ノ財産ヲ沒收スルヲナク概テ今

述ヘタルカ如キ主意ナリト昔時ニ在テハ國事犯人ノ財産ヲ沒收シタルヲアリシカ該沒收ハ其刑犯人ノ一身ニ止ラス大ニ其親族ヲ苦シマシムルノ弊害アリシヲ以テ一般之ヲ廢シタリト

新律綱領改定律例ニ於テモ應禁物及ヒ犯罪ノ用ニ供シタル物犯罪ニ因テ得タル物件ヲ沒收セシハ本條ノ主旨ト同一ナレモ曩キニ例示セシ如キ間接ノ利得ヲ沒收セス且ツ糾治ノ法精密ナラサリシヲ以テ狡猾ノ犯人僥倖ヲ得タルヲ間々アリキ

問禁制物件ノ種類ト之ヲ沒收スルノ理由ハ已ニ聞クヲ得然ルニ其禁制物ナルヲ知ラス及ヒ之ヲ知ルモ其物體ヲ破毀スヘキ目的ヲ以テ藏置シタル場合ニ於テモ尙ホ之ヲ沒收スヘキモノカ例ヘハ偽造寶貨ナルヲ知ラス收受シ之ヲ潰スルハ半額ノ價アルヲ以テ潰シトセント欲シ藏置スルカ如キハ如何

答法律上禁制スル物件ハ總テ社會ノ安寧ヲ保チ風俗ヲ亂サ、ランカ
爲メ禁制スル所ニシテ社會中一日モ存スヘカラサルモノナリ故ニ
其之アルニ當テハ何人ノ有タルヲ問ハズ直チニ沒收スルヲ以テ仮
令其贖貨タルヲ知ラス收受シ後日潰スヘキノ目的タルモノト雖モ
未ダ潰サスシテ贖貨ノ形ヲ變セサル時ハ悉ク沒收スヘキモノトス
且夫ノ單ニ其犯罪ニ就テノミ之ヲ沒收スルニ止マラス如何ナル場合
ト雖モ亦之ヲ拘收スルヲ得ヘシ例ヘハ今他ノ犯罪ノ爲メ人ノ家宅ヲ
搜索スルニ際シ應禁物件アルヲ見レハ仮令犯罪ノ本件ニ關係ナキモ
何人ノ所有タルヲ問ハズ臨檢セシ官吏直チニ之ヲ拘收ノ處置ヲ爲サ
ルヘカラス故ニ犯人ノ手許ニ現在スル物ハ勿論轉展シテ他人ノ手
ニ存スルキタリモ人民之ヲ所有スルノ權ナキ禁制物件ハ沒收スヘキ
勿論ナリ

第四節 徵償處分

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但費用ノ
額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

此條ハ刑事裁判費用ヲ犯人ニ科シ其定限ハ別段規則ヲ立ルモノトセ
リ之レ此刑法中ニ記スヘキモノニ非サレハナリ
犯人其犯罪ノ爲メニ生シタル裁判費用ヲ拂フヘキハ當然ノ義務ナリ
歐洲各國皆此法ヲ設ク之レ此義務ハ各人其過失ヨリ生シタル損害ヲ
償フヘキ性法ノ原則ニ基キタルモノナルヲ以テ我立法者モ亦之ヲ採
用シタリ然リ而シテ佛國ハ科スルヲ得ルノ語ヲ用ヒタリ其主意タ
ルヤ科スルモ科セサルモ隨意ナルノ語ナリ故ニ本邦ハ科スト記シタ
リ是レ最モ至當ノ編纂ナリ
如斯裁判費用ヲ償ハシムルハ犯人ノ義務ニシテ刑罰ニ非ス故ニ其義

務ヲ免カル、ハ民法ニ定ムル期滿免除ノ規則ニ從フモノトス
然ルニ刑法之ヲ刑罰ノ章ニ加ヘタルハ本刑ニ附帶シテ生スルモノナ
レハナリ而シテ此事ヲ記スルニ相當ナル地位ハ本節ノ外ニアルコトナ
シト信ス

治罪法ヲ閱スルニ被害人若シ告訴ニ止ラス民事原告人トシテ檢事ト
協力シ証人ヲ呼出シ証書ヲ記シ鑑定ヲ求ムル等ノコトヲ爲サシムルヲ
得是等ノコトヲ爲スニハ若干金ヲ費サ、ルヲ得ス此費用ハ被告人ニ返
償セシム又檢事モ同様ノ費用ナキヲ得ス其費用ハ官ニ於テ一時立替
置被告人無罪不同ノ場合ニ於テハ官ノ損失トナシ刑ヲ宣告シタル時
ハ犯人ニ擔當セシムヘキモノトセリ
然レモ裁判入費ハ區別ナク科シ又ハ宣告セスシテ科スモノニ非ス法
官必ス之ヲ宣告スヘキモノトス

又幾分ヲ原告人

(被告人或ハ檢事ヲ云フ)

ノ擔當トシ其餘分ヲ犯人ニ拂ハシムルコ

モアルヘシ斯ノ如ク其費用ヲ分ツハ訴訟ノ適度ニ過ルコトナキヲ保セ
サレハナリ例ヲ擧テ之ヲ示サン

例ヘハ違警罪ナルヘキヲ輕罪ト誤認糾治シ又ハ輕罪ヲ重罪ナリト誤
ルコトナキヲ保スヘカラス犯罪重大ナレハ其手續鄭重ニシテ証人モ多
數ヲ要シ調書モ隨テ多少旅行運輸ノ距離モ遠キモノナレハ裁判費用
隨テ多キハ勿論ナリ官吏又ハ他人ノ爲メニ誤認セラレ因テ生スル過
分ノ費用ヲ被告人ニ於テ負擔スヘキ謂レナキヲ以テ其幾分ヲ原告人
ニ拂ハセサルヲ得ス之レ本條殊ニ全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科スト記シ
タル所以ナリ

歐州各國ノ法律ニ於テモ右ニ述タル主旨ト異ルコトナシ

日本ニ於テハ裁判入費ヲ犯人ニ科シタルコトナシ此法律ヲ以テ創設ナ

務ヲ免カル、ハ民法ニ定ムル期滿免除ノ規則ニ從フモノトス
然ルニ刑法之ヲ刑罰ノ章ニ加ヘタルハ本刑ニ附帶シテ生スルモノナ
レハナリ而シテ此事ヲ記スルニ相當ナル地位ハ本節ノ外ニアルナ
シト信ス

治罪法ヲ閱スルニ被害人若シ告訴ニ止ラス民事原告人トシテ檢事ト
協力シ証人ヲ呼出シ証書ヲ記シ鑑定ヲ求ムル等ノヲ爲サシムルヲ
得是等ノヲ爲スニハ若干金ヲ費サ、ルヲ得ス此費用ハ被告人ニ返
償セシム又檢事モ同様ノ費用ナキヲ得ス其費用ハ官ニ於テ一時立替
置被告人無罪不問ノ場合ニ於テハ官ノ損失トナシ刑ヲ宣告シタルハ
ハ犯人ニ擔當セシムヘキモノトセリ
然レモ裁判入費ハ區別ナク科シ又ハ宣告セスシテ科スモノニ非ス法
官必ス之ヲ宣告スヘキモノトス

又幾分ヲ原告人(被告人或ハ檢事ヲ云フ)ノ擔當トシ其餘分ヲ犯人ニ拂ハシムル
モアルヘシ斯ノ如ク其費用ヲ分ツハ訴訟ノ適度ニ過ルヲナキヲ保セ
サレハナリ例ヲ擧テ之ヲ示サン
例ヘハ違警罪ナルヘキヲ輕罪ト誤認糾治シ又ハ輕罪ヲ重罪ナリト誤
ルヲナキヲ保スヘカラス犯罪重大ナレハ其手續鄭重ニシテ証人モ多
數ヲ要シ調書モ隨テ多ク旅行運輸ノ距離モ遠キモノナレハ裁判費用
隨テ多キハ勿論ナリ官吏又ハ他人ノ爲メニ誤認セラレ因テ生スル過
分ノ費用ヲ被告人ニ於テ負擔スヘキ謂レナキヲ以テ其幾分ヲ原告人
ニ拂ハセサルヲ得ス之レ本條殊ニ全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科スト記シ
タル所以ナリ

歐州各國ノ法律ニ於テモ右ニ述タル主旨ト異ルヲナシ
日本ニ於テハ裁判入費ヲ犯人ニ科シタルヲナシ此法律ヲ以テ創設ナ

リトス但其費用ハ皆官費ナリキ

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレ、ト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カル、トテ得ス

本條ハ法律ノ明文ニ因リ被告人刑罰ニ處セラレ又ハ其所爲道義ニ背キ且社會ヲ傷ルモノト雖モ罰スヘキ正條ナク又ハ期滿免除ヲ得タル等ニテ放免セラレタリモ被害者ヨリ請求セラル、贓物ノ還給因テ加ヘタル損害ノ賠償ハ免ル、トテ得サルヲ示ス

民事ノ賠償贓物ノ還給モ亦刑罰ニ非ス贓物ヲ物主ニ返還シ他人ニ蒙ラシメタル損害ヲ賠償スルハ天然ノ義務ナリ

故ニ本條犯人ヲ刑ニ處スモ還給賠償ノ責ヲ免レサルトテ明記セリ畢竟刑ハ安寧ヲ害セラレタル社會ノ損害ヲ償フノミナレハ被害人ノ損害モ償却セサルヲ得ス決シテ刑罰ト同視スヘキノ理アルトナシトス

放免ノ場合ニ於テ其義務ヲ免カレサルハ亦以テ其刑罰ニ非サルトテ証スルニ足レリ實ニ刑事ニ過失ナキ時ト雖モ民事ノ過失ナキヲ得ス例ヘハ予誤テ他人ノ物件ヲ取ルモ固ト誤謬ニ出タルモノナレハ盜罪ノ刑ハ免カルヘシト雖モ予ハ其物件ヲ物主ニ返還セサルヲ得ス若シ已ニ消費シタル時ハ其價ヲ賠償セサルヲ得ス

此賠償ハ其罪過ノ本人及ヒ之ヲ人ニ命シタルカ爲メ又ハ其人ニ對シ威權アリテ其之ヲ行フル止メサル過失ノ爲メ民法ノ規則ニ從ヒ其行爲ノ責ニ任スヘキ者之ヲ擔當スヘシ即チ幼者ノ加ヘタルハ其父兄弟子ノ加ヘタルモノハ其師ヨリ賠償スヘキノ類ナリ

抑モ本條記スル所ハ治罪法ニ係ルモノニシテ刑法ニ關スル公ケノ訴(即チ刑事ノ訴ニシテ檢事社會ノ代人ト爲リ原告求判スル者)ト被害人ヨリ起ル贓物還給損害要償ノ私訴(即チ民事原告人トナリ人民請求ス

ルモノトノ區別ニ在リ此二個ノ訴ニ關スル規則ハ治罪法ニ載スル所ナルヲ以テ該訴ハ何レノ裁判所ニ訴フヘキカ且如何ナル規則ニ依ルヘキヤハ諸君ノ知ル所ナルヘシト雖ヒ尙ホ其大要ヲ第四十八條下ニ於テ説示スヘシ

本條記スル所モ亦歐州諸國ノ法律ニ可決スル所ナリ本邦ニ於テモ素ヨリ被害者ニ要償ヲ求ムルノ權アリト雖ヒ未タ成法ノ公示セラレシモノナク而シテ人民モ其權アルヲ講究セサルヲ以テ其損害ヲ要求セシ者甚タ稀ナリシカ立法者ハ正理公道ニ基キ各國ノ法律ヲ酌ニ妥ニ始メテ之ヲ求ムヘキト其手續ト示シタリ公衆ヲ保護スルノ道ヲ尽セリト謂ツヘシ

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

本條ハ共犯者ヘ費用還給賠償ヲ連帶セシムヘキヲ示ス前條ニ一層嚴格ノ度ヲ加ヘタルモノト云フヘシ故ニ一罪事ヲ以テ二人以上共ニ民事又ハ刑事ノ宣告ヲ受ケタル時其數人ハ分ケテ其幾分ヲ償フヲ得ス必ス皆連帶シテ其全部ヲ擔當スヘシ

其連帶擔當ノ結果ハ最モ緊要ノ論題ナリト雖ヒ夫等ハ民法ニ屬スヘキモノナルヲ以テ爰ニ其概要ヲ述ヘ其詳細ノ如キハ他日民法ノ頒布ヲ待テ論究スヘシ但シ今述ヘント欲スル所ハ佛國法ニ基キ最モ正理公道ト信スルモノニ係ル

連帶擔當セシムル所以ノ者ハ其結果ヲシテ債主ニ不償ノ患勿ラシメシカ爲メナリ負債者中其義務ヲ拂フヲ得ル者アレハ他人ニ代リテ之ヲ拂ハシムルニ在リ如斯ナルキハ犯者或ハ其結果ヲ恐レ犯罪ヲ中止スルノ助ケトナルモ亦ナシトセサルヘシ之レ天理公道ニシテ社會公

衆ヲ保全スル法ト云ツヘシ
然リ而シテ其他人ニ代リシ者ハ他ノ連帶者ニ一己一身ノ割前ヲ請求
シ得ヘキハ勿論ナリ之レ費用還給賠償ハ刑罰ニ非サレハナリ若シ之
ヲ刑ナリトセハ各人其全部ヲ負擔スヘキト恰モ體刑罰金ノ如ク爲サ
ハルヲ得ス

佛國刑法ニ於テハ連擔ノ理ヲ推シテ之ヲ罰金ニ及ホセリ故ニ第二十
七條ニ於テ論述セシ如ク太ク不正不理ノヲナルハ世人ノ普ク知ル所
ナリ例ヘハ此ニ罪事ニシテ數人禁錮ノ刑ニ處セラレタルニ其内一人
逃亡シテ其刑ヲ受ケサルハ其共犯者ヲシテ自己ノ刑ヲ受ケ了リシ
後ニ逃走者ニ代リ禁錮ヲ受クヘシト云ハ、誰カ其不正ニ非スト云フ
ヤ罰金連擔法ノ如キハ豈此例ニ異ナルアラシヤ爰ヲ以テ佛國刑法ヨ
リ後ニ制定スル歐州諸國ノ法律ハ佛典ニ則リシモ此ノ如キ不正不理

ノ條ヲ設ケス日本モ亦之ニ倣ハス

草按ニ於テハ起草者犯人ノ過失ニ適當スヘキ費用賠償ノ義務ヲ盡サ
シメノヲ欲シ情狀ニ因テ其連擔ヲ解除シ或ハ之ヲ制限スルノ自由
ヲ法官ニ許スヘキモノトシタレトモ此法典ハ是等ノヲ爲ヌヲ得セシ
メス故ニ如何ノ情狀アルモ此義務ヲ解除制限スルヲ得ヌ必ス連擔セ
シムヘキナリ

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑
事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求
ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

本條費用還給賠償ハ刑事附帶ノ民事ナルヲ以テ民事法廳ヘ訴フヘキ
モノナレトモ刑事法廳ハ已ニ其主タル犯罪ヲ糾治シ其情狀ヲ明知シ且
証人ノ供述其他ノ証憑具備シ甚タ便利ナルヲ以テ刑法廳之ヲ審判シ

贓品犯人ノ手ニ現存スル時ニ限り請求ナキモ之ヲ物主ニ還付スヘキ
ヲ示ス

第四十六條ヲ講述スル最終ニ約シタル如ク公訴私訴ノ概要ヲ述ヘン
例ヘハ爰ニ盜竊ヲ爲ス者アラン檢事之カ原告トナリ其罪ヲ罰スヘキ
ノ刑ヲ求メ被盜人ハ其盜取セラル、贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ求ムル
訴ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ刑事ノ訴訟(即チ檢事ノ求刑)ハ判決シ終
ルモ民事ノ訴訟(即チ被盜者ノ還戻要償ノ訴)未ダ終ラサレハ完全ナル
訴訟ニ非ス該件全ク落着セサルナリ夫レ公訴ハ罪ノ種類ニ因リ各其
裁判所ヲ異ニスヘキハ論ヲ待タサレモ其損害要償ノ訴ハ檢事ニ於テ
其犯罪ヲ起訴シタル場合ニ非サレハ刑事裁判所ニ訴フヲ得ス必ス
民法ニ因リ民事裁判所ニ訴ヘサルヘカラス而シテ此場合ニ於テハ刑
事ノ訴確定裁判ノ了ラサル間ハ民事ノ裁決ヲ中止セサルヘカラサル

モノトス何トナレハ時トシテ民事刑事各其裁判ヲ異ニシ大ナル不都
合ナキニ非サルヲ以テナリ
例ヘハ甲所有ノ物品ヲ乙ニ盜竊セラレタルニ甲者乙者ニ對シテ盜犯
ノ訴ヲ閣キ直ニ贓品還償ノ訴ヲ爲ス時民事裁判所之ヲ受理シ其盜取
セシヲ判然タリトテ刑事裁判ヲ待タズ贓品還戻ノ裁判ヲ爲シタル後
刑事ノ裁判ヲ爲スニ及ンテ法官ノ認定ニ因リ盜竊ニ非スト判決シ互
ニ反對ノ裁判ヲ爲スノ大不都合ナキヲ保スヘカラス仮令民事刑事全
一ノ裁判ヲ爲スモ或ハ其裁判ヲ目シテ彼ハ民事裁判ニ根據シ壓制ノ
裁判ヲ爲シ意外ノ冤罪ニ陥リタリ杯ト流言シ其弊害ナキヲ得ス故ニ
或ハ民事刑事ノ訴全時ニ起リ又ハ民事ノ訴先キニ起ルヲスルモ皆刑
事裁判ノ確定ヲ待サルヘカラス
然リ而シテ民事刑事裁判所各其權限アリ其權内ニ非サレハ之ヲ受理ス

ルヲ得スト雖モ刑事附帶ノ民事ハ異ナル所アリ例ハ被害者ノ私訴ト公訴トナ同時ニ輕罪裁判所ニ出訴スルモ其性質重罪トナル時ハ之ヲ重罪裁判所ニ移サ、ルヲ得ス此場合ニ於テハ刑事附帶ノ小事ト雖モ俱ニ重罪裁判所ニ於テ其償却ヲ命スルノ權アリ違警罪ノ輕罪トナリシ場合ニ於テモ亦同一ナリトス

第五節 刑期計算

第四十九條

刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

本條ハ刑期計算ノ方法ヲ規定ス有期ノ刑ニハ之ヲ始ムル日ト終ルヘキ日トヲ刑典ニ明示セサルヘカテサルヲ以テナリ
而シテ法官ノ宣告スル所ノ刑ハ左ノ三個ナリトス

一 一日乃至數日

二 一月乃至數月

三 一年乃至數年

第一ノ場合ニ於テハ二十四時間ヲ其刑ノ日數ニ乘スヘシ

然レモ入獄ノ日ハ時間ノ早晚ヲ論セス一日ト算入シ出獄ノ日ハ刑期

ニ算入セサルヲ以テ必スシモ二十四時ヲ待テ出獄セシムヘシト云フニハ非ス

例ハ禁獄一日ノ宣告ヲ受ケタル者ハ當日午後十二時ニ至レハ即チ

其一日ハ過キタルモノト雖モ夜間放免スルハ甚ク危險ヲ生スルノミ

ナラス受刑者其家ニ歸ラントスルモ其寓居ヲ求メントスルモ不便ナ

ルヲ以テ翌朝ニ至テ之ヲ放免スルノ類ナリ

草按ハ受刑ノ日ヲ一日トナシ出獄ノ日ハ正午十二時ヲ以テ一日ト爲

スモノト記シタルヲ以テ大ニ不公平ヲ生スルヲアルヘシト論シタリ
 シカ此刑典ハ之ヲ改正シタリ例ヘハ午前十一時ニ入獄セシメタル者
 ハ其日ノ正午十二時ニ至テ放免セサルヘカラス午後一時ニ入獄セシ
 ムル者ハ翌日放免スルノ類豈不公平ヲ生スルニ非サルカ
 受刑ノ日チ一日ト計算スルハ監獄ノ便チ慮リシモノナリ若シ入獄ノ
 時刻ト出獄ノ時刻トチ必ス同時ニ爲サシムルモノトセハ一々其時限
 チ掲記セサルヘカラス計算方最モ煩雜ヲ生スヘシ故ニ時刻ノ早晚チ
 問ハス一日ト爲ス之レ官ニ便ニシテ人民ニ益アルノ方法ト謂ツヘシ
 第二ノ場合ニ於テハ三十日ニ其刑ノ日數チ乘スヘシ是又月ニ二十八
 日チ以テ一月トスルアリ三十日アリ三十一日ナルモノアリテ不公
 平ヲ生スルヲアルヘケレハ三十日チ以テ一月ト爰ニ定メタリ
 第三ノ場合ニ於テハ曆ニ從フ故ニ其受刑者ハ其刑チ始メタル日ト同

日ニ至ラサレハ出獄スルヲ得ス或ハ閏年ニ際スレハ犯人ニ一日ノ
 損アリ如斯ハ法律ニ簡便ニシテ受刑者ニ些々タル加重ト謂ツヘシ

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ス

本條刑ハ何レノ日ヨリ起算スヘキヤチ示シタルモノナリ刑ノ宣告ハ
 控訴上告チ許ス例ヘハ缺席裁判ノキハ之ヲ宣告シタル法衙ニ故障チ
 申立裁判不當ナレハ控訴チ爲シ而シテ何レノ場合ニ於テモ上告シテ
 破毀チ求ムルヲ得ルカ如シ故ニ控訴又ハ上告チ受ケタル法廳ニ於
 テ宣告シタル時又ハ其期限ノ過タル時ニ非サレハ本條ニ記スル確定
 ト爲スヲ得サルモノトス

本邦從來抗傳裁判ノ法チ設タルヲナシ此刑典ニ創設シ而シテ今述
 ル如シ裁判確定トナル場合ニ種々區別アルヲ以テ先ツ抗傳裁判ノ
 チ説クヘシ

第五十九條ヲ閱スルニ死刑ハ三十年無期徒流刑ハ二十五年有期徒流刑ハ二十年重懲役重禁獄ハ十五年輕懲役輕禁獄ハ十年ヲ以テ期滿免除ノ期限トストアリ故ニ重罪犯ノ抗傳裁判ハ該年限内ハ確定セス何トナレハ本犯此限内ハ何時タリテ故障ヲ爲スヲ得レハナリ(治罪法第四百七條參看)

又禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ七年間其裁判確定セス(治罪法第三百五十六條參看)但此故障ハ知り得タル日ヨリ三日内ニ限ル罰金及ヒ違警罪ハ其言渡書ノ送達アリシ日ヨリ三日間ニ故障ヲ爲スヲ得レハ是亦其間裁判確定セス(治罪法第三百三十二條及ヒ第三百五十五條參看)

右ニ述ルカ如ク抗傳裁判ニハ區別アルヲ以テ其對審裁判ト同一視スヘカラス而シテ對審裁判ノ場合ニ在テモ種々區別アリ次條ニ之ヲ説

カン

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トテ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルヲ得ス

本條モ亦刑期計算ノ方法ヲ規定ス而シテ該條ハ對審裁判ノ場合ニ限ルモノトス

夫レ重罪裁判所ノ言渡及ヒ違警罪ニシテ輕罪裁判所ノ言渡ハ終審ノ

權ヲ有シ控訴スルヲ得サレハ之ヲ確定ト爲スヘキカ如シト雖モ大
 審院ニ上告ヲ爲スノ道アレハ未タ以テ確定ト爲スヘカラス故ニ上告
 ノ期限三日間ハ確定セス而シテ此期限内犯人上告セサルキハ即チ確
 定シ刑期ノ計算裁判宣告ノ日ニ遡ル
 若シ上告ヲ爲シタル時ハ大審院ノ判決アル迄多少ノ時間刑ノ執行ヲ
 止ム此時間犯人ノ上告ニシテ正當ナラサルキハ刑期内ニ算入セス大
 審ノ宣告ヲ受ケタル日又ハ大審院ノ裁判傳達方ヲ受ケタル裁判所於
 テ宣告シタル日ヨリ起算ス此場合ニ於テハ刑期ノ外ニ多少ノ時間拘
 留セラル、モ犯人自ラ取ル所ナレハ之ヲ刑期ニ算入スヘキノ理由ア
 ルヲナシ之ニ反シ其上告正當ナルカ又ハ正不正ヲ問ハス檢事ノ上告
 ニ係ルキハ前宣告ノ日ヨリ起算ス其理由ハ認メ難カラス裁判失當ノ
 爲メ又ハ受刑者其裁判ニ服シタルニ社會ノ代人タル檢事之ヲ上告シ

刑期外ノ日數ヲ拘留セラルヘキ道理ナキヲ以テナリ之レ本條第一第
 二ニ明記セシ原由ナリトス然レモ受刑者拘留セラレサルカ又ハ保釋
 チ免サレタル時ハ繫留ノ辛苦ヲ受ケス自由ヲ停止セラレタルニ非サ
 ルヲ以テ本犯ノ上告ト檢事ノ上告トヲ問ハ其日數ヲ刑期ニ算入スヘ
 キ理由ナシ佛國ニ於テハ檢事ノ上告ト犯人ノ上告トヲ分クテ裁判確
 定ノ日ヨリ起算スルヲ以テ犯人ハ不幸ヲ蒙ルコトアリ故ニ法學士ノ
 論難シテ止マサル所タリ今其不幸ノ最モ大ナル一例ヲ示サソ例ヘハ
 甲ノ裁判所ニ於テ重禁錮一年ニ宣告シ犯人之ニ服従スルニ檢事之ヲ
 上告シ大審院其裁判ヲ破毀シ乙裁判所ニ移サレ終ニ重禁錮四年ノ言
 渡ヲ受ケタルカ如キ元ト之レ甲裁判所ニ於テ刑ノ適用ヲ誤ルニ因ル
 ト雖モ其失ヲ負ハスヘカラサル犯人ヲシテ爲メニ幾多ノ日時ヲ拘留
 ノ艱苦ニ逢ハシメ而シテ更ニ刑期ヲ遠長ス豈不幸ナルニ非サル乎又

禁錮百日ノ宣告ヲ受ケ犯人ニ服従シタルニ檢事之ヲ上告シ二百日ヲ經ケル後大審院ヨリ原裁判所ヲ適當ナリトシタルカ如キハ前後三百日間禁錮セラル本邦ニ於テハ是等ノ不都合ヲ避ク爲メ本條ヲ設ケ且禁錮百日ノ宣告ヲ受ケタル犯人ニテ上告シ若シ百日ヲ經ルモ大審院ノ判決到達モサルハ仮ニ釋放シ犯人ヲシテ不幸ニ陷ラシメサルヲ慣習法トス新律綱領改定律例ニ於テハ上告ヲ許サズ宣告ノ日ヨリ直チニ刑ヲ執行セシテ以テ都テ刑期計算方ニ異ナルヲナカリシカ明治七年初メテ治罪ノ法ヲ改良シ犯人及ヒ檢事ニ上告ノ權ヲ與ヘタルヨリ爾來本條ニ記スル所ト其主旨ヲ異ニセズ

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

本條ハ犯人刑期限内逃走シテ再ヒ就縛セラル、キハ其逃走ノ日數ヲ

刑期ニ算入スヘカラサルヲ記ス

逃走ノ日數ヲ刑期ニ加ヘス犯人ノ利益ト爲スヘカラサルハ勿論ナリト雖モ其逃走ノ日ヨリ第五十九條ニ記シタル期限ヲ經過シタル後ハ決シテ其刑ヲ受ルヲナシ

逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ストアルヲ以テ逃走シタル日及ヒ就縛ノ日ハ刑期ニ算入スルヲ得ス例ヘハ逃走ノ犯人遺隔ノ地ニ於テ捕獲セラレ護送ノ爲メ數日束縛セラル、モ其日數ヲ刑期ニ加ヘサルナリ但シ捕獲即日服役セシムルカ又ハ定役ニ服セサル囚人ニシテ即日元ノ監獄ニ幽閉セラレタル者ハ時間ヲ論セス其日ヲ以テ刑期ニ加ヘサルヲ得サルモノトス

新律綱領ニハ役限内逃走スル者ヲ從新拘役シ再逃スル者ハ絞ニ處シ其後時々布告ヲ以テ改良シ現今ハ止マ棒鎖ヲ科シテ從新拘役スルモ

ノト雖在 新典ハ從新拘役ノ法ヲ用ヒス草按ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ暴行
アルニ非サレハ逃罪ヲ問ハサルモノト起草セシカ此刑法之ヲ罰ス
第六節 假出獄

本節ニ記スル所ノ出獄ハ罪ノ未タ定マラサル者ニ許ス保釋ト相同シ
カラス已ニ刑ニ處セラレタル後身持ヨキ者ニノミ許スナリ
無期徒刑ニ處セラレシ者モ亦此恩典ヲ受ルヲ得其理ハ後條ニ説クヘ
シ有期ノ刑ニ處セラレシ者ニ此恩典ヲ與フルハ大ニ社會ノ利益トナ
ルヘシ何トナレハ此徒ヲ許シテ仮ニ出獄セシムルモ毎ニ警察官ノ監
察ヲ受ケ生活ヲ營マシムヘキヲ以テナリ且其事タル受刑者ヲシテ著
シク勵精シ入獄ノ日ヨリ善行ヲ爲サシムルヲ得ヘシ其詳細ハ後條
ニ示サン

毆州諸國ノ内伊太利ヲ除クノ外未タ假出獄ノ法アルヲ聞知セス而シ

テ此出獄ナルモノハ佛國ノ假赦宥ト大ニ其性質ヲ異ニス混スヘカラ
ス(佛國治罪法第百
十三條以下見合)

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀ア
ル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ仮ニ出獄ヲ許
スヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外仮出獄ノ例ヲ用ヒス

本條ハ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者能ク獄則ヲ守リ真心悔悟ノ實
跡顯ハル、者ニ限リ仮ニ出獄セシメ特別ニ設ケタル監視ニ附スヘキ
ヲ示ス而シテ有期ノ刑ナレハ其刑期四分ノ三無期ノ徒刑ハ十五年ヲ
經過シタル後ニ限ルモノトス
流刑ノ囚ハ第二十一條ニ説タル如ク獄ヲ出シテ住居セシムルノ法ア

ルヲ以テ本條ノ恩典ヲ受クヘキコトナキハ勿論ナリトス
此恩典ハ善行ヲ爲シテ其悔悟ノ真心ヲ証明スルヲ要ス而シテ仮出獄
ハ命令アルニ非サレハ許サ、ルハ論ヲ待タズ其善行アルハ平常之ヲ
目視スル監獄署長ノ報告ニ因リ行政官之ヲ許ス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ仮出獄ヲ許サル、ト雖モ仍ホ島地ニ居住セシ
ム

本條ハ徒刑ニ處セラレシ者ハ仮出獄ノ恩典ヲ受ルモ島地ニ居住セシ
ムルコト示ス之レ當然ノコトナリ但シ懲役以下ノ囚徒ハ自宅ニ居住ス
第五十五條 仮出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾
分ヲ免スルコトヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

本條仮出獄ノ恩典ヲ受ケタル者ニ治産禁ノ幾分ヲ許スコトアルヘキヲ
記ス

仮ニ出獄スルヲ得ルモ自ラ財産ヲ治ムルコトヲ得サルハ實際甚不便
利ナル場合アルヘキヲ慮リ立法者ハ仁慈ニシテ公益アルヘキ良法ヲ
定メテ若シ其囚人ナシテ悔改スルモ益ナカラシムルハ新タニ重
罪ヲ犯シ受刑ノ辛苦ヲ脱セント欲スルコトアルヘシ
然レモ固ト重罪ヲ犯ス程ノ者ナレハ果シテ善行ヲ爲シテ社會ヲ害
スルコトナキヲ保スヘカラス故ニ特別ナル監視ニ附ス此ニ特別ナル監
視トアレハ以テ一般ニ用ル附加刑ノ監視ト異ナリ嚴密ヲ加ヘ受刑者
ヲシテ毎ニ其定メタル地ニ住セシメ専ラ生計ノ手段ト行狀トヲ洞察
シ若シ身持宜シカラサレハ忽チ之ヲ捕ルコトヲ得ルノ方法ナルヲ推知
スヘシ但シ其規則ハ別ニ布告シテ細目ヲ公ケニセラルヘシ
第五十六條 仮出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止
シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

本條ハ仮出獄ヲ許サレタル者警察官ノ訓戒ヲ用ヒス其期限中罪ヲ犯シタル者ハ出獄ノ恩典ヲ取消サレ其日數ハ本刑ノ内ニ算入セサルヲヲ記ス

此ノ如クナル時ハ犯人益品行ヲ正フシ大ニ改良心ヲ増サシムルヲアルヘシ

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ仮出獄ヲ許サス

本條ハ仮出獄ヲ許サレ其期限内重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ此自由ヲ失ヒ刑期間再ヒ其恩典ヲ授ケルヲナク前刑ノ殘期後刑ノ全期ヲ受クヘキヲ示ス

然レモ其犯ス處若シ他ノ罰則又ハ違警罪ナル者ハ仮出獄ノ自由ヲ失ナハス罰金ノミト雖モ輕罪以上ノ刑ナレハ之ヲ失フモノトス身持不長ノ故ヲ以テ此假出獄ノ恩典ヲ失ナハシムルヲ許サス若シ

之ヲ許ス者ハ行政官ヲシテ隨意ノ念ヲ生セシメ其受刑者ヲシテ其者ヲ怨ミ嫉妬ヤ誣告ノ爲メニ自由ヲ失ハシムル等ノ弊害ヲ生スヘシ故ニ之ヲ失ハシムルノ効ハ其重罪輕罪ヲ判決シタル后ニ生セシムルモノトス

假出獄ノ例ハ伊太利ノ法ヲ斟酌シタルモノナルヘシト雖モ此法典ハ伊太利ノ法ニ勝ル數等ナリト謂フヘシ伊太利ニ於テハ單ニ不品行アレハ直チニ假出獄ノ効ヲ失フノ主意ナルヲ以テ未ダ重罪輕罪ヲ犯サ、ルモ其犯スヘキ景狀アルカ又ハ違警罪其他ノ罰則ヲ犯スカ或ハ更ニ罪ヲ犯スヲナキモ飲色ニ沈溺スル等其他ノ不品行アル者ハ直チニ出獄ノ恩典ヲ取消サル、モノト雖モ我邦ニ於テハ否ラス輕罪以上ノ罪ヲ犯シ斷決ヲ經タル時ニ非サレハ已ニ得タル假出獄ノ効ヲ失却セシムルヲ得サルモノトス之レ彼ノ法律ニ勝ルト云フ所以ナリ